

様式（評価機構フォーマット版）

令和 7 年度
自己点検・評価報告書
(専門学校等評価基準 Ver.5.0 準拠版)

令和 8 年 6 月 1 日

大阪ハイテクノロジー専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	基準6 教育活動の基盤と情報の公表.....	122
基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント	3	6-1 中期事業計画と財務基盤.....	122
1-1 教育理念、目的及び目標の設定等.....	3	6-2 学校運営.....	123
1-2 職業教育のマネジメント体制の整備.....	4	6-3 社会からの理解と情報の公表.....	124
基準2 教育課程、教育の実施、学修成果	6		
2-1 教育課程の編成と授業科目	6		
2-2 教育課程の実施.....	8		
2-3 単位・卒業認定.....	10		
2-4 学修成果目標の達成状況	11		
基準3 学生の受入れ、学生支援	98		
3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	98		
3-2 多様な学生に対する修学支援.....	99		
3-3 学生生活に関する支援.....	100		
3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援	101		
基準4 教員・教育実施組織	103		
4-1 教員の配置、募集、採用	103		
4-2 教員の組織編制等.....	104		
4-3 教員の資質の向上	106		
基準5 教育環境.....	119		
5-1 教育環境の整備点検、改善等.....	119		
5-2 安全対策、防災組織	120		

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和7年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決法策
「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッションとし、ビジョンは、3つの建学の理念（実学教育、人間教育、国際教育）を実践し、4つの信頼（学生からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を得ることである。これに従い、3つのポリシーを策定している。 【ディプロマポリシー】 「建学の理念」と「4つの信頼」に基づいて、「即戦力となる学生を育成し、社会に貢献することを最終目標」とし、特定の職業に従事するために必要な技術・知識、態度、考え方をもった学生を社会・業界に送り出すこととしている。 【カリキュラムポリシー】 「建学の理念」と「4つの信頼」を実現するために、「専門職業教育」と「キャリア教育」を体系的に一体化した職業人教育のカリキュラムと、海外研修等の国際教育を通じ国際感覚を身に付けるプログラムを提供する。 【アドミッションポリシー】 「建学の理念」と「開校の目的」に共感できる入学者を国内、国外問わず受け入れる。	[定性目標] 1. 教育：3つのポリシーに基づき、体系的な教育を展開し、学生の能動的な学修の充実を図り、資格試験合格率100%を目指す。 2. 就職：学科毎に行事や実習に応じた就職指導・キャリア教育を計画的に実施し、第1専門職就職100%を目指す。 3. 広報：社会のニーズに合致した教育内容を提供し、進路決定の早期化に対応し、学科ごとの特性に応じた情報発信を行っていく。 4. リスクマネジメント：法令・倫理を遵守し、教育機関としてのガバナンスを徹底する。収支バランスに留意し、経営基盤を固める。 5. 人材育成：学内外の研修受講を基盤として、次世代人材を育成する。 [定量目標] ・退学者 4.0%以内 ・国家試験合格率 100% ・就職率 3月末100% ・学生募集 全学科定員充足 ・学費完納率 100%	・退学者（4.0%以内） →4.3%※退学者の60%が1年次での退学となっている。 ・国家試験合格率（100%） 臨床工学技士：71.4% 柔道整復師：46.8% はり師：44.4% きゅう師：38.9% 診療放射線技師 68.2% ・就職率（3月末100%） →3月末 94.9% ・学生募集（全学科定員充足） →定員充足率 72.1% ・学費完納率（100%） →完納率 100% ・人材育成 →専門分野における 研修等への参加17種 共通分野における 研修等への参加23種	【退学者】入学後早期の職場体験で意欲や職業意識を高め、専門職に触れる機会を設けて目的意識の向上を図る。CSA結果を活用して生活環境や学習状況を把握し、担任と保護者が連動して早期対応を行う。また、教職員の継続的なスキルアップも進める。 【国家試験合格率】基礎学力や学習習慣の定着不足、学力下位層への支援体制に改善が必要。一方で、個別指導や補習による成績向上者も多く、支援体制の一定の効果も確認されている。 【就職率】就職活動の早期化に合わせ、早い段階から業界と協同して職業観を高め、就職活動へ繋げる。 【学生募集】18歳人口の減少と養成校の増加で募集困難な学科がある。社会ニーズに合わせたカリキュラム変更やコース設定で改善を図る。 【学費完納率】奨学金等を利用する学生が増加しているため、CSA結果や担任による面談等で常に学生を観察・把握し、生活環境の変化を早期に察知する必要がある。

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------

基準 1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント

総括と課題	今後の改善方策	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
建学の理念である(「実学教育」「人間教育」「国際教育」)は、昭和 62 年の開校当初より明確であり、学生便覧、学校ホームページ、学校案内等に常に明示されている。これらの建学の理念等は学校説明会やオリエンテーション、保護者会等の機会を用いて学生や保護者を始め関係者に周知されている。 社会の変化を速やかに教育に反映させるため、業界関係者等を構成員とする教育課程編成委員会を平成 25 年に設置している。これらの委員により常に新しい情報がもたらされ、教育カリキュラムや教育指導方法の改善を図っている。 学生便覧には各学科の教育目標、育成人材像、取得目標資格等が記載され、入学時にも説明を行い学生にも周知されている。また、卒業研究や海外研修プログラムなどの特色ある教育活動により、職業に直結した教育を展開している。 中長期的な学校の構想は法人で 5 か年計画や事業計画に定められており、教職員には学校内の会議等で、また学生・保護者・業界関係者にはホームページや学園新聞を用いて周知している。	・カリキュラム改善の可視化と検証 教育課程編成委員会での業界意見が、どの科目にどう反映されたかのプロセスを明文化する。さらに、卒業生・就職先調査と連動させ、現場ニーズとの合致度を多角的に検証する。 ・成果重視の教育評価と質保証 「育成人材像」の達成度を測る客観的指標(ルーブリック等)を導入する。特色ある教育(卒業研究・海外研修)の成果を追跡調査し、社会情勢に左右されない持続可能な質保証を行う。 ・中長期計画の具体化と進捗公表 法人の 5 か年計画を教職員個人の年度目標(KPI)へ落とし込み、組織的な達成体制を構築する。計画の「内容」だけでなく「進捗・達成状況」も透明性を高める。 自己評価 3.0	本校は平成 26 年 3 月 31 日、文部科学省より「職業実践専門課程」の認定を受け、令和 8 年 6 月現在、対象 10 学科すべてが認定されている。 これは、本学園が「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに、建学の理念を明確に掲げ、開校以来運営を行ってきた結果であり、本校の教育が社会的に評価されたことを示している。これにより、各学科の教育運営の責任がより重要になったといえる。 また、平成 30 年度には専門職高等教育質保証機構による第三者評価を実施し、本校の教育状況と運営状況の情報開示を行い、質の高い教育を提供できるよう努めている。 平成 26 年に「職業実践専門課程」の認定を受けた学科に加え、平成 31 年度(令和元年度)より診療放射線技師学科を新設し、生命工学技術科を「バイオ・再生医療学科」と「人工知能学科」へと改組しており、幅広い人材育成を目指している。

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
--------	-----------	-------	-------

基準 1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント

1-1 (1/1)

1-1 教育理念、目的及び目標の設定等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-1-1 教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科（コースを設置している場合はコースごと）ごとに育成する人材像を明確にしていること。	○当該専門学校の教育理念を踏まえた目的、目標が適切な決定過程により設定されているか ○設置している課程（学科、コースを設置している場合はコースごと）ごとに目的、目標、育成人材像が具体的に示されているか ○当該専門学校の教育理念、目的、目標と学科等ごとの目的等との関連性が明確になっているか ○また、入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、卒業認定方針との関連性が明確になっているか ○教職員、学生、社会に対して教育理念等が十分に周知・公表されているか	建学の理念「実学・人間・国際教育」に基づく学校目標を理事会等の適切な決定過程で設定し、各学科の目的や育成人材像を学生便覧やホームページで明示・公表している。これらは3つのポリシー（入学者受入れ・教育課程編成・卒業認定）と関連付けられ、学校説明会等を通じて周知している。また、社会や医療業界の変化を反映するため、教育課程編成委員会を設置し、最新情報を収集してカリキュラムや指導方法を改善することで、理念に沿った職業直結教育を組織的に展開している。	【長所】 高い公開性：開校以来の理念を多様な媒体や行事で学生・保護者・社会へ徹底周知している。 ポリシーの具現化：3P が海外研修や卒業研究などの「職業直結の教育」に連動している。 【課題】 改善プロセスの記録と更新：委員会の提言による授業改善の履歴を体系化し、DX 等の変化に合わせて人材像を常に更新する。 人材像のアップデート：医療 DX や技術革新、就職先ニーズを踏まえ、学科ごとの「育成人材像」を常に更新する。	【長所の伸長策】 理念のブランド化と発信：在校生・卒業生の活躍と理念を紐づけた情報発信を強化し、業界への信頼度を高める。 職業教育の展開：海外研修や業界連携の成功事例を全学科へ横展開し、DX 対応の教育へ高度化する。 【課題の解決策】 浸透度アンケートの実施：定期的に理念の理解度を確認し、オリエンテーション等の改善に繋げる。 改善カルテによる人材像更新：委員会の提言や就職先ニーズを授業へ反映する仕組みを体系化し、人材像を定期的に刷新する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学則・内規・学生便覧・教育指導要領 学校ホームページ・学校案内パンフレット・令和7年度事業計画・教育課程編成委員会議事録	本校は「実学・人間・国際教育」の理念と3つのポリシーを堅持し、情報公開や業界連携による柔軟な教育改善を強みとしてきた。今後は、委員会の提言や就職先ニーズを授業への反映を可視化し、DX 等の変化に合わせ、学科ごとの育成人材像を常に更新する組織的 PDCA を目指す。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
--------	-----------	-------	-------

1-2 職業教育のマネジメント体制の整備

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-2-1 職業教育を推進（教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等）するために必要なマネジメント体制（以下「職業教育のマネジメント体制」という。）を整備し、有効に機能していること。	○当該専門学校の目的を実現するために、学校内に具体的に職業教育を推進するための組織体制を整備しているか ○職業教育のマネジメント体制は有効に機能しているか	職業教育を体系的に推進（企画・設計・運用・検証・改善）するため、職務分掌や組織図に基づき教務部・事務部が緊密に連携するマネジメント体制を整備している。各種会議や委員会組織（教育課程編成委員会等）は事業計画等に明文化されており、意思決定や改善プロセスの議事録をすべて作成・保管することで、PDCAサイクルが有効に機能していることを担保している。また、学校運営に関わる各種規程、学則、就業規則は適切に整備・閲覧可能であり、社会や業界の変化に応じた規程の改正も、定められた手続きに則って厳格に実施している。	【長所】 会議体や規程、議事録の保管体制が確立されており、組織運営の透明性と手続きの正当性が高い。 【課題と解決策】 議事録の保管（運用の記録）に留まらず、各会議で決まった「職業教育の改善策」が実際に現場でどう実行され効果を生んだか、検証結果（Act）まで追跡・評価する仕組みをさらに強化する。	【長所の伸長策】 連携の可視化と迅速化：事務・教務の連携フローを確認し、学生支援や業界連携のスピードを上げる。 デジタルデータの共有：保管中の議事録をデジタル資産化し、教職員間で迅速に検索・共有して教育改善に活かす。 【課題の解決策】 効果検証ルールを導入：会議での決定事項が現場で実行され効果が出たか、追跡・検証する。規程の定期見直し：DXや法改正などの変化を先取りし、規程やマニュアルの定期見直しを年間計画に組む。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・学則・学科内規・学生便覧・教育指導要領・学科内規・各種会議議事録（学科長会議・全体会議・教務会議・事務局会議）・各委員会議事録・会議規定・事業計画	規程や組織図に基づき教務・事務が連携し、議事録の保管等を通じて正当性の高いマネジメント体制を構築しています。今後は事務・教務の連携フローを可視化し、デジタル資産として共有していく。また、会議での決定事項の効果を追跡・検証をすすめ、DXや法改正に対応した規程の定期見直しを年間計画に組むことで、さらなるPDCAの深化を図る。	3.0

終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
-------	-----------	-------	-------

基準 2 教育課程、教育の実施、学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
建学の理念に基づき、業界ニーズを反映した体系的・段階的な教育課程を編成している。各学科では、教育課程編成委員会を年 2 回開催し、産業界の最新動向をシラバスや実習内容へ可能な限り迅速に反映させる産学連携体制を構築している。教育の実施においては、シラバスに基づき、アクティブラーニングや豊富な企業・医療機関連携実習を展開することで、実践的な職業能力の育成に努めている。卒業認定は方針に基づき、厳格かつ公正な判定を徹底しています。学修成果については、詳細なデータ分析や実習ルーブリックにより修得状況を可視化し、個別指導を通じて、高い専門職就職率を維持しています。 一方で、課題として、急速な技術革新への即時対応や、学生間の基礎学力差に応じた個別支援のさらなる充実が挙げられる。また、外国人留学生向けプログラムの最適化や、全国に広がる卒業生・就職先からの意見をより体系的に収集・分析し、中長期的な教育改善へ確実に結びつけるための検証体制の強化が継続的に必要となる。 これらの教育活動の詳細は、大阪ハイテクノロジー専門学校の公式ホームページにおいても公開され、情報発信が行われています。	急速な技術革新や業界ニーズの変化に即応するため、教育課程編成委員会の構成を多様化し、最新のトレンドをシラバスや実務実習の内容に迅速に反映させる体制を推進する。学修支援においては、JWEB 等のデジタルツールを積極的に活用して自学自習の習慣化を促すと同時に、実技ルーブリックや実習マニュアルの共有を徹底することで、実習先による指導のばらつきを解消し、教育の平準化を進める。 また、学生間の学力差や外国人留学生の増加に対応し、早期のデータ分析に基づいた個別面談や補習指導などのセーフティネットを強固にする。学修成果の検証においては、卒業生や就職先からの意見をより体系的に収集・分析する仕組みを構築し、キャリアセンターと連携して中長期的な教育改善へと確実に結びつけていく。 これらの取り組みを通じて、本校の公式ホームページで掲げる「プロとして、現場の最前線で活躍できる人材の育成」と「高い専門職就職率」のさらなる向上を目指す。 自己評価 2.6	建学の理念に基づき、産業界と密に連携した体系的・段階的なプログラムを構築している点が最大の特徴である。各学科では、最新の業界ニーズを反映させるため、教育課程編成委員会を年 2 回開催し、実務家からの意見をシラバスや実習内容に反映させている。 特色として、鍼灸や柔道整復とアスレティックトレーナー (AT) の W ライセンス取得を目指す独自のカリキュラムや、バイオ・AI など最先端分野に対応した高度な専門教育を展開している。教育の実施では、豊富な企業・医療機関連携実習やアクティブラーニングを導入し、デジタルツール「J-WEB」を活用した自学自習支援も実施している。 卒業認定は、客観的な基準に基づき厳格に行われています。学修成果としては、「専門職就職率 100%」を目標に、入学直後からのキャリア教育や徹底した国家試験対策、さらには卒業後のキャリア調査を通じた継続的な教育改善を行っている。 特殊な事情としては、社会人学生の学びを支える夜間部の設置や、1 年間で集中して資格取得を目指す専攻科、外国人留学生へのきめ細かな日本語・職業教育支援など、多様な学習者に対応した教育環境を整備している。詳細は大阪ハイテクノロジー専門学校の公式ホームページでも公開されている。

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
--------	-----------	-------	-------

基準 2 教育課程、教育の実施、学修成果

2-1 (1/2)

2-1 教育課程の編成と授業科目 【まとめ】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	理念や3つのポリシーに基づき育成人材像への編成・実施方針を策定し、便覧等に明記している。教育課程は法令や指定規則を遵守し、基礎から臨床実習まで系統的・段階的に体系化。また業界の最新動向を反映するプロセスを確立し、科目配置や到達目標をシラバス等で全学に共有、組織的教育体制を構築している。	【長所】理念や各ポリシーに基づき基礎から臨床実習まで系統的に編成。進学やWライセンス取得など目標に応じたカリキュラムを構築し、便覧等で共有している。 【課題】入学時の学力差による専門科目の理解度への影響が課題。また、業界変化への適時対応、過密な学習負担、自学自習の個人差への対応が改善点である。	【長所の伸長】到達目標を明確化し、多様な外部委員の意見を取り入れ、業界との共同開発で教育の質の向上を図る。 【課題の解決】シラバスを工夫し業界の変化を柔軟な反映する。入学前教育や理数系補習を充実させ理解度データを教員間で共有する。個別面談や特別講座で学習サポートを強化する。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	産業界や地域との連携に向け、医療機関等の外部委員による「教育課程編成委員会」を設置。年2回の定期開催で最新動向や求める人材像の意見を聴取している。提言を教育課程の方針、シラバス改訂、実習改善へ具体的に反映させることで、社会のニーズに即した実践的教育を行う組織的PDCAが適切に機能している。	【長所】外部委員や卒業生との網羅的な連携で最新ニーズを反映。実習見直しや特別講義により、即戦力性の高い教育を維持している。 【課題】業界変化への適時な追従が課題。また、提言を非常勤含む全教職員へ迅速に周知する仕組みの強化や、指定規則に沿った教材・指導案作成の手順効率化が改善点である。	【長所の伸長】学年毎の到達目標を明確化し、多様な外部委員の意見を取り入れ、業界との共同開発で教育の質の向上を図る。 【課題の解決策】入学前教育や理数系補習の充実、理解度データの共有を進める。シラバスの柔軟な運用や早期面談、個別課題配布で過密カリキュラム下での学習を支援する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校において、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	日本語学科や臨床工学技士科等では、日本事情、医療制度、職場規範、ビジネス実務、面接指導等の科目を横断的に提供し、日本社会の理解促進とキャリア形成を支援している。また、キャリアセンターと連携した個別面談や日本語支援を通じ、就職に必要な知識・態度の育成を組織的に行っている。	【長所】 日本事情やビジネスマナー、面接指導といった科目を横断的に配置し、日本社会の理解や就労観を深める機会を組織的に提供できている。キャリアセンター等と連携した手厚い個別支援により、専門職としての就職・定着実績も上がっている。 【課題】 教育課程が日本人学生と共通のものが多く、留学生の言語能力や文化的背景に最適化されていない。学習内容や時間数の体系化が不十分なケースも見られ、学生間の習熟度差による個別指導の負担増、業界特有のコミュニケーション教育の強化が今後の改善点となる。	【長所の伸長】 日本事情科目やキャリアセンター連携による高い就職実績を活かす。今後は、活躍する卒業生をロールモデルとしたセミナーの実施や、現場特有のコミュニケーション教育の強化、企業とのマッチング精度の向上を通じて、学生の職業意識をさらに高めていく。 【課題の解決策】 言語能力や文化的背景の差に対し、入学初期からの日本語補習や個別フォローを徹底する。また、増加する留学生数に対応した習熟度別クラスの検討や教育プログラムの体系化・時間数の明確化を進め、個々の状況に最適化した組織的な支援体制を構築する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・学則・学科内規 ・養成施設指定規則 ・学生便覧・教育指導要領 ・シラバス	3つのポリシーに基づき、業界と連携した体系的な教育課程を編成・運営しています。留学生支援を含め組織的なPDCAが機能しており、教育の質は概ね高く維持されている。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	全学科でシラバスが作成され、ホームページ(Webシラバス)や学内システム、学生便覧を通じて学生に周知されている。各授業は科目特性に応じ、講義、演習、実習、アクティブラーニングなどの適切な形態で実施され、実務家教員やデジタル教材を活用した実践的な教育が行われている。 履修指導や学修支援は、オリエンテーションや担任による定期面談、J-webやTeams等のツールを用いて組織的に実施されている。成績評価は、シラバスに明示した客観的基準(筆記・実技試験、成果物等)に基づき公正かつ厳格に判定されている。	【長所】 評価基準は事前に明示され、公正・厳格な成績評価が実施されている。HP上のWebシラバス公開を含め、講義と実技の連動やアクティブラーニングの導入により、実践的な技術習得が促進されている。また、J-webや担任面談を通じた学修支援体制も整っている。 【課題】 学生間の基礎学力や習得スピードの差が専門科目の理解度に影響していることが共通の課題である。また、シラバスでの学習指示が自学自習の習慣化に結びついていない例もあり、個々の習熟度に応じた補習の充実や、ルーブリック等の多面的な評価手法の導入、自主学習を促す具体的な課題提示の強化が必要となる。	【長所の伸長】 業界の最新トレンドや実習を積極的に導入し、教育内容をより実践的にブラッシュアップする。また、ホームページで公開されているWebシラバスの活用に加え、J-webやTeams等のICTツールを活用した小テストやオンデマンド復習システムを推進し、学生が主体的に学べる自律的な学修環境の充実を目指す。 【課題の解決策】 平時からの小テストや振り返りシートで学修状況を早期に把握し、理解不足の学生への個別面談や補習を仕組み化する。さらに、教員間での学生データ共有を徹底し、アンケート結果を反映した授業改善を継続することで、厳格な評価を維持しながら全員を到達目標まで引き上げる指導体制を構築する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	職業実践専門課程の学科では、企業や医療機関と連携したインターンシップや臨床実習を体系的に実施している。教育課程編成において、総授業時数に占める連携実習・演習等の割合を適切に設定し、実践的な職業教育の質を担保している。実習の実施にあたっては、ホームページで公開されているシラバスや実習マニュアルに基づき、事前に協力機関と到達目標や評価基準を共有している。成績評価については、現場指導者による評価フィードバックや実習報告書の内容を本校の評価基準に反映させるなど、協働・連携して公正かつ厳格に判定を行う体制を構築し、適切に運用している。	【長所】 企業や医療機関と密に連携し、業界動向を反映した実習・演習を展開。現場指導者と到達目標を共有してフィードバックを成績に反映させることで、即戦力となる技術や職業倫理を効果的に養成している。また、Web シラバスを通じ評価基準の透明性も担保されている。 【課題】 連携先により指導環境や実習内容にバラつきが生じるほか、長期実習先の確保が困難な場合がある。医療技術の進歩への即応や国家試験対策との両立に苦慮するケースもあり、さらなる連携先の開拓と実習指導の平準化が求められている。	【長所の伸長】 主要な連携先との関係を深め、共同プログラム開発や学内特別採用選考を拡充して学生の職業意識を向上させる。全連携先で評価の共有を徹底し、指導の平準化と公正な成績評価体制を維持。Web シラバスに基づき、最新機器や業界トレンドを反映した即戦力教育を推進する。 【課題の解決策】 実習前の事前指導やマニュアルを精査し、現場の要求水準へ学生の能力を早期に引き上げるとともに、IT 分野等の新規連携先を開拓する。実習先からのフィードバックをシラバスや指導内容へ迅速に反映し、産学連携による継続的な教育改善を進める。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・学則・学科内規 ・養成施設指定規則 ・学生便覧・教育指導要領 ・シラバス	ホームページに全学科のシラバスを情報公開し、多様な授業形態による適切な教育と厳格な成績評価を実施しています。また、企業や医療機関と密に連携した実践的な実習を展開し、外部と目標を共有した公正な成績評価体制を適切に運用している。	2-2-1 2.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	学則や学科内規に基づき、育成人材像を実現するための卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。必要な単位数や出席率、成績評価基準等の要件は、オリエンテーション、学生便覧、シラバス等を通じて事前に周知。卒業認定は、これらの方針に則り、学校・学科責任者が同席する卒業判定会議にて実施される。判定プロセスでは、成績や出席、資格取得、学費納入状況等を総合的に加味する公平な体制を確立。ホームページでも学科の目指す人材像や Web シラバスを公開し、透明性を担保している。	【長所】 各学科で卒業認定方針が定められ、学生便覧やオリエンテーション、Web シラバス等を通じて周知されている。判定プロセスはシステム化され、学内責任者が参画する会議で客観的・厳格に運用されており、高い公正性と信頼性を保っている。 【課題】 厳格な基準を維持しつつ、学力低位者や低出席者への早期個別支援を行い、全員を到達目標へ引き上げる仕組みの強化が共通課題である。また、留学生への多言語対応による理解促進、業界の変化に応じた基準の適時見直し、単位修得と実質的な職業能力のさらなる連動も今後の課題となる。	【長所の伸長】 シラバスや学生便覧による基準の周知を基盤とし、最新の業界資格の取得目標と連動させることで卒業時の職業能力の価値を向上させる。また、初年次早期からのモチベーション管理や定期面談を継続し、学習習慣の定着と目的意識の維持を図る。 【課題の解決策】 試験や出席等のデータを早期に集計・共有し、基準未到達者への個別面談や補習、課題配布を迅速に実施。留学生向け多言語資料の整備や、業界動向に合わせた基準の適時見直しを検討し、単位修得と実践的な職業能力の習得を強固に結びつける指導体制を構築する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・学則・学科内規 ・養成施設指定規則 ・学生便覧・教育指導要領 ・シラバス	ディプロマ・ポリシーやシラバスを通じて基準を事前に周知している。卒業判定は単位修得や出席状況等に基づき、責任者が参画する判定会議で客観的かつ厳格に実施されている。	2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	DP に基づき国試や技術修得目標を便覧や HP に明記。達成状況は定期試験、実技、外部模試、実習ルーブリック等で多角的に把握し、データベースで一元管理している。教員間の情報共有や面談を通じた、個々の状況に応じた組織的な評価・支援体制を運用している。	【長所】 模試や実習評価等の多角的なデータで修得状況を可視化し、早期支援に繋げている。 【課題】 学生間の基礎学力や意欲の差、個別事情による学習の遅れなど、自律的な学修習慣の定着や、状況に応じた個別フォローの継続が求められている。	【長所の伸長】 学生便覧の周知に基づき最新資格と連動させ、職業能力の価値を向上。早期面談で学習習慣を定着させる。 【課題の解決策】 試験・出席データを共有し、未到達者への補習を迅速に実施する。留学生支援や基準見直しを通じ、単位修得と実践力の連動を強化する。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	「専門職就職率 100%」を掲げ、担任とキャリアセンターが連携し面談等で進路意向を組織的に把握。1 年次からのキャリア教育や就職フェア等のイベントを適切に運用している。卒業後も同窓会を通じた窓口設置やキャリアチェンジ支援、既卒者への模擬試験といった学習支援など、生涯のキャリア形成をサポートしている。	【長所】 全学科で専門職就職率 100% を掲げ、キャリアセンターと教員が密に連携して個別指導。1 年次からキャリア教育を行い、進路達成状況を組織的に管理している。また、委員会や就職先からの声をシラバスや実習改善に即座に反映する PDCA サイクルを確立。同窓会等を通じ、卒業後のキャリア相談や既卒者の国試対策も継続支援している。	【長所の伸長】 専門職就職率 100% へ向け、キャリアセンターと教員の個別支援体制を強化する。就職フェアや業界講義に加え、卒業生による「オンライン見学実習」等の取り組みを拡充し、学生の職業観と意欲を喚起する。また同窓会と連携し、既卒者への再就職支援や国試対策など「生涯キャリア支援」の枠組みを盤石にする。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	教育の質検証においては、卒業生の就業状況や就職先・実習先からのフィードバックを多角的に収集し、教育課程編成委員会等で検証することで、シラバス改訂や指導方法の改善に可能な限り迅速に繋げている。特に、在校生への年2回のカリキュラムアンケートや、学校関係者評価委員会による外部評価、実習報告書を通じた現場指導者との情報共有など、学生・卒業生・産業界の意見を継続的に取り入れる検証方法を工夫し、業界の最新ニーズを反映した実践教育を実施している。	【課題】就職先が全国に広がっているため、遠方の卒業生や施設に対する対面での継続的な実態把握に工夫を要する。卒業生全員の状況把握は、SNSやオンラインツールを活用した、より体系的・網羅的なデータ蓄積と分析の仕組み作りが求められている。また、難化する国家試験対策と就職活動を両立させる学生へのメンタルケアや、独立開業やキャリアチェンジ等の多様化する個々の進路志向に合わせた、より個別最適な支援のさらなる充実が共通の課題として挙げられている。	【課題の解決策】就職先が広範な地域に及ぶ中で卒業生の実態を網羅的に把握するため、SNSや独自のオンラインフォームを活用した情報収集・分析システムの構築を検討する。企業や実習先から得た意見を、学科会議等で定期的に共有することで、最新の業界動向をシラバスや実習前指導へ迅速に反映させるPDCAサイクル化する。さらに、独立開業やキャリアチェンジなど、多様化する学生の進路志向に対し、キャリアセンターと連携した個別最適な情報提供や専門セミナーの拡充を行うことで、就職後のミスマッチ防止と確実な進路目標の達成を推進する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・学則・学科内規 ・養成施設指定規則 ・学生便覧・教育指導要領 ・シラバス	全学科でディプロマ・ポリシーに基づき資格取得や技能修得目標を定め、模試や実習評価等で修得状況を多角的に把握している。進路面では専門職就職率100%を目標に、キャリアセンターと連携した個別支援を展開。卒業生や業界の意見を教育課程に反映し、組織的な改善と質向上を継続している。	2-4-1 3.0 2-4-2 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【バイオ・再生医療学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	建学の理念を基に、教育目標にまとめ、学生便覧・教育指導要領・学科目標等に明示している。また、学科 MT・講師会議等で共有している。	変化の激しい業界において、現場の声を取り入れている反面、人材育成という点では後手になることもある。	業界の展望を見据え、ある程度の幅を持たせた教育カリキュラムを作成する。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年 2 回以上開催していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年 2 回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	教育課程編成委員会を設置し、年 2 回の会議を開催している。委員として、業界から 1 名、関連団体から 1 名の外部委員を任命している。	業界の情報だけでなく、業界とのつながりを広げられる機会となっている一方、多様な業界を目指す本学科において、広がる業界が限定的である。	教育改定編成委員の人数を増やし、より幅広い意見を入手する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	本学科では、国内の企業に技術者として就職することを想定し、キャリア開発講座、学外研修などの授業を解説し、日本の業界、企業、職種への理解を図るとともに、様々な就職活動支援を行っている。	設定しているカリキュラムは日本人学生にも共通する科目であるため、外国人留学生向けに最適化されていない。	外国人留学生に対しては、補習、個別対応によりフォローする必要がある。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧・学科目標・学科ミッション・教育課程編成委員会議事録	外国人留学生向けの育成プログラムは十分にできておらず、入学時の対応できる語学力などに基づいて選抜をおこなっている。 教育課程編成委員会は枠組みとしてはしっかりとできているが、学科特性を踏まえて、より質の向上を目指す必要がある。	2-1-1 2.0 2-1-2 2.0 2-1-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	矢野 昌人
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【バイオ・再生医療学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	技術者に必要な技術、またその技術を理解する上で必要となる座学を実施しているが、実習、座学ともに内容を精査して選んでいる。資格試験対策授業においては、対策授業の効果が弱い場合は教材の変更などもこなっている。 学生便覧・教育指導要領・学科目標等に記載し、学生オリエンテーション等を通じて学生へと周知している。	学生の資質により授業形態や方法を調節する必要がある、最適解を見出すために試行錯誤せざるを得ない。	学生基準ではなく、業界が求めるレベルを基準とした授業展開が必要で、そこに到達できない学生は補習等による別途対応を実施する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	2 年時の学外研修、3 年時の学外実務研修において外部と連携している。研修前には受入れ先とミーティングをおこない、到達目標と評価について共有している。	学生の住居から実習先の距離等により研修先が制限されている。高いレベルの研修先に出向させられない学生もあり、研修先の選定が難しい。	研修までの学生の質向上および研修受け入れ先の開拓。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧・シラバス、HP・学外研修依頼書・承諾書・出席簿・評価表	学生便覧をもちいたオリエンテーション、HP で公開しているシラバスにより学生と情報共有をしている。 研修については充実している。	2-2-1 2.0 2-2-2 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	矢野 昌人
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【バイオ・再生医療学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	学生便覧・教育指導要領に明記された基準によって卒業認定が行われている。	より高度な人材育成を目指す場合は認定方針を変更していく必要がある。	時代に変化とともに、業界が求める専門学校出身の人物像に合わせた基準改定をおこなっていく。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧	学校として学科として卒業認定方針は明確に決められている。学科の認定方針については業界の変化に合わせて改定していく必要がある。	2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	矢野 昌人
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況【バイオ・再生医療学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	学科のディプロマポリシーや取得目標資格として学生便覧に明示されており、資格取得状況はデータベースで管理している。	各資格の関連性が高くないため、資格取得状況だけでは学生指導にフィードバックできない。	資格取得状況や期末試験の結果、普段の実習での手技等を総合的に判断して評価する。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	1年時からキャリア教育をカリキュラムに組み込み、また上級生との交流(学外研修報告会、就職報告会)を通してビジョンを明確化させ、キャリア教育の授業または個別面談を通して、学生の状況を把握している。 卒業後は就業調査として1年後、3年後の就業状況を確認しており、また卒業生の進路、キャリア相談の窓口としてキャリアセンターまたは学科教員が対応している。	実習先からの情報は網羅的かつ、現状を把握できている。就職先については網羅的な把握はできていない。	能動的に情報を得るためにはキャリアセンターを通した情報収集が必要。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	卒業生とも密に連絡を取ると共に、昨年度は同窓会を開催し、情報交換をおこなった。 実習先、就職先とも毎年ミーティングをおこなし、情報交換をおこなっている。		

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧	目指す業界が幅広いことから、カリキュラムにキャリア教育を組み込み、また学生面談などを通して学生の目標の把握、状況を把握している。卒業後は受動定期	2-4-1 2.0 2-4-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	矢野 昌人
--------	-----------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【人工知能学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	学園の建学の理念・ミッションを基礎に、業界情報を加味して、学科の3つのポリシーを策定し、これらを基に、学科の教育目標・教育課程を設定している。 教育課程は業界のニーズを汲み取り、基礎・専門、講義・実習・演習、必修・選択を適切に配置し、段階的に知識・技能が習得できるようにしている。	課題活動なども含め、学生の様々なニーズや適性に応じた教育課程の編成が可能となっている。 一方、業界の変化が速く、業界ニーズをタイミングよく教育課程に反映させることが困難である。	選択科目等を活用し、学生ニーズに応えていく。また、シラバス内容に幅を持たせ、業界の最新情報を加味できるように工夫を加えていく。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	教育課程編成委員会は規定等で明示し、年2回実施している。編成委員には業界で実務に携わっている方に依頼し就任頂いている。	業界と直接つながることで、業界のニーズやトレンドを的確に知ることができている。 一方、設備や人員、学科の方向性によっては、編成委員の意見をすべて組み入れることができていない。	業界と直接つながることで、業界のニーズやトレンドを的確に知ることができている。 一方、設備や人員、学科の方向性によっては、編成委員の意見をすべて組み入れることができていない。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校において、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	外国人留学生は在籍しているが、留学生に特化したキャリア形成プログラムは設置していない。ビジネス能力検定対策・ニュース時事能力検定対策・キャリア開発の授業、インターンシップなど、日本社会への理解の促進に資する科目は設定している。	留学生の実数が少ないため、状況に応じて個別に補習等の対応を実施している。 留学生の実数が増えた場合の対策の検討が不十分である。	留学生個々の状況・日本語レベル等に合わせて補習内容を設定し、実施していく。 一方、留学生の実数が増えた場合、クラスを分ける、別途プログラムを設置する等の対策を検討する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧・学科目標・学科ミッション	教育課程編成委員や研修先・就職先等からの情報を踏まえて、適宜教育課程の編成やシラバスの改変を実施し、業界ニーズやトレンドを教育課程に反映するように努めている。一方で、業界の変化が速く、タイミングよく教育課程に反映させたり、必要な設備等の導入が困難なケースがある。可能な限り、シラバスの改変や業界連携を通して業界ニーズに応えていくことを進めている。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	安達 隆之
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【人工知能学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	基礎・専門、講義・実習・演習等、授業内容に合わせて適切な授業形態、運営方法、教材を用いている。科目ごとにシラバスを作成し HP 上で開示している。オリエンテーション及び初回授業時に授業の目的や評価方法について学生に伝えとともに、放課後等を利用して学生の相談・補習の対応をしている。成績評価は明確なルールにおいて実施し、成績表を送付する方法で個別に開示している。	学科特性として実習系授業が多く、学生の到達度が見えやすく、学生自身も把握しやすい。 学生によって興味の有無・適性等、評価のばらつきに直結する要素が多く、平準化することが困難である。	授業の成果物を、学内・学外へ発信することにより、取り組む意識の向上、キャリア開発への展開を図っていく。 不得手な科目に対しては、補習等のサポートを実施していくとともに、将来的な科目の選別や選択科目化への移行を検討する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	インターンシップ（学外研修）という科目を必修で設定し、120時間の企業での実習を行っている。実習にあたっては、学生の目標と連携企業の事業内容をすり合わせて実習先を選定し、学生のレベル等鑑みながら、実習の目標等設定している。	学生個々の希望や適性に合わせて、実習先を選定し、学生・企業双方で高い満足度が得られている。 実習期間が長期に渡るため、受け入れ先の確保が課題となっている。	実習先での評価を就職活動に反映できる実績を増やすことで、学生・受入企業双方の意識を上げることが可能と考える。 受け入れ先の確保に関しても、教育課程編成委員等を通じて増やすとともに、上記実績を業界にアピールすることで増加につなげる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧・シラバス	業界・学生のニーズをすり合わせ、適正な形・配分で授業を設置・運営している。その上で学生個々の状況に合わせて補習等のサポートも実施している。企業等と連携した教育課程としてインターンシップ（学外研修）を実施し、インターンシップの成果を就職活動に生かす実績を増やすことで、学生の意識やスキルの向上、就職実績や受け入れ企業の増加を図っていく。	2-2-1 3.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	安達 隆之
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【人工知能学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	学則を基に進級・卒業の基準を規定し、学生便覧・教育指導要領に明示している。学生にはオリエンテーション等で説明し、規定に従って進級・卒業の判定を行っている。	明示することにより、学生の理解を促し、公平性も担保できている。	規定の運用に関しては、常に意識して学生に対応している。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧	学則を基本に、進級・卒業の認定要件を定め、学生に明示するとともに適正に運用し、卒業を認定している。業界ニーズをくみ取った教育課程をもとに単位を認定し、学科ポリシーに準じて卒業生を輩出している。	3.0

2-4 学修成果目標の達成状況【人工知能学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	ディプロマポリシーを基礎に、業界・学生のニーズに合わせて、技能等習得に努めている。学生個々の状況については、成績や成果物の確認に加え、担当講師からのヒアリングや学生面談を通して把握している	教育課程の特性上、広く知識・技術を身につけることが可能となり、それらを活用する授業を経て総合力・実践力の向上が図れ、業界でも評価されている。 一方、特定の知識・技術の深化は困難なケースがある。	身につけた技能や実績を業界に発信する機会を増やすことにより、学生個々の目標や達成度の評価が明らかになる。 学生個々の技能のばらつきを平準化する事より、得手なものを伸ばし、生かす方法や業界の検討をすすめていく。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	就職指導等は入学時より段階的に進め、就職活動における全体的なスケジュールを共有するとともに、個別面談指導を通して、目標の確認、達成状況の把握を行っている。同時に、月別の数値目標を設定し、月毎・週毎に達成度を確認している。 卒業後のキャリア支援の実施を学生に伝えるほか、同窓会・卒後勉強会を通して、卒業後のキャリア形成等の相談・指導、卒業生の状況を把握を行い、必要に応じて教育課程への反映を検討している。	就職希望者全員が就職できており、学生及び企業の双方において高い満足度を得ている。 卒業生のキャリア形成・キャリアチェンジに関しては、すべての卒業生において把握ができてなく、一部の卒業生に対する実績のみとなっている。	早期からの意識付けを行い、技能の向上と実績の積み重ねを図ることで、就職活動におけるマッチング率を高めていく。 卒業生に対しては、同窓会や業界訪問を通して状況把握に努めていく。同時に SNS 等を活用した情報収集システムの構築を図っていく

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	さらに、在校生に年2回のカリキュラムアンケート実施し、就職先・実習先からも適宜情報収取を行っている。		

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧・シラバス・面談記録・就職週報・求人票	必要とされる技能知識は、学生の適正・目的の業界職種に合わせて身につけさせており、就職率は100%を達成している。また、卒業生・就職先・実習先・教育課程編成員等を通して、業界で必要な技能の把握に努めている。卒業生のキャリア形成等に対する相談は行っているが、卒業生全員が相談を申し出ていないこともあり、把握が不十分である。	2-4-1 3.0 2-4-2 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	安達 隆之
--------	-----------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【日本語学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	建学の理念及び学科の三つのポリシーに基づき、教育目標と教育課程を策定している。教育課程はレベル別に体系化し、語彙・文法等の知識の積み上げと四技能のバランス育成を図っている。日本語能力試験や日本留学試験対策も含め、到達目標及び指導体制を明確にし、学生便覧等で周知している。	進学を目標とする学生に対し、明確な到達目標と体系的な教育課程を提示できている点は強みである。一方で、今後の日本語教育の土台となる参照枠に沿う行動中心アプローチを踏まえた教育内容の充実が課題である。	特別講義や他学科連携、課外活動等を通じ、実践的な言語使用場面を取り入れ、コミュニケーション能力の向上を図る。併せて、行動中心アプローチの視点をカリキュラムに反映し、学習活動の改善を進める。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	産業界、地域社会との連携による教育との連携には至っていない。しかし、日本語教育振興協会及び全国専門学校日本語教育協会の会員校として、研修等を通じて業界の動向やニーズの把握に努めている。また、年2回のカリキュラムアンケートを実施し、学生の意見を教育内容の改善に反映している。	協会主催の研修等を通じて業界動向の把握ができている点は強みである。一方で、教育課程編成に直接反映するための組織的な仕組みや外部意見を継続的に取り入れる体制の整備が課題である。	引き続き協会研修等を活用し情報収集を行うとともに、第三者評価の活用や外部有識者の意見聴取の機会を設け、教育課程への反映体制の整備を検討する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	日本語教育の一環として、日本事情科目、面接指導、キャリアセンターと連携した活動を通じ、日本社会の理解やキャリア形成に関する教育を横断的に実施している。各科目は日本での就労に必要な知識や態度の育成を目的としている。	日本事情科目や面接指導等を通じ、日本での就労観や自己理解を深める機会を提供できている点は強みである。一方で、学習内容や時間数の体系化が不十分であり、網羅的な教育の実施が課題である。	面接指導等を通じた実践的な言語運用力の育成を継続するとともに、日本社会理解に関する科目・活動の整理と時間数の明確化を図り、体系的な教育プログラムの構築を進める。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧・学科目標・学科ミッション	協会等を通じて業界動向の把握に努めるとともに、カリキュラムアンケートにより学生の意見を教育内容に反映している。また、日本事情や面接指導、キャリアセンターとの連携により、日本社会の理解や就労に必要な知識・態度の育成を図っている。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	松下 修
--------	-----------	-------	------

2-2 教育課程の実施【日本語学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	講義形式を中心に、科目ごとに教科書・配布資料・機材を用いて授業を実施している。シラバスは学生便覧にて周知し、月間スケジュールで詳細を補足している。履修指導はオリエンテーションで行い、予習・復習方法は授業内で説明し、必要に応じて個別支援を行っている。成績評価はシラバス及び履修規定に基づき明示し、進級判定会議を通じて公正かつ厳格に実施している。	授業開始時に評価方法を明示し、定期面談や補講により学習支援体制が整っている点は強みである。一方で、日本語教育の動向を踏まえ、より柔軟で多様な評価手法の導入が課題である。	ICT 教材やハンドアウトの活用を進め、学習支援体制の充実を図る。評価については、筆記試験に加え、パフォーマンステストやルーブリック評価等を導入し、多面的な評価の実施を検討する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	本科は日本語教育課程であり、企業等と連携した実習・演習は実施していない。しかし、日本語学習の一環として、キャリアセンターとの連携授業、就職フェア、他学科連携授業、日本事情科目等を通じ、日本での就労や職業観の理解を促す教育活動を実施している。	就職フェアやキャリアセンターとの連携により、日本での就労理解を深める機会を提供できている点は強みである。一方で、連携活動の時間数や到達目標の設定が不十分であり、体系的な実施が課題である。	就職フェアや外部機関と連携した活動を継続・充実させるとともに、地域資源を活用した課外活動を拡充する。併せて、活動内容の整理と時間数・到達目標の明確化を図り、体系的な教育として位置付ける。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧・シラバス	講義を中心に教材・シラバスを整備し、履修指導や学習支援、成績評価を適切に実施している。また、企業連携による実習はないものの、キャリアセンター連携や就職フェア等を通じ、日本での就労理解を促す教育活動を行っている。	2-2-1 3.0 2-2-2 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	松下 修
--------	-----------	-------	------

2-3 単位・卒業認定【日本語学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	進級・卒業の基準は学則によって定められており、学生便覧・教育指導要領に必要単位数、単位時間を示している。なお、学生には、オリエンテーション等で卒業認定方針について説明し、規定に従って進級・卒業の判定を行っている。	進級・卒業基準を明確に示し、オリエンテーション等を通じて周知することで、公平性を担保できている点は強みである。一方で、規定が日本語中心であるため、一部学生にとって理解の面で課題がある。	学則や規定については、全体及び個別に丁寧な説明を継続する。併せて、多言語対応（中国語等）の資料整備を検討し、学生の理解促進を図る。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧・シラバス	学則に基づき進級・卒業基準を明確に定め、学生便覧等で周知するとともに、オリエンテーション等で説明を行い、規定に従って適切に進級・卒業判定を実施している。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	松下 修
--------	-----------	-------	------

2-4 学修成果目標の達成状況【日本語学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	日本語能力試験 N2、N1 合格、日本留学試験 300 点以上取得を目標に定めている。 定期的に模擬試験を実施し、到達度、学習の進捗状況を把握している。また、面談を実施し学生と結果を共有し、自らの学習の振り返る機会としている。	日本語能力試験対策や補講を通じ、全学生の学力向上を支援している点は強みである。一方で、学習への参加は見られるものの、主体的に課題を見つけ学習を管理する力の育成が課題である。	計画的な試験対策を継続するとともに、面談を通じて到達度や課題を明確化し、学習計画の作成支援を行うことで、自律的な学習態度の育成を図る。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	学生の目標達成に向け、これからすべきことの共通認識を図り、面談時には、進路変更の有無、学習状況、達成度を面談時に確認している。 定期面談を行い、進路の意思確認、進路相談、支援を行なっている。 卒業生の進学状況、進路先を考慮しつつ、必要に応じ卒業生にヒアリングを行い、授業のやり方を工夫している。	進路目標を明確にし、定期面談や個別指導により達成状況を把握し支援している点は強みである。また、学生・卒業生の意見を教育に反映している点も評価できる。一方で、卒業生の進路状況を踏まえた教育課程や教育方法の体系的な検証体制の構築が課題である。	進路指導や面接対策等の支援を継続するとともに、卒業生や業界からの意見を定期的に収集・分析し、教育課程や教育方法の見直しに活用する体制の整備を進める。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	年2回のカリキュラムアンケートを実施し、授業について学生の意見を聞き、授業に反映できるように努めている。また、		

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学生指導要領・学生便覧・学科目標・学科ミッション	日本語能力試験や留学試験を目標に設定し、模擬試験や面談により学習状況と達成度を把握している。また、定期的な進路面談やキャリア支援を実施し、学生の進路形成を支援するとともに、学生・卒業生の意見を教育活動の改善に反映している。	2-4-1 3.0 2-4-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	松下 修
--------	-----------	-------	------

2-1 教育課程の編成と授業科目【スポーツ科学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	学科の教育目標や目指す人材像については、学生便覧に明記して学生へ周知している。昨年度より、学習内容の確実な定着を目的として、ゆとりある時間割となるよう、新たなカリキュラムへと再構築を行った。また、アスレティックトレーナー(AT)の新カリキュラム導入に伴い、基礎から応用へと段階的に学びを深められるよう、授業科目の難易度や配置の系統性を考慮した体系的な教育課程を編成している。	カリキュラムの再構築により学生の学習負担が適正化され、新ATカリキュラムに沿った段階的な指導がスムーズに行えている。 一方で時間割にゆとりを持たせた分、自学自習の時間が増えたため、この時間を活用した予習・復習の習慣づけに個人差が見られる点が課題となっている。	段階的な科目配置の強みを活かし、各学年の到達目標をより明確にすることで、AT資格の現役合格率をさらに高めていく。 また、空き時間や放課後を利用した自主学習の具体的な課題（ポートフォリオの活用など）を提示し、学生が主体的に学べる環境づくりを促す。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程(学科等)を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	教育課程編成委員会を設置し、年2回定期的に会議を開催している。会議では、スポーツ業界の最新動向や、現場が求める人材像についての意見を直接伺い、シラバスの改訂や実習内容の見直しなど、具体的な学科運営に反映させている。	業界の第一線で活躍する委員からの意見を直接教育に反映できるため、時代に即した実践的なカリキュラムを常に維持できている。 一方、委員会で得られた貴重な意見や業界ニーズの最新動向を、非常勤講師を含む全教職員へタイムリーに共有・周知する仕組みにまだ検討の余地がある。	今後も年2回の開催を継続し、実習先や就職先でのミスマッチをなくすための意見交換をさらに深めていく。 また、委員会での決議事項や業界からの要望をまとめた議事録・資料を、学科会議で共有していく。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	本学科では、外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程にはなっていない。しかし、「日本社会の理解の促進に資する授業科目」に相当するものとして、「トレーナー概論」や「スポーツ指導論」などをはじめとする対象科目を300時間以上開設している。	本学科は日本のビジネス社会に対応できる質の高いカリキュラムを提供できており、本学科を卒業した留学生が就職・定着した実績もある。 今後、多様化する留学生の日本語習得レベルや文化的背景に応じ、授業内容や就職サポートをさらに個別最適化していく必要がある。また、スポーツ業界特有の接客スキル(敬語やニュアンスの理解)において、より現場に即した指導の継続的が求められる。	国内のフィットネス企業で活躍する外国人卒業生(0B・0G)を招き、特別セミナーや学内ガイダンスを定期的に行い、在学中の留学生のロールモデルとしてキャリア意識のさらなる向上を図る。 一方、業界関係者や就職先企業からのフィードバックを教育課程に反映させ、スポーツ指導現場で即戦力となる「現場特有のコミュニケーション」に特化した授業内容の強化を行う。また、入学初期の日本語力に応じた補習対応などのサポート体制を強化する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・時間割表・シラバス・留学生就職実績データ(卒業生進路状況一覧)	本中項目において、本学科は業界ニーズを反映した体系的かつ実践的なカリキュラムを適切に編成している。 今後は、多様化する留学生の日本語力や文化的背景に応じた個別サポートを日本語学科とも連携協力し、業界特有のコミュニケーション指導をブラッシュアップすることで、より教育課程の質を高めていく。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	井上 佳子
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【スポーツ科学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	本学科では、スポーツ科学の理論を学ぶ「講義」と、トレーニング指導や評価法を学ぶ「演習・実技・実習」を適切に組み合わせた教育課程を実施している。すべての授業科目でシラバスを作成して学内システム等で学生に周知しており、到達目標、授業計画、成績評価基準を事前に明示している。 学生への学習支援として、クラス担任による定期面談により、予習・復習の指導や相談体制を整備している。 成績評価はシラバスに則り、筆記試験、実技試験、成果物などを組み合わせて厳格かつ公正に評価している。	理論と実践の連動が図られており、特に学内での実技授業やスポーツ現場や施設等での現場実習において、実践的な教材と適切な形態で質の高い指導ができています。また、シラバスの開示から評価の透明性と厳格性がシステムとして確立されている。 一方、実技や現場実習においては、学生個々の習得スピードや体力・スキルの差に応じた補習・個別フォローの充実がさらに求められる。また、シラバスに記載された予習・復習の指示が、学生の実際の自主学習（時間の確保や内容の理解）にどこまで結びついているかの検証が必要である。	現在の実技・実習の強みをさらに伸ばすため、業界の最新トレンドや最新のトレーニングギア、評価ソフトなどを積極的に授業教材に取り入れ、より現場即戦力に近い教育へとブラッシュアップする。 逆に実技未習得者や苦手意識を持つ学生に対しては、放課後等の時間を利用した個別指導や学生同士の教え合いの場を設ける。また、自主学習の定着に向けて、学内システム（JWEB）を活用した小テストやレポート課題の事前提示など、予習・復習に取り組みやすい仕組みを強化する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	本学科では、「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「トレーナー実習Ⅳ」という科目を通じて、企業等と連携した実践的職業教育を行っている。 連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定し、実習の実施にあたっては、事前に連携企業・協力機関と学生の到達目標を共有した上で実施している。また、現場での実習状況や成果に対する成績評価について、企業の指導担当者からの評価フィードバックを本校の評価基準に反映させるなど、協働・連携体制を整備・運用している。	業界の第一線で活躍するフィットネス企業や専門家と連携することで、学内だけでは得られない「顧客対応」や「最新の現場ニーズ」に即したリアルな実習・演習を提供できている。企業と密に連携しており、実質的な就業能力の担保に繋がっている。 課題としては、連携企業等によって、指導環境や学生が経験できる業務内容にバラつきが生じる可能性があげられる。また、社会情勢や業界トレンドの変化に合わせ、既存の連携先だけでなく新規の連携開拓も継続して行う必要がある。	高評価を得ている主要な連携企業との関係をさらに深め、実習だけでなく「共同でのプログラム開発」や「学内での特別採用選考」などの実績を増やし意識向上を図っていく。 また、全連携先に対して実習マニュアルや評価ルーブリック（評価基準表）の共有を徹底し（AT 新カリキュラムより）、どの現場でも一定水準以上の指導と公正な評価が受けられる環境を維持する。あわせて、最新のパーソナルジムやスポーツ IT 分野など、時代のニーズに応じた新規連携先の開拓を年間計画に組み込んで推進する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・時間割表 ・シラバス・実習報告書	本中項目において、スポーツ科学科ではシラバスに基づく厳格な成績評価と、職業実践専門課程に準拠した高度な企業連携教育を展開している。 全科目でのシラバス周知や成績照会制度により、評価の公正性を担保。また、実習・演習等の割合を 60%と高く設定し、「おもてなし研修」の導入など業界ニーズに即した実践教育を実施している。学外実習では、実習報告書を効果的に活用し、指導の平準化を図っている。今後は実習先による指導環境の差を最小限に抑え、新規連携先の開拓を継続することで、教育の質をさらに高めていく。	2-2-1 3.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	井上 佳子
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【スポーツ科学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	本学科では、健康・スポーツ・フィットネス業界で即戦力となる人材像を見据え、卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に定めている。この基準は入学時のオリエンテーションや学生便覧、シラバス等を通じて事前に学生へ周知している。 実際の卒業認定にあたっては、定められた単位数の修得はもちろん、出席状況、学費の入金状況も総合的に加味して判定している。	卒業の基準が明確であるため、学生も目指すべきゴール（必要な単位や資格）を意識して日々の学習に取り組んでいる。また、判定プロセスがシステム化されており、基準に沿った卒業認定が定着している。 一方で、成績不振や低出席率の学生に対して、卒業基準を満たせるよう、より早い段階での個別アプローチや救済のための学習指導をさらに強化していく必要がある。	現在の明確な卒業基準をベースに、業界で求められる最新の資格（AT や NSCA など）の合格に向けた対策授業をさらに充実させ、卒業時の職業能力の価値をさらに高めていく。 更に、学期ごとの成績チェックを徹底し、単位取得が危ぶまれる学生に対しては、担任による面談や補習指導を早い段階で実施して、卒業まで脱落させないサポート体制を強化する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・卒業判定会議資料・教務システム	本中項目において、スポーツ科学科では事前に周知した卒業認定方針に即し、厳格な基準で卒業認定を行っている。学生便覧やシラバスを通じて基準を明確に示すことで、学生の学習意欲や資格取得への意識を高めることに繋がっている。 今後は、単位取得に不安のある学生への早期面談や個別補習などのフォローをさらに徹底し、質の高い人材を安定して業界へ送り出せるよう、卒業認定と学習支援の連携をさらに深めていく。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	井上 佳子
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況【スポーツ科学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	ディプロマ・ポリシーに基づき、「アスレティックトレーナー(AT)」等の資格取得、および現場で即戦力となる指導力と技能の修得を具体的な目標として定めている。 定期試験や実技試験、および実習ルーブリックを用いて、学生個々の知識・技術の修得状況を多角的に把握・評価している。	定期的な実技客観試験の導入により、学生個々の細かな技術修得レベルが数値化され、基準に達していない学生への早期フォロー体制が確立できている。 一方で、資格試験の直前対策に注力するあまり、低学年次における基礎知識の定着度合いの把握とその底上げに、バラつきが発生している。	実技試験の評価データをさらに蓄積し、より精度の高い指導マニュアルへと昇華させることで、実技指導の質をさらに向上させる。 そして、低学年次から小テストを実施し、早期から基礎学力の底上げを図っていく。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	「就職率 100%」および「専門職就職率の向上」を具体的な目標に掲げ、キャリアセンターと学科が連携した支援体制を適切に運用している。 同窓会や生涯教育の機会として同窓会システムが存在する。また業界が求める最新のニーズを教育課程の検証・改善に反映させている。 在学生に対しては、定期的な個別面談や「学修・進路に関する意向調査(アンケート)」を継続的に実施し、学生からの意見や不安を早期に汲み取ってキャリア指導に繋げている。	オンライン見学実習において、業界で働く卒業生の実際の声を早期に聞くことで業界を知ることにつながり資格取得への目標意識向上にもつながっている。 多様化する学生のキャリア志向(パーソナルトレーナー独立、一般企業への就職など)に対して、集約した意見をより迅速に個別最適な情報提供や相談対応へ反映させる仕組みが求められている。	オンライン見学実習や在学生就職希望調査アンケートのフィードバック精度をさらに高め、学内企業説明会の開催頻度を増やすことで、マッチング機会を拡大する。 集約した意見を基にキャリアセンターと連携を深め、独立支援セミナーや異業種キャリアガイダンスを新設することで、多様な進路志向に対応できる支援体制を強化する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会にて、本学科の教育成果に対する外部評価を継続的に収集している。さらに、在学生から集約した「学修・進路に関する意向調査」の結果と照らし合わせることで、業界の最新ニーズと学生の意識の双方から、教育課程や指導方法の多角的な検証・改善を行う仕組みを構築している。	学校関係者評価や教育課程編成委員会から業界ニーズを直接把握でき、それを学科の指導やカリキュラムへ迅速にフィードバックできる体制が整っている。 一方、企業や卒業生から寄せられた意見や業界動向を、より体系的に蓄積・分析し、中長期的な教育改善のビジョンへ結びつける必要がある。	引き続き情報収集を継続し、そこで得られた業界ニーズをシラバスの更新や実習指導の事前オリエンテーションへ即座に反映させる。 他方、外部から集約した意見や検証結果をキャリアセンターとも共有し、時代に即した就職支援プログラムの構築やカリキュラム改訂の確実な根拠として活用する体制を整備する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・教務システム・就職システム・教育課程編成員会議事録・学生意向調査集計結果等	本学科では卒業認定方針に基づいた職業能力の修得状況の把握、および学生の進路目標の達成に向けた支援体制が、組織的かつ適切に機能している。 学修成果の可視化や企業連携による高い就職実績など、多くの成果が見られる。今後は、低学年次からの基礎学力の底上げや、多様化する進路志向に合わせた個別支援をさらに強化することで、教育品質および学生満足度のさらなる向上を目指す。	2-4-1 3.0 2-4-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	井上 佳子
--------	-----------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【鍼灸スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	学生便覧に明記している人材像の構築へ向け、3年間の教育方針、実施方針を計画、実施している。鍼灸師、JSP0-AT の取得を3年間の目標とし、基礎→応用→実践の流れを重要視し、系統性、段階性を考慮した体系的なカリキュラムを編成している。	3年間で鍼灸師と JSP0-AT を取得できかつ効率的な教育課程を構築し運営できている。 一方、入学時点で低学力層が、目標資格である JSP0-AT を諦め鍼灸師1本に注力する姿が散見される。学科としては入学者全員が鍼灸師と JSP0-AT の取得を目標とする。	授業や実習の在り方を見直し、学生にとって何がベストなのかを考え、資格合格率の向上につなげる。特に JSP0-AT は新カリキュラムとなり傾向が変わる可能性が高いため、教員が準備を怠らず対策を実施していく。 また、放課後等活用し、学期の取りこぼし防止や、資格合格のための特別対策講座を増やし対応していく。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	教育課程編成委員会を設置し、年2回の運営を実施している。スポーツ業界、鍼灸業界の方々とは意見交換を行い、学外での最新の情報を入手し、学科の授業校正の参考にしている。	開業鍼灸師、業界団体、スポーツ現場で活動されている先生など多岐に渡る委員が、本学科の特色に合わせて協力いただけている。 一方、スポーツ現場における鍼灸師、JSP0-AT の現状を伺い、学科運営に取り入れる必要がある。	業界の協力を引き続き得るとともに、通常講義も対応いただき、学生に新たな刺激を与えていく。 今後、委員に、競技レベルの高いチーム、個人に帯同されている先生に入っただき、現状について伺い、学科運営に活かしていく。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	本学科は留学生を主たる対象とした学科ではなく、「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」の認定課程にも該当しないため、本項目における対象科目の開設および実績は該当なし。	対象無し	対象無し

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・時間割表・シラバス・教育課程編成委員会議事録	本学科は業界ニーズを反映した体系的かつ実践的なカリキュラムを適切に編成している。	2-1-1 2.0 2-1-2 2.0 2-1-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	山下 浩平
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【鍼灸スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	本学科では、講義・実習・演習をバランスよく組み合わせ適切に施している。 シラバス明示し、学生の理解度に応じて対応するとともに、必要であれば補習や補講を実施している。 各学期末には試験を実施し、定められた基準に基づいて公平に評価を行っている。 学生からの問い合わせにも、明確な基準を方法に基づいて対応できるようにしている。	鍼灸師と JSPO-AT の両方を学習することで、それぞれを補完しあうことができる教育課程になっている。それぞれの教育課程（講義・実習・演習）が連動して組まれている点が長所である。 課題としては、JSPO-AT のカリキュラムが旧カリキュラムから新カリキュラムに移行する時期であり対応が必要になる事、スポーツ現場実習関連では、学生間で技術知識に差が生じているところがある。	教育課程、シラバス、授業、評価は今まで通り実施していくが、細かなところを点検し、ブラッシュアップしていく。 課題に対しては、学生全員が等しく知識技術の習得をおこなうために、オンデマンドで復習ができるシステムや、電車での移動中なども学習できる j-web システムなどをさらに稼働させ、底上げを図ることで対応する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	本学科では、「トレーナー実習Ⅰ」「トレーナー実習Ⅱ」「予防とコンディショニングⅠ」「運動生理学Ⅱ」「トレーニング科学Ⅰ」の科目で企業等と連携した授業を行っている。 協力機関とは事前に到達目標や成績評価等について情報共有する体制を整えている。	鍼灸治療とスポーツ現場の両方の実習を経験できている点が長所である。 一方で、スポーツ現場の数、種類に不足が生じている。学生が経験してきた競技、その他の競技数やレベルをもっと増やしていく必要がある。	各分野における連携企業と密に連絡を取り合い、学生ファーストの指導ができるよう協力関係を深めていく。更に、実習先への就職という形を目指し、働きかけていく。 AT と鍼灸師を持った卒業生を通して、スポーツ現場で働いている方々に連絡を取り実習の受け入れを打診していく。また、その際は評価があいまいにならないよう、評価ループリックを共有し実施していく。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・時間割表・シラバス・実習報告書	本学科ではシラバスに基づく厳格な成績評価と、職業実践専門課程に準拠した高度な企業連携教育を展開している。	2-2-1 2.0 2-2-2 2.0

最終更新日付

2026年6月1日

記載責任者

山下 浩平

2-3 単位・卒業認定【鍼灸スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	あらかじめ学生に周知している卒業認定方針に即した卒業判定基準および方法をおこなっている。入学時配布される学生便覧を基に、取得単位・出席状況・補講状況・学費納入状況・卒業試験得点状況を加味して卒業判定をしている。	学校全体として卒業判定のプロセスが明確化されている。 一方、卒業に対して学生のモチベーションに差があり、資格試験に対する意気込みに差が発生している。	学校全体のプロセス加え、学科内でも日々の出席・成績・学費状況を把握し、細かな指導を徹底する。 また、入学前、1年生前期から基礎学力や成績、モチベーションを学科教員で把握、共有し、定期的な面談や声掛けを通してモチベーションの維持を図る。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・時間割表・シラバス・実習報告書・卒業判定会議資料・教務システム	本学科では事前に周知した卒業認定方針に即し、厳格な基準で卒業認定を行っている。	2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	山下 浩平
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況【鍼灸スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	卒業認定方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、取得目標資格を設定している。最終年度の鍼灸師とJSPO-ATが最終目標であり、合格に向けて1・2年生も複数の資格試験に挑戦させている。期末試験も同様で、担任・教科担当レベルで学生の知識・技術・人間力の達成レベルを把握評価している。	1年前期から3年後期に至るまで、学期毎に取得目標があり、それを取得していくことで必要な知識・技術の習得が可能となっている。人間性の部分では現場実習がその役割を担っている。 基礎学力不足、成績不振、出席不良など、様々な原因で成績が伸び悩み、モチベーションの低下に悩む学生が毎年いる。個別アプローチや使用デバイスやコンテンツの工夫が必要である。	目標資格の見直し、検討が必要である。JSPO-ATの新カリキュラム移行により、受験スケジュールが変更となる。これに合わせて、JATIなどの資格受験を再考し、ベストな教育課程を構築していく。 成績不振等に対して、徹底的な個別指導を行う。基礎学力、メンタルの状態、家庭環境など、学生個人毎の背景を鑑みて指導していく。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	就職率 100%の目標のもと、キャリアセンターと共同し動いている。進級学年次から学園主催の企業説明会(就職フェア)に参加し意識付けを行っている。また、卒業時の就職はもちろん、卒業後の再就職にも対応し、卒業生に適した就職先を斡旋できるよう準備している。更に、卒業後どのような分野で働いているのかを定期的に調査し、在学生の就職活動に活かせるようキャリア指導に繋げている。	キャリアセンターにスタッフが常駐し、就職指導ができていた点は長所である。その情報を担任がリアルタイムで把握し、追加指導を行うことで、効果的なキャリア教育ができていた。 一方、学生全員が希望した就職先にいけない状況がある。働き方・福利厚生・賃金・勤務地・業務内容などどこか妥協せざるを得ない点が課題である。	引き続きキャリアセンターと教務が密に連携し、1人1人のキャリア形成をおこなっていく。卒業生を招き、現場の生の声を伝えていただく機会を増やす。 一方、学校に来る求人だけでは、100%希望の就職を実現するのは難しい。いわゆる就職斡旋企業やネット求人サービスを活用しながら、100%希望職種へ就職できる体制を作っていく。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会において、業界の様々な意見をいただき、多角的かつ継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしている。業界のニーズ、在校生の意見を聞き、教育課程とキャリア教育に活かしている。	現場の意見を聞くこと、現場で求められている人材像を共有でき、教育課程への反映が可能になっている。 しかし、より多くの卒業生・業界人の意見を取り入れて、さらに反映していく必要がある。	鍼灸業界、スポーツ業界共に日々変化、成長している。リアルタイムで情報収集し、シラバスの修正や教育課程への反映を迅速におこなう。 一方で、同窓会や各種セミナーを開催し、卒業生が集まれる機会を増やす。それを情報交換の場として活用し、業界に即した学生指導に活かす。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・時間割表・シラバス・実技評価基準・教務システム・就職システム・資格合格実績データ・育課程編成委員会実施記録・在学生意向調査集計結果等	本学科では卒業認定方針に基づいた職業能力の修得状況の把握、および学生の進路目標の達成に向けた支援体制が、組織的かつ適切に機能している。	2-4-1 2.0 2-4-2 2.0

最終更新日付	2026年6月22日	記載責任者	山下 浩平
--------	------------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【柔道整復スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	「医療とスポーツの知識・技術を兼ね備えた職業人の育成」という目的のもと、明確な教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。柔道整復師養成施設指定規則および日本スポーツ協会のアスレティックトレーナー（AT）養成施設設置基準に基づき、基礎医学から高度な専門スキル、スポーツ現場実習までを3年間で段階的・体系的に修得できるよう、専門科目と一般科目を適切に配分したカリキュラムを編成している。	柔道整復師とアスレティックトレーナーのWライセンス取得に向け、講義・演習・実技が系統的且つ密に組み立てられており、学年が進むにつれて理論と現場実践力が無理なく結びつく構造が確立されている。 しかし、2つの専門分野を同時並行で網羅するカリキュラムの特性上、総授業時間数が多く、学生の学習負担が非常に高いため、個々の習得度のばらつきに応じた細やかな進捗管理が常に求められる。	シラバスやコマシラバスに基づく教育内容の提供を徹底しつつ、教員間で学生の学習状況や理解度データを密に共有する。 学習遅滞のリスクがある学生に対しては、早期に個別面談や補習を組み込み、過密なカリキュラム下でも全員が体系的な学びを取りこぼさないようサポート体制を強化する。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	関連する業界団体、スポーツ推進組織、接骨院経営者等の外部委員を交えた「教育課程編成委員会」を設置し、年2回開催している。会議では、スポーツ現場や医療業界の最新動向、地域社会からのニーズについて広く意見を聴取し、教育課程や授業計画（シラバス）の改定・見直しに具体的に反映させる体制を整えている。	第一線で活躍する委員からの提言を直接受けることで、最新のトレーナー手法や業界の動向を迅速に授業内容（特別講義等）へ反映させることができ、教育の即戦力性が担保されている。 一方、委員からの有益な提案を、既存の指定養成カリキュラムと調整しながら、日々の具体的な指導案や教材等へ落とし込む際の手順の効率化に改善の余地がある。	委員会での指摘事項や業界のニーズを、学科内会議および講師会議にて、短期で実施可能な取り組み（業界特別講義のテーマ選定や教材工夫など）と、中長期的な学則変更案件に整理する。 改善プロセスを明確にすることで、PDCAサイクルの確実な機能向上を図る。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	本学科は留学生を主たる対象とした学科ではなく、「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」の認定課程にも該当しないため、本項目における対象科目の開設および実績は該当なし。	(該当なし)	(該当なし)

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・教育課程編成方針・シラバス・教育課程編成委員会議事録	本学科が目指す育成人材像に沿って、柔道整復師およびATの養成基準をクリアした体系的・段階的な教育課程を適切に維持・運用している。年2回以上の教育課程編成委員会を通じて外部意見を柔軟に取り入れる仕組みも機能しているが、Wライセンス取得に伴う学生の学力格差や学習負荷へのケアが課題である。今後は教員間の連携をさらに深め、意見のカリキュラム反映プロセスをより効率化することで、時代に即した質の高い実践教育を安定して提供していく。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	川村 智広
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【柔道整復スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	全授業科目についてシラバスを作成・公開し、学生に周知している。科目特性に応じて講義・演習・実技等の適切な授業形態を選択し、学生が一方的な受講に留まらないようアクティブラーニングを積極的に導入している。成績評価はシラバスに明示した客観的基準に基づき厳格に行うとともに、学生面談を通じた履修・学習支援体制を整備している。	評価基準の事前明示により、公正で厳格な成績評価が実施されている。また、実技科目等において能動的学習(アクティブラーニング)を取り入れることで、学生の相互理解と技術の習得スピードが向上している。 一方、定期試験や実技審査の実施時期において、予習・復習の自己管理が不足している学生が一時的に学習遅滞を起こす傾向がある。また、アンケートの実施時期等によって評価が部分的に変動するケースも見られる。	日常の授業内に小テストや振り返りシートの記述を細かく取り入れ、試験直前期に知識が偏らないよう平時からの予習・復習指導を強化する。 講師会議等においてカリキュラムアンケートの結果や学生の意見をタイムリーに共有し、指導方法の改善を継続的に行う。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	職業実践専門課程として、企業等と連携した「キャリアライフプランニングⅠ」をカリキュラムに組み込んでいる。総授業時数に占める企業等連携実習・演習の割合を適切に設定し、実習前には受入施設と学生の到達目標を共有した上で、実習報告書等を用いて指導者と協働で評価を行う連携体制を構築している。	実際の現場で実務に触れることで、学生の倫理観や主体性、現場対応能力が飛躍的に向上している。また、実習先との強い信頼関係が、そのまま本校の教育への高い評価に繋がっている。 一方、学内での資格対策講座や課題の提出スケジュールとの調整に苦慮するケースが一部で見られる。	連携した実習に加え、低学年次（1・2年次）からの現場実習への参加を強化する。 実習報告書と学内のシラバスの連携をより深め、現場での経験が学内の筆記・実技試験の成果にプラスに働くようフィードバック指導を充実させる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス 実習報告書・カリキュラムアンケート結果	各科目においてアクティブラーニング等を導入した適切な授業展開と、シラバスに基づく厳格な成績評価が機能している。特に、豊富なスポーツ現場実習は本学科の最大の強みであり、学生の職業人意識を高める契機となっている。今後は、実習スケジュールと学内学習（資格対策）のバランスをさらに最適化し、アンケート等から得られる意見を授業改善に迅速にフィードバックする体制を強化する。	2-2-1 3.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	川村 智広
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【柔道整復スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	「現代の医療・スポーツ現場を牽引できる柔道整復師・トレーナー」に求められる職務遂行能力の修得を目標として掲げている。卒業に必要な修得単位数、進級・卒業の判定基準、および出席率等の要件は学則や内規に則り明確化されており、入学時や進級時のオリエンテーション、学生便覧の配布を通じて事前に周知している。	進級・卒業判定基準が客観的かつ厳格に運用されており、学校責任者および学科責任者が同席する判定会議にて公正な審議が徹底されているため、単位認定制度の信頼性が担保されている。 一方、合格ライン直前で伸び悩む学力低位者や、複数の資格試験を控えて心理的負荷が高まる卒業年次の学生に対し、厳格な基準を維持しながら全員を基準値まで確実に引き上げるための個別補習の仕組み化が常に課題となる。	学期末の最終判定会議に至る前の段階で、定期試験や外部模擬試験、課題提出のデータを月次でスピーディに集計・共有する。 基準に到達していない学生には即座に個別面談やターゲットを絞った課題配布を実施し、進級・卒業要件を全学生が自発的かつ確実にクリアできるよう、個別補習の精度を高める。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・進級・卒業判定会議議事録	卒業認定方針および判定基準は学則に明確に規定されており、オリエンテーション等を通じて高い透明性をもって運用されている。判定会議も責任者同席のもと客観的かつ厳格に実施されている。今後は、複数の資格取得に向けて精神的・学力的に負荷がかかる学生に対し、早期の成績データ共有と個別補習の連動を仕組み化し、厳格な基準のもとで「全員を到達レベルまで引き上げる」指導体制の充実に努める。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	川村 智広
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況【柔道整復スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	国家試験の全員合格、およびATをはじめとする関連資格の取得率向上を明確な目標として掲げている。各種模擬試験、実技試験の結果は、学科教員間で即座に共有・分析され、学生個々の苦手分野や理解度に応じた個別指導および提出課題の配布、土曜日を中心とした資格対策講座の実施に活用している。	試験データ分析による個別指導が実現しており、プレカレッジ等の入学前教育から連動して学力格差の未然防止に努めている。 しかし、経済的事情のアルバイト等で放課後や土曜の対策講座に出席できない学生が一部にあり、自主学習のみでは学力維持に遅れが生じるリスクがある。	定期的な学生面談を充実させ、個々の生活習慣やアルバイトの状況を早期に把握する。 一方、対面講座への出席が難しい学生に対しては、自宅学習用の課題配布での進捗確認、自宅学習状況の改善指導を個別に実施し、学習機会の均等化と取得率向上を図る。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	高い就職率の達成を目標に定め、キャリアセンターと教務が密に連携した個別指導体制を運用している。卒業生の就職先への定期的な訪問・ヒアリングを実施し、現場から寄せられる卒業生の社会的評価や地域ニーズの動向を多角的に把握・検証して、教育課程やキャリア教育の改善に反映させている。	医療・スポーツ双方の強みを持つ卒業生の実績が業界で高く評価され、施設責任者等として活躍する強固なネットワークが豊富な専門職求人につながっている。 一方で、就職先・活躍の場が全国に広がっているため、遠方の卒業生や施設に対する、定期的な対面訪問による継続的な実態把握の時間の確保に工夫を要する。	キャリアセンターと教務の連携をさらにデジタル化・効率化し、遠方の施設に対してはオンライン面談や独自のアンケートフォームを活用した多角的なアプローチを導入する。 また、卒業生が参加するセミナーや学内行事をフックに情報交換の場を広げ、集まった現場のニーズを常に最新のキャリア教育(業界特別講義等)の質向上へ還元する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか			

参照資料	中項目総括	中項目の評定
国家試験模擬試験成績推移表・就職実績確定データ	データ分析に基づいた補習指導と、キャリアセンターと教務が一体となった就職支援により、学修成果および進路の目標達成に向けて高い水準の取り組みが維持されている。現場の意見を教育へ反映する産学連携体制も構築されている。今後は、アルバイト等の個別事情を抱える学生への自宅学習支援のセーフティネットを強化にするとともに、オンラインも活用した多角的な卒業生実態調査を進め、変化する業界ニーズに適応した職業人教育を推進する。	2-4-1 3.0 2-4-2 2.0

2-1 教育課程の編成と授業科目【柔道整復師学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	「社会に貢献する質の高い医療人の育成」という目的を具現化するため、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を定め、学生便覧に明記している。柔道整復師学校養成施設指定規則の基準に基づき、解剖学・生理学などの基礎医学から、柔道整復学理論・実技などの専門科目、さらには臨床実習に至るまで、3年間で体系的・段階的に学修を進められるカリキュラムを編成・実施している。	指定規則に準拠した緻密な教育課程が確立されており、1年次の基礎から3年次の国家試験対策・実習まで、系統性と段階性に優れた講義・演習を展開できている。 一方で、カリキュラム改定や重要事項の変更において、オリエンテーション時の一過性の説明に留まりやすく、学生一人ひとりの理解度や目的意識に一部で濃淡が生じることがある。	学生が常に目的意識を維持できるよう、講義内や個別面談を通じて教育方針の周知を日常化する。 また、医療業界の環境変化に対応した教育方針の改定を迅速に行える体制を学科会議を中心に維持し、非常勤講師を含む教員間での周知を徹底する。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程(学科等)を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	関連する業界団体、接骨院経営者、医療機関の責任者などの外部委員で構成される「教育課程編成委員会」を設置し、年2回開催している。委員会では医療業界や地域社会の最新動向、求める人材像について広く意見を聴取し、授業計画(シラバス)の見直しや教育内容の改善に具体的に反映させている。	業界の第一線で活躍する外部委員から直接提言を受けることで、最新の臨床ニーズや現場の動向を授業内(特別講義等)へ柔軟に組み込むことができている。 しかし、外部委員からの有益な提案を、既存の養成施設指定カリキュラムと調整しながら、日々の指導案や教材へ落とし込む際の手続きの迅速化・効率化に改善の余地がある。	委員会での指摘事項や業界ニーズを、学科内会議および講師会議にて、短期で実施可能な取り組み(業界特別講義のテーマ選定や教材工夫など)と、中長期的な学則変更案件に整理する。改善プロセスを明確にすることで、PDCAサイクルの確実な機能向上を図る。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	本学科は留学生を主たる対象とした学科ではなく、「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」の認定課程にも該当しないため、該当なし。	(該当なし)	(該当なし)

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・教育課程編成委員会議事録	教育目標および育成人材像に沿って、柔道整復師の養成基準をクリアした体系的な教育課程を適切に運用している。年2回の委員会を通じて外部意見を反映する仕組みも機能しているが、学生への方針の浸透度を常に一律に保つ体制に課題がある。今後は日常的な面談やツールを活用し、学生の目的意識を高めるとともに、外部意見の反映プロセスをさらに効率化して教育の質向上を図る。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	川村 智広
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【柔道整復師学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	全授業科目についてシラバスを作成・公開し、科目特性に応じて講義・演習・実技等の適切な授業形態で実施している。学生の能動的な学びを促すためアクティブラーニングを導入し、教材の精査も継続している。成績評価はシラバスに明示した客観的基準に基づき厳格に行うとともに、評価に関する問い合わせ対応窓口の設置や学生面談を通じた履修・学習支援体制を整備している。	評価基準の事前明示により、客観的で厳格な成績評価が実施されている。また、定期的なカリキュラムアンケートを通じて学生の声を収集し、教員へフィードバックして授業改善につなげる体制がある。 しかし、アンケートの実施時期によっては一時的・部分的な意見が強調される場合があり、全体の傾向を正しく見極めた客観的な判断や、講師側との双方向の意見交換の充実に課題がある。	学科内会議において多角的に授業内容やアンケート結果を検証する体制を維持し、適切なフィードバックを継続する。また、教員側への一方的な通知に留めず、講師との意見交換や研修の機会を設けることで、双方向での授業改善を推進する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	職業実践専門課程として、「キャリアライフプランニングⅣ」を実施している。総授業時数に占める連携実習・演習の割合を適切に設定し、実習前には受入施設と学生の到達目標を共有した上で、実習報告書等を用いて指導者と協働で評価を行う連携体制を構築している。	実際の臨床現場や附属施設所で実務に触れることで、学生の倫理観や主体性、現場対応能力が向上している。また、実習先との強い信頼関係が確立されている。 しかし、学生がより高い主体性を持って臨めるよう、医療人としての職業観や倫理観を育む事前指導や、実習後の振り返り指導をさらに深化させる必要がある。	関連団体や提携施設との連携をさらに強化し、より具体的な臨床現場の声を反映した事前指導や業界特別講義の充実を図る。 実習報告書の内容を精査し、学生の意識変化を適時確認しながら、現場実習の効果を最大化する指導を継続する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・実習報告書・カリキュラムアンケート結果	各科目において適切な授業形態の選択と、シラバスに基づく厳格な成績評価が機能している。企業等と連携した臨床実習は職業人意識を高める有益な機会となっている。今後は、アンケートから得られる学生の声をより多角的に分析し、非常勤講師を含む教員全体との双方向の意見交換を活発化させることで、継続的な教育の質的改善を推進する。	2-2-1 3.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	川村 智広
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【柔道整復師学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	「現代の医療現場で即戦力となる柔道整復師」に求められる能力の修得を目標として掲げている。卒業に必要な単位数、進級・卒業判定基準、出席率等の要件は学則や学科内規に明確に規定されており、入学時・進級時のオリエンテーションや学生便覧の配布を通じて事前に周知している。進級・卒業の判定は、学校責任者および学科責任者が同席する判定会議にて厳格に行っている。	判定基準が客観的かつ厳格に運用されており、学校と学科の責任者が一体となって審議する厳格な判定プロセスにより、単位・卒業認定の公正性が担保されている。 一方で、内規に基づく適切な運用は継続されているが、合格ライン直前で伸び悩む学力低位者に対し、厳格な基準を維持しながら全員を確実に引き上げるための個別補習のさらなる仕組み化が必要である。	最終判定に至る前の段階で、定期試験や外部模擬試験、課題提出のデータを早期に集計・共有する。 基準に到達していない学生には即座に個別面談やターゲットを絞った課題配布を実施し、進級・卒業要件を全学生が確実にクリアできるよう指導体制の精度を高める。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・進級・卒業判定会議議事録	卒業認定方針および判定基準は学則・内規に明確に規定されており、高い透明性をもって運用されている。判定会議も責任者同席のもと客観的かつ厳格に実施されている。今後は、厳格な評価基準を維持しつつ、学力伸び悩み層に対して早期のデータ共有と個別補習を連動させ、「全員を到達レベルまで確実に引き上げる」支援を強化する。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	川村 智広
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況【柔道整復師学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	国家試験の全員合格を明確な学修成果目標として掲げている。各種模擬試験や、柔道整復研修試験財団の評価表に準拠した実技確認試験を定期的に実施し、結果は即座に学科教員間で共有・分析している。学生個々の苦手分野に応じた個別指導、提出課題の配布、放課後や長期休暇中の資格対策講座に反映させている。	模試等の詳細なデータ分析により、学生の弱点を捉えた手厚い個別指導が実現している。また、プレカレッジ等の入学前教育から連動して学力格差の未未然防止に努めている。 しかし、経済的事情のアルバイト等で放課後や土曜の対策講座に出席できない学生が一部にあり、自主学習のみでは学力維持に遅れが生じるリスクがある。	定期的な学生面談を通じて個々の生活習慣やアルバイトの状況を早期に把握する。 対面講座への出席が難しい学生には、自宅学習用の課題の配布にて進捗確認を実施し、学習機会の均等化と合格率のボトムアップを図る。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	高い専門職就職率の達成を目標に掲げ、キャリアセンターと学科が連携した個別指導体制を運用している。就職先への定期的な訪問・ヒアリングや、現場から寄せられる卒業生の社会的評価や地域ニーズの動向を多角的に把握・検証して、教育課程や就職指導の改善に反映させている。既卒の不合格者に対しても、模試受験や講座受講の環境を継続提供している。	定期的な就職先訪問により、卒業生を通じた強固なネットワークと高い社会的評価、豊富な専門職求人を獲得できている。また、既卒者への継続的なサポート体制も構築されている。 しかし、就職先が全国の広範な地域に広がっているため、遠方の卒業生や施設に対する、定期的な対面訪問による継続的な実態把握の時間の確保に工夫を要する。また、難化する国家試験への既卒者対策のアップデートも必要である。	遠方の施設に対してはオンライン面談や独自のアンケートフォームを活用した多角的なアプローチを導入する。また、既卒者に対しては、通信環境を活用した個別サポートや、仕事と勉強を両立しやすい自宅学習課題を提供するなど、状況に合わせた柔軟な支援を実施する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか			

参照資料	中項目総括	中項目の評定
国家試験模擬試験成績推移表・就職実績データ・既卒者対策講座案内	データ分析に基づく補習指導と、キャリアセンター・学科が一体となった就職支援により、学修成果および進路目標の達成に向けて高い水準の取り組みが維持されている。今後は、アルバイト等の個別事情を抱える学生への自宅学習支援を強固にするとともに、オンラインも活用した卒業生実態調査や既卒者支援を進め、時代に適応した職業人教育を推進する。	2-4-1 3.0 2-4-2 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	川村 智広
--------	-----------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【臨床工学技士科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	臨床工学技士法、臨床工学技士養成所指導ガイドライン、学則及び3つのポリシーを踏まえ、卒業認定方針・教育課程編成方針に基づく教育課程を編成している。学生便覧、教育課程表、シラバスに、授業科目、到達目標、評価方法を明示し、入学時・進級時のオリエンテーションで周知している。	法令に基づき、専門科目・基礎科目を体系的に配置している。特に、臨床実習や実習科目へ段階的に接続する構成により、知識・技術・態度を積み上げやすい。 一方で、入学時の数学・物理・読解力の差が大きく、教育課程の意義や到達目標の理解が十分に浸透しない学生もいる。	入学前教育、プレスクール、初年次の基礎学力補習を活用し、理数系基礎力と学習習慣の形成を早期に支援する。各科目と臨床工学技士国家試験・臨床業務との関連を授業内で明示し、学生が学ぶ意義を再確認できる機会を定期的に設ける。非常勤講師とも到達目標・評価観点を共有し、教育課程全体としての一貫性を高める。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	教育課程編成委員会を設置し、年2回開催している。関連業界、卒業生、実習施設等からの意見も聴取している。また、臨床実習では実習先技士長・実習指導者から評価・意見を得ており、その内容を学生へのフィードバックとして活用している。	臨床現場や卒業生とのネットワークを活用できる点は本学科の強みである。業界の求める知識・技術・態度を今日育に反映しやすい。 一方で、医療技術や業務範囲の変化が速く、学内教育と臨床現場の実態に乖離が生じないよう継続的な確認が必要である。	教育課程編成委員会、臨床実習施設訪問だけに止まらず、卒業生講話、学会・研究会参加を通じて、現場ニーズを継続的に把握する。 得られた意見は学科会議や講師会議で共有し、シラバス、実習前指導、課題研究、国家試験対策へ反映させる。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校において、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	臨床工学技士科昼間部では、国内の医療機関で臨床工学技士として就職することを想定し、キャリア実践、臨床実習事前指導、臨床実習、チーム医療論などの授業を通じて、日本の医療制度、職場規範、チーム医療、患者対応、履歴書作成・面接対応等を段階的に指導している。外国人留学生が在籍する場合には、担任、教科担当、キャリアセンターが連携し、個別面談や日本語面での支援を行う。	キャリアセンターと教務が連携して就職支援を行う体制があり、臨床実習や卒業生講話を通じて職業理解を深められる点は長所である。 一方で、学生によって日本語表現力、社会規範の理解、医療現場でのコミュニケーション力に差があるため、個別の状況に応じた支援が必要である。	就職活動の早期化を踏まえ、入学年次から日本の医療機関で求められる職業観、接遇、文書作成、面接対応を段階的に指導する。留学生等への支援が必要な場合は、担任とキャリアセンターが情報共有し、面談記録を活用しながら、就職先とのミスマッチ防止と定着支援につなげる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
臨床工学技士法・臨床工学技士養成所指導ガイドライン・教育指導要領・学生便覧・シラバス・教育課程編成委員会議事録	臨床工学技士科昼間部では、法令及び3つのポリシーに基づき、教育課程の編成方針と卒業認定方針を明確にし、学生便覧・教育課程表・シラバスで学生へ周知している。教育課程編成委員会、臨床実習施設、卒業生、関連業界からの意見を取り入れ、現場ニーズを教育内容へ反映している。今後は、入学時の基礎学力差への対応と、到達目標・職業観の継続的な意識づけをさらに強化する。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	前田 直人
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【臨床工学技士科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	各授業科目についてシラバスを作成し、講義、演習、実験、学内実習、臨床実習等の授業形態を教育目標に応じて配置している。 医療現場で活躍する非常勤講師や卒業生による講義、実習機器を用いた演習、国家試験問題を活用した演習を組み合わせ、実践的な理解を促している。成績評価は学則、内規、シラバスに基づき、定期試験、レポート、実技評価、出席状況等を総合して実施している。	授業形態を科目特性に応じて使い分け、国家試験対策だけではなく、現場に必要な知識や技術の学びを提供できている点は長所である。 一方で、成績上位者と下位者の学力差が大きく、基礎学力、語彙力、読解力の不足が専門科目の理解に影響している。また、常勤・非常勤間で学生の理解度や指導方法を共有する仕組みのさらなる充実が必要である。	小テスト、復習課題、国家試験過去問題演習等を活用し、学習状況を早期に把握する。 理解度が低い学生には補習、個別面談、学習計画の見直しを行う。カリキュラムアンケートや国家試験分析結果を常勤・非常勤講師へ共有し、授業改善、教材改善、評価基準の明確化を進める。Teams等のICTも活用し、予習・復習支援を強化する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	臨床工学技士養成課程として、臨床実習を行っている。臨床実習では、医療機関と連携し、臨床工学技士業務の見学・実施・評価を通じて、知識・技術・医療者態度の修得を図っている。 実習前には臨床実習マニュアルに基づき、医療安全、感染対策、守秘義務、接遇、報告・連絡・相談を指導している。	実習施設や関連業界との連携により、学内で学んだ知識を臨床現場と結びつけられる点が長所である。卒業生や実習指導者からの情報も教育改善に活用できている。 一方で、実習前の基礎知識・態度・主体性に学生差があり、臨床現場で求められる水準に早期から引き上げる必要がある。	臨床実習前教育を強化し、到達目標に基づくチェックリストや実技確認等を活用して準備状況を可視化する。 実習施設から得た評価や指摘事項は学科会議で共有し、翌年度の事前指導、授業内容、実習マニュアルへ反映する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
シラバス・教育指導要領・学生便覧・臨床実習要項・臨床実習評価表・教育課程編成委員会議事録	授業科目は、講義・演習・実験・実習を適切に組み合わせ、シラバスに基づいて実施している。企業等・医療機関・卒業生との連携により、臨床現場に即した実践的な教育を行っている。今後は、学生の基礎学力差や主体性の差に対応するため、形成的評価、補習、実習前教育、常勤・非常勤間の情報共有をさらに強化する	2-2-1 3.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	前田 直人
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【臨床工学技士科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	卒業認定方針、学則、臨床工学技士科内規に基づき、所定授業科目の単位修得、出席状況、実習評価、成績評価、卒業判定会議等により卒業認定を行っている。 成績評価の基準は学生便覧及びシラバスに明示し、定期試験、レポート、実技、臨床実習評価等を総合して判定している。進級・卒業に関わる判断は、学科会議、判定会議等で確認し、客観性と統一性の確保に努めている。	卒業認定基準は文書化されており、卒業の可否については、卒業判定会議において総合的に審議・判定している。これにより、卒業認定方針に基づいた適切な運用が行われている。 一方で、補習等により単位修得に至った学生の中には、国家試験合格や臨床現場で必要となる応用力の面で十分な到達が確認しきれない場合がある。今後は、通常科目の単位認定、卒業試験、卒業判定会議の各段階をより連動させ、単位修得と実質的な職業能力の修得をより強く結びつけることが課題である。	定期試験、模擬試験、実技評価、臨床実習評価を連動させ、早期から到達度を把握する。成績不振者には個別面談、学習計画の作成、補習、学習状況の定期確認を行う。 卒業判定に向けて、単位修得状況だけでなく、国家試験合格可能性、医療者態度、実習評価を総合的に確認し、必要な支援を前倒しで実施する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・臨床工学技士科内規	卒業認定は、卒業認定方針及び学則・内規に基づき、所定科目の単位修得、実習評価、出席状況、成績判定を総合して行っている。今後は、単位修得と国家試験合格に必要な実力、さらに臨床現場で求められる実践力・態度との接続をより明確にし、早期支援を徹底する。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	前田 直人
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況【臨床工学技士科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	卒業認定方針を踏まえ、臨床工学技士国家試験合格に必要な知識、臨床工学業務に必要な技術・技能、医療者としての態度を学修成果目標としている。各科目の成績、実技評価、臨床実習評価、課題研究、卒業認定試験、全国統一模試、出版社模試、国家試験結果等を用いて達成状況を把握している。	成績、模試、実習評価を用いて多面的に到達度を把握している。 一方で、学生間の学力差が大きく、国家試験合格水準への到達時期に差がある。特に基礎学力、読解力、工学系科目の理解に課題を抱える学生への早期対応が必要である。	模試・定期試験・小テストの結果を用いて危険領域の学生を早期に抽出し、個別面談、学習計画、補習、復習課題を組み合わせさせて支援する。 入学年次から第2種ME技術実力検定試験等を活用し、基礎力の定着を図る
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	学生の進路に関しては、第1専門職就職100%を目標とし、担任、学科、キャリアセンターが連携して支援している。 週1回程度の情報共有、就職フェア、業界特別講義、履歴書添削、面接練習、個別相談により、学生の就職活動状況を把握している。卒業生、就職先、実習先から得た情報も、進路指導やキャリア教育に反映している。	キャリアセンターと学科が連携し、就職フェア等を通じて多くの医療機関と接点を持てる点は長所である。 就職活動が早期化する一方、国家試験対策との両立が難しい学生もおり、就職活動開始時期や志望先選択に個人差が生じることが課題である。卒業生・就職先からの評価を継続的に収集する仕組みもさらに強化する必要がある。	入学年次から職業理解、業界研究、卒業生講話、実習先情報の共有を行い、早期に進路意識を高める。 成績状況・国家試験合格可能性を踏まえ、学生ごとに就職活動計画を作成し、担任とキャリアセンターが支援する。 就職先訪問、卒業生講話、同窓会、実習施設からの評価を活用し、教育内容と進路支援の改善につなげる。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	卒業生、実習先、就職先から得た評価や意見を基に、就職先から求められる能力を学科内で共有し、キャリア教育、実習前指導、授業改善に反映している。	卒業生との関係性が個別的・断続的になりやすく、全体的・継続的なデータとして蓄積する仕組みには改善の余地がある。 一方、就職先や実習先からの評価を、学科全体の教育改善に結びつけるプロセスの標準化が課題である。	卒業生・就職先・実習先からの意見を記録する様式を整備し、学科会議で定期的に共有する。 卒後 1 年目を中心とした近況確認、同窓会、卒業生講話を計画的に実施し、在校生のキャリア形成と教育改善に活用する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・臨床実習要項・本校 HP	学修成果目標として、臨床工学技士国家試験合格に必要な知識、臨床実習・学内実習を通じた技術、医療者としての態度を設定し、成績、模試、実習評価、国家試験結果等により達成状況を把握している。進路については、キャリアセンターと学科が連携し、第 1 専門職就職 100%を目標に支援している。今後は、学力差への早期対応と、卒業生・就職先・実習先からの評価を継続的に教育改善へ反映する仕組みを強化する。	2-4-1 3.0 2-4-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	前田 直人
--------	-----------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【臨床工学技士科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	教育課程の編成にあたっては、養成施設指定規則及び臨床工学技士国家試験出題基準を踏まえ、本校の教育理念及び育成人材像に基づき実施方針を定めている。基礎から専門基礎、専門へと段階的に学習できる教育課程を編成し、講義・演習・実習を適切に配置している。また、教育課程編成委員会や関連業界からの意見を参考にしながら、社会のニーズや医療技術の変化を踏まえた見直しを継続的に実施している。	教育課程は系統性及び段階性を考慮して編成されており、臨床実習や国家試験対策とも連携した教育を実施している。また、夜間部の特性を踏まえ、社会人学生にも配慮した教育を行っている。一方で、医療技術の進歩や国家試験の出題傾向の変化に対応するため、教育内容の継続的な見直しや、学生の基礎学力に応じた教育課程の工夫が求められている。	教育課程編成委員会や業界関係者からの意見を積極的に取り入れ、教育内容の改善を継続していく。また、カリキュラムアンケートや学習成果の分析結果を活用し、授業内容や教育方法の見直しを行うとともに、低学年から基礎学力の定着を図る教育を充実させる。さらに、国家試験対策や臨床実習との連携を強化し、社会が求める臨床工学技士の育成に努める。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	職業実践専門課程の趣旨に基づき、教育課程編成委員会を設置し、関連医療機関や業界関係者、有識者等の意見を取り入れながら教育課程の編成及び改善を行っている。委員会は年2回開催し、臨床工学技士を取り巻く医療環境や業界の動向、国家試験の出題傾向、臨床実習及び就職状況等について情報共有を行い、教育内容や指導方法の改善に反映している。	教育課程編成委員会を定期的に開催し、医療現場や関連業界からの意見を教育活動に反映できる体制を構築している。また、委員会で得られた意見を教職員間で共有し、教育内容や学生指導の改善につなげている。 一方で、医療技術や社会情勢の変化が加速する中、より迅速に教育課程へ反映するとともに、教育効果を継続的に検証していくことが求められる。	教育課程編成委員会通して、関連医療機関や業界団体との連携を強化する。また、委員会で得た意見を教職員間で共有し、シラバスや授業内容、臨床実習及びキャリア教育等へ具体的に反映するとともに、その成果を検証しながら教育課程の継続的な改善を図る。更に、医療DXや生成AIなど新たな医療環境の変化についても情報収集を行い、社会が求める臨床工学技士の育成に努める。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	本学科では、外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程には該当しないが、外国人留学生が在籍する場合には、学生便覧やオリエンテーション、キャリア教育等を通じて、日本の医療制度や医療従事者として求められる倫理観、職業意識及び社会人として必要なルールやマナーについて理解を深める教育を実施している。また、必要に応じて個別相談や就職支援を行う体制を整備している。	医療人教育やキャリア教育を通じて、日本社会及び医療現場で必要とされる基本的な知識や職業観を学ぶ機会を設けている。また、学生個々の状況に応じた対応が可能な教育環境を整えている。 一方で、外国人留学生の受入状況や社会情勢の変化に応じて、より効果的な支援体制や教育内容について継続的に検討していく必要がある。	キャリア教育や医療倫理教育を通じて、日本社会及び医療現場への理解を深める教育を継続するとともに、外国人留学生の受入状況に応じて、就職支援や生活支援に関する情報提供の充実を図る。 また、関連部署や業界との連携を強化し、多様な背景を持つ学生が安心して学び、将来のキャリア形成につなげられる教育環境の整備に努める。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・教育課程表・シラバス・教育課程編成委員会議事録・臨床工学技士国家試験出題基準・臨地実習要項・時間割表・学校案内パンフレット・学校ホームページ・キャリア教育関連資料	本学科では、教育理念及び育成人材像に基づき、教育課程編成・実施方針を定め、基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと段階的に学修できる体系的な教育課程を編成している。また、教育課程編成委員会を定期的に開催し、病院及び関連業界等からの意見を取り入れながら、社会のニーズや医療技術の進歩に対応した教育内容の充実を図っている。 職業実践専門課程として、臨地実習や業界講師による実践的な教育を教育課程に位置付けるとともに、キャリア教育を通じて医療人及び職業人として必要な知識、倫理観及び社会性の育成に努めている。また、教育課程や教育内容については継続的な点検・見直しを行い、教育の質向上に取り組んでいる。 夜間部の特性を踏まえ、多様な経歴を持つ学生が段階的に学修を進められる教育環境を整備し、社会が求める実践力を備えた臨床工学技士の育成を目指している。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	澤田 正二
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【臨床工学技士科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	授業科目において、教育目標及び授業内容に応じて講義、演習、実習及び実技を適切に組み合わせた教育を実施している。授業ごとにシラバスを作成し、教育目標、授業計画、成績評価基準等を学生へ周知している。また、映像教材や実習機器等を活用した実践的な教育を行うとともに、小テストや定期試験、模擬試験等を通じて学習状況を把握し、必要に応じて補習や個別指導を実施している。成績評価については、学則及びシラバスに基づき、公正かつ厳格に運用するとともに、学生からの相談や問い合わせにも適切に対応している。	各授業科目において教育内容に応じた授業形態及び教材を活用し、知識と技術の修得を図っている。また、シラバスによる学習目標の明確化や、小テスト、補習等を通じて学生の理解度に応じた指導を実施している。 一方で、入学時の学力差や夜間部学生の就労状況などを考慮すると、個々の学生に応じた学習支援や、自宅学習を促進する取組を継続して充実させる必要がある。	シラバスや講義資料を活用した授業運営を継続するとともに、小テストや学習成果の分析結果を活用し、学生の理解度に応じた教育を推進する。また、補習や個別指導を充実させ、基礎学力の向上及び学習習慣の定着を図る。さらに、実践的な教材や ICT 教材を活用した教育方法の工夫を進め、臨床現場及び国家試験の双方に対応できる知識・技術の修得を支援するとともに、公正かつ厳格な成績評価体制の維持に努める。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	本学科では、職業実践専門課程の趣旨に基づき、病院、医療機器関連企業等と連携し、実習、実技及び演習を実施している。特に臨地実習においては、実習施設と教育目標及び到達目標を共有し、実習指導者との連携のもと実践的な教育を行っている。また、実習前後の指導や評価を通じて学習成果を確認し、成績評価に反映している。連携教育については教育課程上に適切に位置付け、職業実践教育として必要な授業時間数を確保している。	医療現場及び関連企業と連携した実践的な教育を実施しており、臨床工学技士として必要な知識、技術及び職業意識の習得につなげている。また、実習施設や業界関係者からの意見を教育内容の改善に活用している。 一方で、医療技術や医療機器の進歩に対応するため、連携施設との情報共有を継続し、実践教育の内容を適宜見直していく必要がある。	実習施設及び関連企業との連携を継続・強化し、教育目標及び到達目標の共有を図るとともに、実習後の評価や意見交換を教育課程の改善に活用していく。 また、臨床現場で求められる知識や技術、医療安全及び最新の医療機器に関する内容を教育へ積極的に取り入れ、より実践的な職業教育を推進する。さらに、実習前後の指導体制を充実させ、学生の学習効果及び職業意識の向上を図る。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・成績評価基準・時間割表・臨地実習要項・臨地実習施設一覧・臨地実習評価表・教育課程編成委員会議事録・カリキュラムアンケート・講義記録	本学科では、教育目標に基づき、講義、演習、実習及び実技を適切に組み合わせた教育を実施している。各授業科目ではシラバスを作成し、教育内容や成績評価基準を明示するとともに、小テストや定期試験等を活用して学習到達度を把握し、必要に応じて補習や個別指導を実施している。また、職業実践専門課程として、病院及び医療機器関連企業等と連携した実践的な教育を展開しており、臨地実習や業界講師による授業を通じて、臨床工学技士として必要な知識、技術及び職業観の育成を図っている。実習施設や業界関係者との連携を通じて得られた意見や評価については、教育内容や指導方法の改善に活用し、継続的な教育の質向上に努めている。 夜間部の特性を踏まえ、就労と学業を両立する学生に配慮した学習支援を行うとともに、実践力と問題解決能力を備えた臨床工学技士の育成を目指している。	2-2-1 3.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	澤田 正二
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【臨床工学技士科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	本学科では、教育理念及び育成人材像に基づき、卒業認定方針を定めている。卒業認定基準については、学則及び学生便覧等に明示し、オリエンテーション等を通じて学生へ周知している。また、各授業科目の単位修得状況及び必要な教育課程の履修状況を確認し、卒業判定会議において基準に基づき公正かつ適正に卒業認定を実施している。	卒業認定方針及び認定基準を明確に定め、教職員間で共有するとともに、学生へ周知を図っている。また、成績や学習状況を継続的に把握し、必要に応じて個別指導や学習支援を実施している。 一方で、多様な背景を持つ夜間部学生に対しては、卒業及び資格取得に向けた意識付けや学習支援を継続的に行う必要がある。	卒業認定方針及び認定基準について、オリエンテーションや個別面談等を通じて継続的に周知を図るとともに、学生の学習状況や単位修得状況を適切に把握し、早期から必要な支援を実施する。 また、教職員間で情報共有を行い、公正かつ厳格な卒業認定体制を維持するとともに、国家試験受験資格の取得及び社会で活躍できる臨床工学技士の育成につながる教育を推進する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・成績評価基準・卒業判定会議資料・臨床工学技士科内規・臨床工学技士国家試験出題基準・単位認定関係資料	本学科では、教育理念及び育成人材像に基づき卒業認定方針を定め、学則及び学生便覧等を通じて学生に周知している。各授業科目の単位修得状況及び教育課程の履修状況を適切に把握し、卒業認定基準に基づき公正かつ適正な卒業認定を実施している。また、学生の学習状況や成績を継続的に把握し、必要に応じて個別指導や学習支援を行うことで、卒業及び国家試験受験資格取得に向けた支援体制を整備している。卒業判定にあたっては、教職員間で情報共有を行い、客観性及び公平性を確保するとともに、社会で活躍できる臨床工学技士の育成を目指した教育を推進している。夜間部の特性を踏まえ、多様な学生に対してきめ細かな指導を行い、教育の質の向上及び適切な卒業認定体制の維持に努めている。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	澤田 正二
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況【臨床工学技士科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	本学科では、卒業認定方針に基づき、臨床工学技士として必要な知識、技術、技能及び職業人としての資質の修得を教育目標として定めている。各授業科目の成績や単位修得状況に加え、臨地実習、卒業認定試験、模擬試験及び各種資格取得状況等を通じて、学生の到達度を総合的に把握し評価している。また、学習成果については教職員間で情報共有を行い、学生指導及び教育内容の改善に活用している。	授業成績だけでなく、臨地実習や資格取得状況、模擬試験等を活用し、多面的に学生の職業能力を評価している。また、学習状況を継続的に把握し、必要に応じて個別指導や学習支援を実施している。 一方で、多様な背景を持つ夜間部学生に対しては、基礎学力や学習習慣の定着を図りながら、職業能力をより効果的に評価し、育成していく取組を継続する必要がある。	各種試験や臨地実習、資格取得状況等を活用した学習成果の把握を継続するとともに、学生の到達度を教職員間で共有し、早期から適切な学習支援を実施する。また、卒業認定試験や模擬試験等の結果分析を教育活動へ反映し、知識及び技術の修得だけでなく、問題解決能力や職業人意識の向上を図る。さらに、夜間部の特性を踏まえた継続的な指導を通じて、社会が求める実践力を備えた臨床工学技士の育成に努める。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	本学科では、学生一人ひとりの希望や適性を踏まえ、就職及び進学に関する目標を設定し、その達成に向けた支援を実施している。キャリアセンターと連携しながら、個別面談や就職指導、履歴書添削、面接指導等を行うとともに、臨地実習や卒業生講演等を通じて職業意識の向上を図っている。また、卒業生や就職先からの意見を収集し、教育内容や学生指導の改善に活用している。	学生の希望や適性に応じた個別支援を実施するとともに、キャリアセンターや実習施設等と連携し、就職及び進学に向けた支援体制を整備している。 また、卒業生や業界関係者とのつながりを活用し、職業観やキャリア形成について学ぶ機会を設けている。 一方で、多様な背景を持つ夜間部学生に対し、個々のライフプランや就業状況に応じた、よりきめ細かなキャリア支援を継続していく必要がある。	キャリアセンター及び関連医療機関との連携を継続し、個別面談や就職指導を充実させるとともに、卒業生講演や臨地実習を活用したキャリア教育を推進する。 また、卒業生や就職先から得られた意見を教育活動へ反映し、教育課程や学生指導の継続的な改善を図る。さらに、夜間部学生の多様な進路希望や就業状況を踏まえ、それぞれの目標達成に向けた支援体制の充実に努める。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など 関連する企業及びその他組織 の意見や在学生の意見を勘案 するなど、多角的、継続的な視 点に立った検証方法等について 工夫をしているか			

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・ 成績評価基準・卒業認定試験資料・ 模擬試験結果・臨地実習要項・臨地 実習評価表・就職指導資料・キャリ ア教育関連資料・卒業生講演資料・ 就職先訪問報告書	本学科では、卒業認定方針に基づき、臨床工学技士として必要な知識、技術及び職業人としての資質の修得を教育目標として定め、各授業科目の成績、臨地実習、卒業認定試験、模擬試験及び資格取得状況等を活用し、学生の学修成果を総合的に把握・評価している。また、その結果を教職員間で共有し、個別指導や教育内容の改善に活用している。 進路支援については、キャリアセンター及び関連医療機関と連携し、個別面談や就職指導、臨地実習及び卒業生講演等を通じて、学生の希望や適性に応じたキャリア形成を支援している。また、卒業生や就職先から得られた意見や評価を教育活動へ反映し、継続的な教育の質向上及び学生支援体制の充実を図っている。 夜間部の特性を踏まえ、多様な経歴や就業環境を持つ学生一人ひとりに応じた学習支援及び進路指導を実施し、社会が求める実践力を備えた臨床工学技士の育成に努めている。	2-4-1 3.0 2-4-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	澤田 正二
--------	-----------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【臨床工学技士専攻科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	臨床工学技士学校養成所指定規則及び臨床工学技士養成所指導ガイドライン、臨床工学技士国家試験出題基準を踏まえ、本校の教育理念及び育成人材像に基づき教育課程編成・実施方針を策定している。	基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと段階的に学習できる教育課程を編成し、講義・演習・実習を適切に配置している。 また、関連業界からの意見を参考にしながら、社会のニーズや医療技術の変化を踏まえた見直しを継続的に実施している。	本科は、1年間で基礎分野・専門基礎分野・専門分野を学ぶ必要がある。また、全ての分野を段階的に学ぶ時間割を組むことができない。 講義や実習は、事前に学習すべき内容を補習しながら実施するように努めている
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	臨床実習及び就職状況について医療現場の臨床工学技士と情報共有を行い、教育内容や指導方法の改善に反映している。	臨床工学技士を取り巻く医療環境は著しく変化している。 より迅速に教育課程へ反映するとともに、教育効果を継続的に検証していくことが求められる。	臨床工学技士の将来像から学ぶべき基礎科目を再考し、重点的教育課程編成を考える。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	本学科では、外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程には該当しないが、日本語学科において日本語を学び、入学前教育として医療機器の基礎的知識を習得した学生の入学を受け入れている。 また、学内実習や病院実習で、日本の医療制度や医療従事者として求められる倫理観、職業意識及び社会人として必要なルールやマナーについて学んでいる。	本校の日本語学科で日本語と、早期に医用機器について学ぶことができる。臨床工学技士に必要な学問を学ぶ基礎を身に着けることができる。 一方、日本における社会人や医療人であるための応用事項を習得するには至っていない。	外国人の臨床工学技士国家試験合格率は非常に高い。しかしながら職業人として日本の病院で実績を積むのに苦労している。 就職先のマッチング精度を向上させる必要がある。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
臨床工学技士法・臨床工学技士学校養成所指定規則・臨床工学技士養成所指導ガイドライン・教育指導要領・学生便覧・シラバス	本学科では、臨床工学技士法・臨床工学技士学校養成所指定規則・臨床工学技士養成所指導ガイドラインに基づき、専門基礎分野から専門分野へと段階的に学修できるよう教育課程を編成している。また、社会のニーズや医療技術の進歩に対応した教育内容の充実を図っている。臨床実習や業界講師による実践的な教育を実施し、医療人として必要な知識・技術・技能、倫理観及び社会性の育成に努めている。また、教育内容については継続的な点検・見直しを行い、教育の質向上に取り組んでいる。 専攻科の特性を踏まえ、多様な経歴を持つ学生が、臨床現場で成長できるよう教育環境を整備し、社会が求める多様な臨床工学技士の育成を目指している。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	梶脇 栄治
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【臨床工学技士専攻科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	各授業科目についてシラバスを作成し、教育目標及び授業内容に応じて、講義、演習、実習、臨床実習等の授業形態を適切に組み合わせた教育を実施している。 授業科目ごとに到達目標、授業内容、評価方法を明示し、筆記試験、レポート、実技評価、出席状況等を総合して成績評価を行っている。 成績評価については、学則及びシラバスに基づき、公正かつ厳格に運用するとともに、学生からの相談や問い合わせにも適切に対応している。	講義、演習、学内実習を組み合わせ、知識と技術・技能を関連づけながら学修できる。 入学時の工学知識・医学知識に、大きな学力差あるのが現状である。 個々の学生に応じた学習支援や、自宅学習を促進する取組を継続して充実させる必要がある。	入学前の学習として、工学系クラスの学生には工学基礎科目を、医学系クラスの学生には医学系基礎科目を学習し直してから入学するよう促す。 入学後は、早期に基礎学力を取り戻せるよう、放課後補習などを実施する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	臨床現場の臨床工学技士に実習・講義を行ってもらっている。 臨床実習においては、医療機関と連携し、臨床工学技士業務の見学・実施・評価を通じて、知識・技術・医療人の心構えの修得に努めている。 臨床実習前後の指導や評価を通じて学習成果を確認し、成績評価に反映している。	学内教育の中で、実地の臨床工学技士の知識・技術・心情を学ぶことができる。 専任教員の知識・技術・技能を臨床現場の現状に追従していくために、学会・研修会・勉強会・病院見学の継続、新しい分野へのチャレンジ精神が必要である。	継続して臨床現場の臨床工学技士に学生の教育に協力してもらえ体制を構築していく。 専任教員は、積極的に関係学会に参加し新しい知識・技術を習得する。各人が新しい分野の資格取得にチャレンジする。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・臨床実習ガイドライン	各教科のシラバスに基づき、講義・演習・実習・試験を実施している。臨床工学技士が培うべき、知識・技術・技能を鑑みて適切な教材が用いられている。 近年の働き方改革による臨床工学技士の業務拡張を考慮して、新しい分野の業務に対応できるよう、知識・技術の修得目標を修正していく必要がある。 専攻科特有の工学系・医学系の経験を活かした就職活動を展開する。より工学に強い学生、より医学に強い学生を育成する。	2-2-1 3.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	刈脇 栄治
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【臨床工学技士専攻科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	卒業認定基準については、学則及び学生便覧、内規に明示し、オリエンテーション等を通じて、学生に資料配布や詳細説明をもって明示している。また、学科長会議等で適時基準を確認し、客観性・統一性の確保に取り組んでいる。 入学前に科目履修認定を行い、入学後に再度本人との面談により確認し、科目履修認定の判定を行っている。	卒業判定基準は文書化されており、卒業判定会議において、基準に基づき、公正かつ適正な卒業認定を実施している。 本試験不合格のため再試験に至る学生が増えている。特に工学系基礎科目が不合格になる傾向がある。1年制過程であり履修科目が多く、補習実施が困難である。低学力者への修学援助が課題となっている。	通常科目に関しては、適時学生の進捗状況を把握し、低学力者への放課後個別指導（補習）を実施する。 科目履修認定済科目、特に工学系基礎科目に関しては、正規の講義時間帯に工学系クラスが受講できるように時間割を調整している。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・学生指導要領 ・学生便覧 ・学則 ・内規 ・卒業判定会議資料	卒業認定は、卒業判定会議において判定基準に基づき、公正かつ適正に実施されている。また、医学と工学の幅広い分野への興味を早期に持つてもらう必要がある。学生の学習状況や成績を継続的に把握し、必要に応じて個別指導や学習支援を行うことで、卒業及び国家試験受験資格取得に向けた支援を行っている。 しかしながら、各学生の習得スピードや継続能力には個別差が大きく、正確に把握することは非常に困難である。	3.0

最終更新日付

2026年6月1日

記載責任者

刈脇栄治

2-4 学修成果目標の達成状況【臨床工学技士専攻科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	卒業認定方針に基づき、臨床工学技士として必要な知識、技術、態度、職務遂行能力の修得状況を、座学科目の成績評価、実習科目の実技評価、臨床実習評価、卒業認定試験の点数等を通じて把握している。	就業には、患者への対応・職種間の協働力など人間性が非常に重要である。授業成績だけでなく、臨床実習や資格取得状況、模擬試験の結果を活用し、多面的に学生の職業能力を評価している。 1年という短い期間で、より効果的に評価し、育成していく仕組み作りを継続する必要がある。	科目履修試験、実習評価、臨床実習評価、卒業認定試験、国家試験模擬試験の結果を総合的に確認し、各学生の課題を早期に把握する。 入学後、早期の生活習慣・学習習慣の確立がより重要になってきている。より頻回の細かい学力評価と個別面談が必要である。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	臨床工学技士専攻科は1年制課程であり、臨床工学技士資格の取得に関しては、明確な目標を持って入学してくる。 卒業後の進路に関しては、担任・学科教員・キャリアセンターが連携して、就職活動の支援を行っている。 個別面談や就職指導、履歴書添削、面接指導を行い、学生が臨床工学技士としての職業理解を深め、自身の希望や適性に応じた進路が選択できるよう支援している。	担任・学科教員・キャリアセンターが連携し、学生の希望や適正、状況に応じて進路指導できている。 求人の早期化や求人状況の変化に対応するために、入学前教育を強化しているが、春期の就職を勝ち取ることは非常に困難である。	より頻回に学力面談・就職面談を実施し、早期の就職活動を円滑に進める必要がある。 入学後早期から職業理解を深める機会を設け、就職説明会・卒業生講話・施設情報の提供・履歴書作成・面接指導を実施する。 担任、学科教員、キャリアセンターが学生情報を共有し、個別面談を通じて希望進路や就職活動状況を把握することで、進路決定と就職後のミスマッチ防止につなげる。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	卒業生や臨床実習施設、就職先医療機関から卒業生の入職後の現状を聞いている。 臨床実習前の病院訪問時や病院関係者の来校時、卒業生公演時など適時就職先の情報把握に努めている。 また、得られた情報を教員間で共有し、教育内容・実習前指導・国家試験対策・就職支援の改善に活用している。	臨床実習施設や就職先との関係を通じて、医療現場で求められる知識・技術・職業意識等について、具体的な意見を得ることができている。 卒業生や就職先からの意見を、より継続的・体系的に収集し、教育内容へ反映する仕組み作りが必要である。	入職後の学生把握を継続的にを行い、就職先と卒業生の知識・技術・技能だけでなく、人間性やライフスタイルのマッチング精度を上げて行く、教職員側の能力を上げて行く必要がある。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・臨床実習ガイドライン・就職先訪問報告書	成績評価、実技評価、臨床実習評価、卒業認定試験、国家試験模擬試験を通じて、学生の修学達成状況を把握している。また、担任・学科教員・キャリアセンターが連携し、学生の希望や適性に応じた進路支援を行っている。	2-4-1 3.0 2-4-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	瀧脇 栄治
--------	-----------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【診療放射線技師学科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	診療放射線技師法、診療放射線技師学校養成所指定規則、国家試験出題基準、学則及び3つのポリシーに基づき、教育課程を編成している。基礎分野、専門基礎分野、専門分野を体系的に配置し、診療画像検査、放射線治療、核医学、医療安全、感染対策、患者接遇等を段階的に学修できるようにしている。	法令及び指定規則に基づき、診療放射線技師として必要な知識・技術・態度を段階的に修得できる教育課程を編成している。基礎科目から専門科目、学内実習、臨床実習へとつながる構成により、医療現場を意識した学修を進めることができる。 一方で、入学時の基礎学力や学習習慣には差があり、専門科目の理解度に差が生じる場合がある。	入学前教育、基礎学力補習、小テスト、復習課題、個別面談等を活用し、学生の理解度を早期に把握する。 学修状況に応じて補習や個別支援を行い、国家試験、臨床実習、卒業後の職業実践につながるよう、教育課程全体としての一貫性を高める。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	教育課程編成委員会を設置し、関連医療機関、臨床実習施設、卒業生、業界関係者等から意見を得ながら教育課程の見直しを行っている。また、臨床実習施設からの評価や意見、国家試験の出題傾向、医療現場で求められる安全管理、患者対応、放射線防護等の視点を、シラバス、実習前指導、課題研究、国家試験対策等に反映している。	教育課程編成委員会や臨床実習施設との連携により、医療現場のニーズを教育内容に反映しやすい体制が整っている。卒業生や関連医療機関からの意見も、学生の職業理解や実践力の向上に活用できている。 一方で、画像診断機器、放射線治療技術、医療安全、患者対応など、医療現場の変化が速いため、教育内容を継続的に確認し更新する必要がある。	教育課程編成委員会、臨床実習施設訪問、卒業生講話、非常勤講師との情報共有等を通じて、現場ニーズを継続的に把握する。得られた意見は学科会議や講師会議で共有し、シラバス、実習前指導、課題研究、国家試験対策に反映させることで、診療放射線技師として必要な実践力の育成につなげる。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	外国人留学生が在籍する場合、日本国内で診療放射線技師として就職することを見据え、日本の医療制度、医療安全、患者対応、職業倫理、医療用語等の理解を支援している。授業、実習前指導、個別面談等を通じて、日本の医療現場で必要となる知識・態度を身につけられるよう、担任、科目担当者、キャリアセンターが連携して支援を行っている。	担任、科目担当者、キャリアセンターが連携し、学修面、実習面、就職面の支援を行う体制が整っている。特に、臨床実習や就職活動に向けて、日本の医療現場で求められる職業理解やコミュニケーションを段階的に指導できている。 一方で、専門用語の理解、日本語表現、患者対応、医療現場特有の文化理解には個人差があり、個別の状況に応じた継続的な支援が必要である。	入学後早期から日本語力、学修状況、職業理解の状況を確認し、担任、科目担当者、キャリアセンターが情報共有しながら支援を行う。 臨床実習や就職活動に向けて、履歴書作成、面接指導、医療現場でのコミュニケーション指導を段階的に実施し、就職後のミスマッチ防止と定着支援につなげる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
診療放射線技師・診療放射線技師学校養成所指定規則・国家試験出題基準・教育指導要領・学生便覧・教育課程表・シラバス	診療放射線技師法、診療放射線技師学校養成所指定規則、国家試験出題基準及び3つのポリシーに基づき、教育課程の編成方針と卒業認定方針を明確にしている。基礎分野、専門基礎分野、専門分野を体系的に配置し、教育課程表、シラバス、学生便覧等を通じて学生へ周知している。また、教育課程編成委員会、臨床実習施設、卒業生、関連医療機関等からの意見を踏まえ、医療現場で必要とされる知識・技術・態度を修得できるよう教育内容の改善に取り組んでいる。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【診療放射線技師学科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	各授業科目は、シラバスに基づき、講義、演習、実験、学内実習、臨床実習等を組み合わせて実施している。診療画像検査、放射線治療、核医学、放射線計測、医療安全、感染対策、患者接遇等について、科目の特性に応じた授業形態を設定している。また、授業科目ごとに到達目標、授業内容、評価方法を明示し、筆記試験、レポート、実技評価、出席状況等を総合して成績評価を行っている。	講義、演習、実験、学内実習を組み合わせることで、知識と技術を関連づけながら学修できる点が長所である。国家試験や臨床実習を見据えた指導も行っており、医療現場で必要となる基礎的能力の修得につなげている。 一方で、専門科目では物理、数学、解剖、生理、画像解剖等の基礎知識が必要となるため、基礎学力や学習習慣に差がある学生への継続的な支援が課題である。	小テスト、復習課題、補習、個別面談等を活用し、学生の理解度や学修状況を早期に把握する。理解度が低い学生には補習や個別支援を行い、国家試験過去問題、実習前課題、ICT教材等も活用しながら、基礎科目と専門科目の接続を意識した学修支援を強化する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	臨床実習施設と連携し、臨床実習要項に基づいて実習を実施している。実習前には、医療安全、感染対策、患者確認、接遇、守秘義務、報告・連絡・相談等について事前指導を行い、臨床現場で必要となる知識・技術・態度の修得を図っている。また、実習施設とは実習内容、到達目標、評価方法を共有し、実習評価を通じて学生の到達状況を確認している。	臨床実習施設との連携により、学生が実際の医療現場を理解し、診療放射線技師としての職業意識を高める機会となっている。実習施設からの評価や意見を教育改善に活用できる点も長所である。 一方で、実習施設ごとに検査内容や運用方法が異なるため、学生が共通して身につけるべき基礎的事項を継続的に整理する必要がある。	臨床実習施設から得られた評価や指摘事項を学科内で共有し、実習前教育、授業内容、実習マニュアル、シラバス等に反映させる。実習後には振り返りや報告会を実施し、学生が実習経験を整理できるよう支援する。今後も臨床実習施設との情報共有を継続し、医療現場で求められる知識・技術・態度の修得につなげる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
シラバス・教育指導要領・学生便覧・臨床実習要項・臨床実習評価表・実習前教育資料・実習施設依頼文書・承諾書・国家試験対策資料	講義、演習、実験、学内実習、臨床実習を組み合わせ、シラバスに基づいて教育課程を実施している。各授業科目では、到達目標、授業内容、評価方法を明示し、筆記試験、レポート、実技評価、出席状況等を総合して成績評価を行っている。また、臨床実習施設と連携し、実習前教育、実習評価、実習後の振り返りを通じて、医療現場で必要となる知識・技術・態度の修得を図っている。	2-2-1 3.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【診療放射線技師学科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	卒業認定方針、学則、学科内規、シラバス等に基づき、単位認定及び卒業認定を行っている。各授業科目では、到達目標、評価方法、評価基準をシラバスに明示し、筆記試験、レポート、実技評価、臨床実習評価、出席状況等を総合して成績評価を実施している。また、単位認定及び卒業認定については、学科会議や判定会議等で確認し、客観性と公平性の確保に努めている。	単位認定及び卒業認定の基準は、学生に周知したうえで適切に運用している。補習や再評価等により、学修到達度の確認にも努めている。 一方で、専門科目の理解度、臨床実習評価、卒業試験、国家試験合格に必要な学力をより連動させ、卒業時の到達度をさらに高めることが課題である。	評価基準や卒業認定方針を学生にわかりやすく説明し、到達目標と評価方法の理解を促す。定期試験、実技評価、臨床実習評価、卒業試験、国家試験対策の結果を総合的に確認し、学修到達度に応じて補習、個別面談、学修計画の見直しを行う。これにより、診療放射線技師として必要な知識・技術・態度の修得を支援する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・学科内規・成績評価資料・卒業判定資料・臨床実習評価表・国家試験対策資料	卒業認定方針、学則、学科内規、シラバス等に基づき、単位認定及び卒業認定を適切に実施している。各授業科目では、到達目標と評価基準を明示し、筆記試験、レポート、実技評価、臨床実習評価等を総合して成績評価を行っている。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況【診療放射線技師学科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	卒業認定方針に基づき、診療放射線技師として必要な知識、技術、態度、職務遂行能力の修得状況を、授業科目の成績評価、実技評価、臨床実習評価、卒業試験、国家試験対策等を通じて把握している。	授業、学内実習、臨床実習、国家試験対策を通じて、学生の学修成果を段階的に確認できている点が長所である。特に、臨床実習評価や国家試験対策の結果を活用し、学生の到達状況を把握している。	定期試験、小テスト、実技評価、臨床実習評価、卒業試験、国家試験模擬試験等の結果を総合的に確認し、学生ごとの課題を早期に把握する。理解度が不十分な学生には、補習、個別面談、復習課題、学修計画の見直しを行っている。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	診療放射線技師学科昼間部では、学生の進路に関する目標を明確にし、担任、学科教員、キャリアセンターが連携して就職・進学支援を行っている。就職説明、求人情報の提供、履歴書作成指導、面接指導、個別面談等を通じて、学生が診療放射線技師としての職業理解を深め、自身の希望や適性に応じた進路選択ができるよう支援している。	担任、学科教員、キャリアセンターが連携し、学生一人ひとりの希望や状況に応じた進路支援を行っている点が長所である。臨床実習や卒業生講話等を通じて、職業理解を深める機会も設けている。 一方で、就職活動の早期化や求人状況の変化に対応するため、低学年からの職業意識形成と計画的な進路支援をさらに強化する必要がある。	入学後早期から職業理解を深める機会を設け、学年進行に応じて就職説明、卒業生講話、施設情報の提供、履歴書作成、面接指導を段階的に実施する。担任、学科教員、キャリアセンターが学生情報を共有し、個別面談を通じて希望進路や就職活動状況を把握することで、進路決定と就職後のミスマッチ防止につなげる。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	卒業生、臨床実習施設、就職先医療機関等からの意見は、臨床実習評価、施設訪問、求人对応、卒業生講話、就職後の情報共有等を通じて把握している。得られた意見は、学科会議や教員間で共有し、教育内容、実習前指導、国家試験対策、就職支援の改善に活用している。	臨床実習施設や就職先との関係を通じて、医療現場で求められる知識・技術・態度、職業意識、患者対応等について具体的な意見を得ることができている。これらを教育改善に活用できる点が長所である。 一方で、卒業生や就職先からの意見をより継続的・体系的に収集し、教育内容へ反映する仕組みをさらに整える必要がある。	臨床実習施設訪問、就職先との情報交換、卒業生講話、卒業生アンケート等を活用し、卒業後の活躍状況や現場で求められる能力を継続的に把握する。得られた情報は学科会議で共有し、シラバス、実習前教育、キャリア教育、国家試験対策に反映させ、進路支援と教育改善の充実につなげる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
シラバス・臨床実習要項・臨床実習評価表・実習施設訪問記録・求人票・就職支援資料・卒業生講話資料・国家試験対策資料	卒業認定方針に基づき、授業科目の成績評価、実技評価、臨床実習評価、卒業試験、国家試験対策等を通じて、学生の学修成果の達成状況を把握している。また、担任、学科教員、キャリアセンターが連携し、学生の希望や適性に応じた進路支援を行っている。	2-4-1 3.0 2-4-2 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

2-1 教育課程の編成と授業科目【診療放射線技師学科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	診療放射線技師法、診療放射線技師学校養成所指定規則、国家試験出題基準、学則及び3つのポリシーに基づき、教育課程を編成している。4年制課程として、基礎分野、専門基礎分野、専門分野を体系的に配置し、診療画像検査、放射線治療、核医学、医療安全、感染対策、患者接遇等を段階的に学修できるようにしている。	診療放射線技師国家試験の受験資格取得を目標とし、必要な知識・技術・態度を段階的に修得できる教育課程を編成している。夜間開講の特性を活かし、社会人経験を有する学生や多様な学習歴を持つ学生が学修を継続できる点が長所である。 一方で、仕事や生活と学修を両立する学生もおり、授業外学修時間の確保や基礎学力差への対応が課題である。	夜間部の学生背景に配慮し、入学前教育、基礎学力補習、小テスト、復習課題、個別面談等を活用して学修状況を早期に把握する。仕事や生活と学修を両立する学生に対しても、計画的に学修を進められるよう支援し、国家試験、臨床実習、卒業後の職業実践につながる教育課程の一貫性を高める。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	教育課程編成委員会を設置し、関連医療機関、臨床実習施設、卒業生、業界関係者等から意見を得ながら教育課程の見直しを行っている。また、国家資格取得を目標に、臨床実習施設からの評価や意見、国家試験の出題傾向、医療現場で求められる安全管理、患者対応、放射線防護等の視点を、シラバス、実習前指導、課題研究、国家試験対策等に反映している。	教育課程編成委員会や臨床実習施設との連携により、医療現場のニーズを教育内容に反映しやすい体制が整っている。夜間部では、多様な学生背景を踏まえながら、医療現場で求められる知識・技術・態度を段階的に指導できている。 一方で、画像診断機器、放射線治療技術、医療安全、患者対応など、医療現場の変化が速いため、限られた学修時間の中で教育内容を継続的に重点化していく。	教育課程編成委員会、臨床実習施設訪問、卒業生講話、非常勤講師との情報共有等を通じて、現場ニーズを継続的に把握する。得られた意見は学科会議や講師会議で共有し、夜間部学生の学修状況にも配慮しながら、シラバス、実習前指導、課題研究、国家試験対策に反映させることで、診療放射線技師として必要な実践力の育成につなげる。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	外国人留学生が在籍する場合、日本国内で診療放射線技師として就職することを見据え、日本の医療制度、医療安全、患者対応、職業倫理、医療用語等の理解を支援している。授業、実習前指導、個別面談等を通じて、日本の医療現場で必要となる知識・態度を身につけられるよう、担任、科目担当者、キャリアセンターが連携して支援を行っている。	担任、科目担当者、キャリアセンターが連携し、学修面、実習面、就職面の支援を行う体制が整っている。夜間部では、学修歴や生活背景が多様な学生に対して、個別の状況に応じた支援を行っている点が長所である。 一方で、専門用語の理解、日本語表現、患者対応、医療現場特有の文化理解には個人差があり、夜間部の学修時間も踏まえた継続的な支援が必要である。	入学後早期から日本語力、学修状況、職業理解の状況を確認し、担任、科目担当者、キャリアセンターが情報共有しながら支援を行う。臨床実習や就職活動に向けて、履歴書作成、面接指導、医療現場でのコミュニケーション指導を段階的に実施し、就職後のミスマッチ防止と定着支援につなげる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
診療放射線技師法・診療放射線技師学校養成所指定規則・国家試験出題基準・学則・学生便覧・教育課程表・シラバス・教育課程編成委員会議事録・臨床実習要項・臨床実習評価表・国家試験対策資料	診療放射線技師法、診療放射線技師学校養成所指定規則、国家試験出題基準及び3つのポリシーに基づき、教育課程の編成方針と卒業認定方針を明確にしている。4年制課程として、基礎分野、専門基礎分野、専門分野を体系的に配置し、教育課程表、シラバス、学生便覧等を通じて学生へ周知している。また、教育課程編成委員会、臨床実習施設、卒業生、関連医療機関等からの意見を踏まえ、医療現場で必要とされる知識・技術・態度を修得できるよう教育内容の改善に取り組んでいる。	2-1-1 3.0 2-1-2 3.0 2-1-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

2-2 教育課程の実施【診療放射線技師学科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正○かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	各授業科目は、シラバスに基づき、講義、演習、実験、学内実習、臨床実習等を組み合わせて実施している。診療画像検査、放射線治療、核医学、放射線計測、医療安全、感染対策、患者接遇等について、科目の特性に応じた授業形態を設定している。夜間部では、夜間開講の特性を踏まえ、限られた授業時間の中で到達目標を明確にし、授業科目ごとに評価方法を示したうえで、筆記試験、レポート、実技評価、出席状況等を総合して成績評価を行っている。	夜間部の学生が学修を継続できるよう、授業内容を整理し、基礎分野から専門基礎分野、専門分野へ段階的に学べるようにしている点が長所である。講義、演習、実験、学内実習を組み合わせることで、知識と技術を関連づけながら学修できている。 一方で、仕事や生活と学修を両立する学生もいるため、授業外学修時間の確保、復習の継続、専門科目の理解度の差への対応が課題である。	小テスト、復習課題、補習、個別面談等を活用し、学生の理解度や学修状況を早期に把握する。学修時間の確保が難しい学生に対しては、学修計画の立て方や復習方法についても指導し、国家試験過去問題、実習前課題、ICT教材等を活用しながら、夜間部学生の継続的な学修を支援する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	臨床実習施設と連携し、臨床実習要項に基づいて実習を実施している。実習前には、医療安全、感染対策、患者確認、接遇、守秘義務、報告・連絡・相談等について事前指導を行い、臨床現場で必要となる知識・技術・態度の修得を図っている。また、実習施設とは実習内容、到達目標、評価方法を共有し、実習評価を通じて学生の到達状況を確認している。	臨床実習施設との連携により、夜間部学生も実際の医療現場を理解し、診療放射線技師としての職業意識を高める機会を得ている。実習施設からの評価や意見を教育改善に活用できる点も長所である。 一方で、夜間部では仕事や生活と学修を両立する学生もいるため、臨床実習に向けた生活面・勤務面の調整や、実習前の早期支援が必要である。	臨床実習施設から得られた評価や指摘事項を学科内で共有し、実習前教育、授業内容、実習マニュアル、シラバス等に反映させる。夜間部学生には、臨床実習の時期、必要な準備、生活面・勤務面の調整について早期に説明し、必要に応じて個別面談を行う。今後も臨床実習施設との情報共有を継続し、医療現場で求められる知識・技術・態度の修得につなげる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
シラバス・学生便覧・臨床実習要項・臨床実習評価表・実習前教育資料・実習施設依頼文書・承諾書・国家試験対策資料	講義、演習、実験、学内実習、臨床実習を組み合わせ、シラバスに基づいて教育課程を実施している。夜間開講の特性を踏まえ、限られた授業時間の中で到達目標を明確にし、診療放射線技師として必要な知識・技術・態度を段階的に修得できるよう指導している。また、臨床実習施設と連携し、実習前教育、実習評価、実習後の振り返りを通じて、医療現場で必要となる実践的能力の修得を図っている。	2-2-1 3.0 2-2-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定【診療放射線技師学科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	卒業認定方針、学則、学科内規、シラバス等に基づき、単位認定及び卒業認定を行っている。4年制の専門士課程として、診療放射線技師国家試験受験資格の取得に必要な科目を配置し、各授業科目では到達目標、評価方法、評価基準をシラバスに明示している。成績評価は、筆記試験、レポート、実技評価、臨床実習評価、出席状況等を総合して実施し、学科会議や判定会議等で確認することで、客観性と公平性の確保に努めている。	単位認定及び卒業認定の基準は文書化されており、学生に周知したうえで適切に運用している。夜間部においても、診療放射線技師として必要な知識・技術・態度の修得状況を、授業科目、学内実習、臨床実習、卒業試験、国家試験対策等を通じて確認している点が長所である。 一方で、仕事や生活と学修を両立する学生もいるため、単位取得、卒業試験、臨床実習評価、国家試験合格に必要な学力を計画的に高める支援が課題である。	評価基準や卒業認定方針を学生にわかりやすく説明し、到達目標と評価方法の理解を促す。定期試験、実技評価、臨床実習評価、卒業試験、国家試験対策の結果を総合的に確認し、学修到達度に応じて補習、個別面談、学修計画の見直しを行う。夜間部学生の生活背景にも配慮しながら、継続的な学修支援を行い、診療放射線技師として必要な知識・技術・態度の修得につなげる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・学科内規・成績評価資料・卒業判定資料・臨床実習評価表・国家試験対策資料	卒業認定方針、学則、学科内規、シラバス等に基づき、単位認定及び卒業認定を適切に実施している。4年制の専門士課程として、診療放射線技師国家試験受験資格の取得に必要な教育内容を配置し、筆記試験、レポート、実技評価、臨床実習評価等を総合して成績評価を行っている。また、学科会議や判定会議等で確認することで、客観性と公平性の確保に努めている。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況【診療放射線技師学科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	卒業認定方針に基づき、診療放射線技師として必要な知識、技術、態度、職務遂行能力の修得状況を、授業科目の成績評価、実技評価、臨床実習評価、卒業試験、国家試験対策等を通じて把握している。	社会人経験を有する学生や多様な学習歴を持つ学生が、継続的に学修できる体制を整えている。 一方で、仕事や生活と学修を両立する学生もいるため、授業外学修時間の確保、専門科目の理解度の差、国家試験に向けた継続的な学力向上が課題である。	定期試験、小テスト、実技評価、臨床実習評価、卒業試験、国家試験模擬試験等の結果を総合的に確認し、学生ごとの課題を早期に把握する。理解度が不十分な学生には、補習、個別面談、復習課題、学修計画の見直しを行う。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	学生の進路に関する目標を明確にし、担任、学科教員、キャリアセンターが連携して就職・進学支援を行っている。就職説明、求人情報の提供、履歴書作成指導、面接指導、個別面談等を通じて、学生が診療放射線技師としての職業理解を深め、自身の希望や適性に応じた進路選択ができるよう支援している。夜間部では、社会人経験や既卒歴を有する学生もいるため、個々の背景に応じた進路支援を行っている。	担任、学科教員、キャリアセンターが連携し、学生一人ひとりの希望や状況に応じた進路支援を行っている点が長所である。夜間部では、社会人経験を活かした進路選択やキャリアチェンジを目指す学生にも対応している。 一方で、就職活動の早期化や求人状況の変化に対応するため、低学年からの職業意識形成と計画的な進路支援をさらに強化する必要がある。	入学後早期から職業理解を深める機会を設け、学年進行に応じて就職説明、卒業生講話、施設情報の提供、履歴書作成、面接指導を段階的に実施する。担任、学科教員、キャリアセンターが学生情報を共有し、個別面談を通じて希望進路や就職活動状況を把握する。夜間部学生の生活背景やキャリア形成上の希望にも配慮し、進路決定と就職後のミスマッチ防止につなげる。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	卒業生、臨床実習施設、就職先医療機関等からの意見は、臨床実習評価、施設訪問、求人对応、卒業生講話、就職後の情報共有等を通じて把握している。得られた意見は、学科会議や教員間で共有し、教育内容、実習前指導、国家試験対策、就職支援の改善に活用している。夜間部では、社会人経験を有する学生や多様な学修背景を持つ学生の進路形成にも配慮しながら、個々の状況に応じた支援を行っている。	臨床実習施設や就職先との関係を通じて、医療現場で求められる知識・技術・態度、職業意識、患者対応等について具体的な意見を得ることができている。夜間部では、学生の生活背景やキャリア形成上の希望を踏まえた進路支援を行える点が長所である。 一方で、卒業生や就職先からの意見をより継続的・体系的に収集し、夜間部の教育内容や支援体制へ反映する仕組みをさらに整える必要がある。	臨床実習施設訪問、就職先との情報交換、卒業生講話、卒業生アンケート等を活用し、卒業後の活躍状況や現場で求められる能力を継続的に把握する。得られた情報は学科会議で共有し、シラバス、実習前教育、キャリア教育、国家試験対策に反映させる。夜間部学生の生活背景やキャリアチェンジの状況にも配慮し、進路支援と教育改善の充実につなげる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教育指導要領・学生便覧・シラバス・臨床実習要項・臨床実習評価表・実習施設訪問記録・求人票・就職支援資料・卒業生講話資料・国家試験対策資料	卒業認定方針に基づき、授業科目の成績評価、実技評価、臨床実習評価、卒業試験、国家試験対策等を通じて、学生の学修成果の達成状況を把握している。また、担任、学科教員、キャリアセンターが連携し、夜間部学生の多様な学修背景や生活状況に配慮しながら、希望や適性に応じた進路支援を行っている。さらに、臨床実習施設、就職先医療機関、卒業生等からの意見を教育改善に活用し、医療現場で求められる知識・技術・態度の修得につなげている。	2-4-1 3.0 2-4-2 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

基準 3 学生の受入れ、学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
【総括】 アドミッション・ポリシーの明確化：3つのポリシー（3P）をホームページや募集要項に明記し、それに基づいた公正な入試選考・判定会議が行われている。 包括的な支援体制：「学生トータルサポートセンター（SSC）」の設置や教務システム（DX）の活用により、多様な学生に対する多角的な支援体制が整備されている。 心身の健康と学習支援：100%の受診率を誇る健康診断や、入学前教育（プレスクール）、クラブ活動の奨励など、学生の充実した学校生活と主体的な学習を促す仕組みがある。 【課題】 募集状況への対応：受験生が減少している学科における判定基準の検討が必要です。 多様化への個別対応：留学生の増加や学生の背景が複雑化・多様化する中で、個人の力量に頼らない組織的な「合理的配慮」のさらなる充実と管理マニュアルの策定が求められている。 学生の主体性向上：ボランティア活動などが学校主導になりがちのため、学生の主体性を引き出す工夫が必要となる。	学生募集面では、志願者が減少している学科において受験生が自身の適性と接続しやすい環境を整える。同時に、ホームページや募集要項における「3つのポリシー」の周知を徹底し、本校が求める学生像の明確化を図る。 多様化・複雑化する学生への支援については、教務システムのさらなるDX化を推進し、教員個人の力量に依存しない、公平かつ迅速な「合理的配慮」の提供体制をSSCとともに検討する。特に留学生支援に関しては、将来的な人数増加を見据えた管理マニュアルの策定を進め、適正な在籍管理を継続・強化する。 また、膨大な健康診断データの管理手法を見直し、効率的な健康維持体制を維持する。学習面では、ボランティア等の課外活動において学生の主体性をより引き出すため、活動成果を学外へ積極的に発信する取り組みを強化し、学生自身の自信や実績へと繋げていく。これらにより、学生一人ひとりの状況に即した、多角的で主体的な学びの場を一層充実させていく。	「3P」に基づいた入試選考と、入学前から卒業までの一貫した手厚い支援体制がある。入学前教育として「プレスクール」や通信添削課題を導入しており、学力だけでなく学生の適性を早期に把握することで、入学後の円滑な学生生活を送るための柔軟なサポートを可能にしている。 「学生トータルサポートセンター（SSC）」を軸とした多角的な支援が挙げられる。多様な背景を持つ学生に対し、DX化した教務システムを通じて教職員が情報を共有し、組織的な「合理的配慮」を提供している。また、提携クリニックとの連携により、定期健康診断の受診率100%を維持するなど、心身の健康管理体制も極めて強固である。 学生の背景の多様化・複雑化に伴い、個人の力量に依存しない組織的な支援への移行が急務となっており、これに対し、留学生の適正な在籍管理マニュアルの策定や、ボランティア活動等の成果を学外へ発信することで学生の主体性を引き出す取り組みなど、時代の変化に即した独自の教育環境整備を推進している。
	自己評価 2.9	

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
--------	-----------	-------	-------

基準 3 学生の受入れ、学生支援

3-1 (1/1)

3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-1-1 入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	○卒業認定方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生の受入れ方針を定め、求める学生像や入学者に求める水準等を明確に示しているか ○また、選抜方法及び手続をあらかじめ公表した上で、所定の選抜基準及び体制のもとで適切かつ公正に入学者を選抜しているか	募集要項には3つのポリシーを明記し、入試選考は、募集要項で明記した基準に基づいて行っている。 可否については、判定会議にて、各責任者参加のもと適性に判定を行っている。	【長所】 合否判定において、入試毎に入試判定会議を設け、入試選考基準の明確化と公平性を確保している。 【課題】 年々受験者の現象が発生している学科に関して判定基準を検討せざるを得ない。	ホームページに明確に掲載するとともに、募集要項にも3Pを明記し、オープンキャンパス時にも学生・保護者に詳細に伝えている。 毎年入試問題の確認を行い、募集が厳しい学科に関しては、入学試験内容を基礎科目を中心に修正を行なっている。
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。 【注）修学支援新制度機関要件の確認】 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しているか	年度別・学科別に受験者・入学者の情報をデータ化し、把握している。毎回の入試判定会議で受験者の傾向等を分析/共有。その上で定員を大幅に超さないように管理している。	修学支援新制度の機関要件の確認も行い、対象者には学費は確定後に請求できるよう2段階で対応している。 外国人の書類に関しては、出身の日本語学校に連絡し必要書類の確認をしているが、一部回収に苦慮する部分がある。	引き続き入試判定会議を機能させ、定員管理を適性に行う。あわせて、修学支援新制度の期間要件にも配慮を継続し対応する。 留学生の書類に関しては、最新の注意を行い前籍校との連携の強化は必須である。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・学則・募集要項 ・受験台帳・選考者データ ・入試判定会議議事録	出願の導線をWEBを中心に、募集要項には3つのポリシーを明記し、入試選考は、募集要項で明記した基準に基づいて行っている。あわせて、学生情報を入試判定会議で一人一人確認を行いながら実施している。	3-1-1 3.0 3-1-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福原 博明
--------	-----------	-------	-------

3-2 多様な学生に対する修学支援

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-2-1 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	○障がいのある学生、海外からの留学生等多様な学生に対して必要な配慮、支援を行っているか	学生の状況を個々に把握できている為、必要に応じて配慮を行っている。	学園で設置している滋慶トータルサポートセンター（JTSC）にて、多様な学生の受け入れサポートを行なっている。	多様化している学生をサポートできるよう滋慶トータルサポートセンター（JTSC）との連携を強化していく。
3-2-2 特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○特に、外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置する専門学校においては、海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されているか	留学生の在籍数は現状では10名前後が続いている。 出席率やアルバイトの管理も含め担任が管理を行なうため、現状の在籍数であれば問題はない。	個別に学生を把握し、教務システムを活用し、学生情報を共有し教務・事務の連携を行い、学生をサポートできている。 課題としては一定数の留学生が増えた際、今の仕組みでは対応しきれない可能性がある。	教務システムの活用を継続し、留学生管理の徹底を継続していく。 課題の解決策として、留学生管理マニュアル等の策定を検討している。
3-2-3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	○学生が就学を継続するための経済的側面に対する支援体制を整備し、情報の提供及び相談について適切に周知、運用しているか	学生の経済面等に関しては、学費を分割対応する等、できる限りの配慮を行っている。	修学支援新制度や日本学生支援機構の奨学金等の活用を促進し、学費滞納や、経済的側面から長欠等が発生しないよう個別に管理できている。	教務システムと学費状況をリンクできるよう現在追加改善中で、このシステムが連動すれば更に円滑にサポートが行うことが可能になる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・教務システム 学生情報 ・留学生一覧表 ・修学支援対象者名簿 ・学費分納者管理簿	教務システムを活用し学生情報を各部署で共有し、多角的に学生のサポートが行える環境が整っている。留学生はアルバイトや出席率を月一回の面談を行い管理している。設置学科が多様であるため、各人の状況に応じて経済的支援に対応している。国の修学支援新制度を必要とする学生の申請機会の確保にも努めている。	3-2-1 3.0 3-2-2 3.0 3-2-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福原 博明
--------	-----------	-------	-------

3-3 学生生活に関する支援

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-3-1 カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	○学生生活等に関する相談体制を整備し、相談対応について、十分、学生に対して周知し、機能、活用されているか	担任による定期面談に加え、出席状況やアンケート、日常観察を通して適宜面談を実施し、学生の状況把握と相談対応に努めている。担任で対応が困難な場合は学科長・教務部長が対応し、就職・学費・奨学金等の手続きは教務および事務職員が支援する。情報は教務システムで共有し、更にスクールカウンセラー常駐の学生相談室やクリニックを設置するなど、学生が安心して有意義な学校生活を送れるよう支援している。	学生のニーズ・状況に合わせ、様々な角度からサポートできる体制を整えている。 一方、身体障害や発達障害、LGBTQ 更に留学生の増加など、多様な学生が在籍しているが、必ずしも合理的配慮等希望に応じた対応がすべてできていない。	教務システム等の DX を進め、必要な教職員が必要な情報を共有・把握できるようにしていく。 個別の案件に関しては、チューデントサービスセンター（SSC）や学園設置のカウンセラー委員会等と連携・情報共有を重ね適宜対応できる状況を積み重ねていく。
3-3-2 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	○定期的な健康診断の実施、結果のフォロー、健康管理に関する啓発活動など、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用しているか	年1回の定期健康診断を実施し、結果を学校で管理している。担任・慶生会クリニックを通して、再検査が必要な学生の把握、検査状況も把握できる体制を整えている。	定期健康診断・再検査の受診率は100%となっている。 一方、多量の健診データを保管しており今後の管理が課題となっている。	データの管理手法・管理場所の設定と運用方法の改善を図っていく。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
SSC 連携会議資料及び議事録・健康会議資料及び議事録・健康診断検査報告書・健康診断再検査受信状況・「未受診者」及び「再検査対象者」リスト・環境安全衛生委員会議事録	教職員はカウンセリング研修を受講し、チューデントサービスセンター（SSC）の常駐カウンセラーと併せて、学生対応を行っている。必要な情報は教務システム等で記録するとともに共有している。健康診断の結果、再検査の状況も慶生会クリニックや担任と連携を取り、把握・指導を行っている。	3-3-1 3.0 3-3-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	安達 隆之
--------	-----------	-------	-------

3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	○自主学習等に対する相談対応と学習支援 ○成績不振の学生の状況把握と指導 ○留年及び休学者の状況把握と対応 ○退学希望者の状況把握と対応	入試では適性を把握し得る試験を課し、その後入学前教育としてプレスクールや通信添削課題を行っている。入学後は各期末の試験に加え、学科特性に合わせて、習熟度を測ることを行っている。休学者は定期的な連絡を行い状況の把握に努めている。退学希望者は面談記録を残すとともに、手続き完了	入試から添削課題までの実施で、学力だけでなく学生のタイプ等の把握が可能となっている。休学者も定期的なサポートを通して、復学や転校等がスムーズに行える仕組みができている。 一方、学生の背景等は年々多様化・複雑化が進んでおり、その把握と対応について個人の	入試やプレスクール等は毎年見直しを行い、アップデートを図っている。 学生個々の把握については、教務システムの活用や教務会議での議論等を併せ、担任業務のバックアップを行っていく。
3-4-2 正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	○部活動などの実績と支援の実施 ○ボランティア活動の実績と支援の実施	部活動に関しては、校友会を設置し学友会会則を設け、規定に従って運営を行っている。活動においては顧問をつけ、管理運営を行うとともに、一定条件のもと活動費を支給しサポートをしている。ボランティア活動に関しては、学科が主導的に学生に対しての連絡・斡旋を行い運用している。	部活動やボランティア活動を通して、身心の向上以外にも就職活動への展開が可能となっている。 一方で、ボランティア等は学校の斡旋によるものが多く、主体性は弱い。	部活動以外の課外活動やボランティア活動の成果を学外に発信することにより、学生の実績や学校の取り組みのアピールへと繋げていく。 上記活動を通して、課外活動やボランティア活動の種類等を増加させていく。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・プレカレッジ課題テスト結果 ・クラブ活動報告書 ・課外活動名簿	学生の学力に関しては、入学前より把握向上に努めている。入学後も定点で学力等測るようにしている。全国専門学校体育連盟に所属するスポーツ系部活動を中心に、活発な部動を行っている。音楽フェスでの救護ブース支援や職能団体主催の献血活動など、外部イベントのボランティア活動にも実績がある。	3-4-1 3.0 3-4-2 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	安達 隆之
--------	-----------	-------	-------

基準 4 教員・教育実施組織

総括と課題	今後の改善方策	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
教員配置・組織面は養成施設指定規則に準拠した厳格な採用を行い、現場経験豊富な実務家教員を適正に配置している。教務と事務の責任体制も明確であり、担任制やキャリアセンター等との連携による学生支援の組織基盤が機能している。 資質向上については、年間計画に基づき FD・SD 研修や公開授業を組織的に実施している。特に企業や医療機関、職能団体と連携し、最新の臨床動向や技術を教育内容へ適切に還元できている点は強みとなる。 今後の主な課題は、実務家教員や非常勤講師間における指導スキルの平準化である。また、学生の学力差や背景の多様化に対応する個別支援の充実、および ICT・DX を活用した教育手法の更なる導入の検討が必要となる。 解決策として、研修のオンデマンド化による情報共有の徹底や、学科の枠を越えた合同プロジェクトによる「多職種連携教育」の深化を図る。組織全体で最新知見を蓄積し、急速な技術革新に即応できる実践的な教育体制の高度化を目指す。	実務家教員の指導スキルが個人の資質に依存する現状を改善するため、FD 研修をシステム化し、教授法の平準化を推進する。特に非常勤講師への情報共有を強化すべく、オンデマンド配信や授業マニュアルのデジタル化を推進し、組織全体の教育力の底上げを目指す。 急速な技術革新や医療 DX に即応するため、臨床現場や企業との連携による実務研修を計画的に組み込み、最新知見を迅速にシラバスや教材へ反映する体制を進め、学生の学力差や背景の多様化に対し、ICT を活用した個別学習支援や主体性を引き出すコーチングの習得を目指す。 組織面では、学科の枠を越えた教員合同プロジェクトを計画し、「多職種連携教育」を深化させる。研修成果を組織知として蓄積・可視化し、客観的データに基づく継続的な改善サイクルを確立することで、社会のニーズに応える専門教育の高度化を推進する。	養成施設指定規則に準拠した教員配置に加え、現場経験豊富な実務家教員を全学科に擁している。これにより、最新の技術や業界動向を即座に教育内容へ反映し、即戦力となる人材を育成する基盤を構築しています。 学科の枠を越えてチーム医療の実践を学ぶ「多職種連携教育」を組織的に推進している。臨床工学、放射線、鍼灸、柔整、バイオ、AI といった多岐にわたる専門学科が共存する強みを活かし、教員間でも学科横断的な合同プロジェクトを編成するなど、機動的な組織運営を行える点は強みであり、法人(滋慶学園グループ)のスケールメリットを活かした高度な FD・SD 研修体制も特筆すべき点である。教務・事務の責任体制を明確にしつつ、担任制とキャリアセンターが密に連携して学生を多面的に支える組織体制も確立されている。 昼夜開講学科において社会人から現役生まで多様な学修歴を持つ学生が在籍していることや、日本語学科における留学生支援など、幅広い背景を持つ学生への対応もある。これらに対し、ICT の積極活用や個別支援スキルの向上に向けた組織的な取組を継続しており、教育の質保証と学生満足度の向上を両立させている。
自己評価 2.6		

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------

基準 4 教員・教育実施組織

4-1 (1/1)

4-1 教員の配置、募集、採用

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-1-1 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に配置していること。	○法令上の基準を遵守し、学校の目的を実現し、目標の達成するための教育を十分に実施できるだけの教員を配置しているか	資格要件が定められている科目については、要件を満たすことが採用条件となっている。また、資格ごとの教員資格要件が規定されており、養成施設指定規則に準拠した教員構成となっている。さらに、関連業界に勤務する実務家教員も在籍しており、知識・技能レベルの確保に努めている。	【長所】 養成施設指定規則に完全準拠した厳格な採用・配置を行っている。現場経験豊富な実務家教員を多く擁し、最新の技術を反映した実践的な指導が、即戦力育成を支える基盤となっています。 【課題】 実務家教員の指導スキル(教授法等)が個人の資質に依存しがちになりやすい。また、急速な医療の技術革新(AIや先端機器)に合わせ、在籍教員の知識や技能を組織的にアップデートする仕組みが求められる。	【長所の伸長策】 実務家教員の戦略的確保:業界ネットワークを活かし、最先端の現場で活躍するスペシャリストを計画的に招聘する。先進教育のブランド化:臨床指導や多職種連携教育を進化させ、強みとして発信する。 【課題の解決策】 FD 研修による指導力の均一化:教授法等の研修で教員間の指導スキルのバラつきを解消し平準化する。教員研修のシステム化:短期研修や学会参加を制度化し、教員が学び続けられる環境を整える。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・教員名簿 ・就業規則 ・時間割・授業担当コマ表 ・教職員評価シート	指定規則に準拠した厳格な教員配置と、豊富な実務家教員による技術指導を目標としている。今後は強固な業界網を活かした実務家教員の戦略的確保と先進教育の発信に努める。また、FD研修による教授法の均一化や、病院での短期研修の制度化により教員の知識を更新し、教育の質保証を進める。	2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
--------	-----------	-------	-------

4-2 教員の組織編制等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-2-1 学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	○当該専門学校の教育活動を進めるための基本的な組織体制を整備しているか ○組織の責任体制、役割分担が規程等において明確で、連携体制が機能しているか、 ○当該専門学校の目的等を共有し、達成に向けた協働意欲を醸成するために、教職員組織等の円滑な運営と改善向上に向けた取組を行っているか	学校内には事務部、教務部があり、それぞれの職務分掌や組織図は教育指導要領や事業計画に記されている。各種会議や委員会組織についても同様に記載されており、議事録も作成・保管されている。 学校内の組織運営に関する各種規定が整備され、就業規則や学則等とともに閲覧が可能である。これらの改正は規定に基づいて実施されている。	【長所】 規程や組織図に基づき教務・事務の責任体制が明確であり、担任制やキャリアセンター等の連携により、学生を支える組織基盤が機能している。 【課題】 多職種連携教育や DX など分野横断的な教育において、学科や部門の枠を越えた教員間の機動的な連携や、迅速な意思決定を行う組織運営が求められる。	【長所の伸長策】 学科の枠を越えた教員合同プロジェクトを編成してチーム医療を学ぶ多職種連携教育を推進する。 【課題の解決策】 DX 等の変化に迅速に対応するため、縦割り組織を補完できるようにし、柔軟で機動的な組織運営体制へと進化させる。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・教育指導要領 ・組織図 ・学科長会議・全体会議・教務会議・事務局会議議事録 ・各委員会議事録 ・会議規定	規程や組織図に基づき、教務・事務が明確な責任体制のもとで連携する教員組織を整備している。今後は学科の枠を越えた教員合同プロジェクトの編成により多職種連携教育を推進する。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【まとめ】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	計画的なFD・SD研修や公開授業、アンケート・国試分析の共有と会議を通じ指導法を改善。学会参加等の自己研鑽も支援して最新知見を授業へ反映し、組織全体で教育の質と教員の資質向上を推進している。	【長所】FDや公開授業から組織的に授業改善へ反映。法人規模を活かした研修も多様。【課題】非常勤講師の参加促進と指導力の平準化、ICT活用、多様な学力に応じた個別支援の充実が求められる。	研修成果を学科会議で共有し、組織知として蓄積する。非常勤講師への浸透という課題に対し、研修のオンデマンド配信や資料共有の標準化を推進し、組織全体で指導力の平準化と向上を推進する。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にを行っているか	職業実践専門課程として企業や医療機関と連携。教員が外部や臨床での研修を通じて知識・技術を修得し、教育内容へ適切に反映させることで、実践的な教育体制を維持している。	【長所】現場連携により最新の知識・技術を修得し、教育内容へ適切に還元している。 【課題】技術革新への継続的な対応と、研修時間の確保、全教員間の情報共有の徹底が必要。	現場連携で得た最新知見を会議やシラバスで組織的に共有・蓄積する。時間確保のため研修を計画的に組み込むほか、現場専門家を招く校内技術交流会を推進する。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にを行っているか	組織的にコーチング等の研修を実施。実習先の評価に基づき、医療安全や主体性を促す手法など、現場のニーズに即した実践的指導スキルの修得と授業改善を計画的に行う。	【長所】コーチングや法人内・姉妹校連携による客観的評価体制が強み。 【課題】企業連携研修の拡充、多様な学生への個別支援力やICTスキル向上が課題。	研修等で主体性を促す指導法を深め、成果を学科間で共有し組織知化する。実習先評価や試験データの可視化により、ICT活用を含めた指導の平準化を推進し教育力を高める。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・学生便覧・教育指導要領 ・研修計画 ・カリキュラムアンケート	学園で実施している研修計画に基づく組織的なFD(Faculty Development)の取り組みや、業界・臨床現場との連携による実務研修を通じ最新知見を教育に反映している。今後は研修のオンデマンド化やICT活用を進め、非常勤講師を含む組織全体の指導力の平準化と更なる高度化を図っていく。	4-3-1 3.0 4-3-2 2.0 4-3-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【バイオ・再生医療学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	学園として実施している研修への参加、学生からのカリキュラムアンケートに基づく改善をおこなっている。	研修は学園のスケールメリットを生かして、多くのデータに基づく実践的な研修である一方、専任のみが対象となっている。カリキュラムアンケートは非常勤講師にもおこなっているが、効果は低い。	非常勤講師を研修に参加させることは難しいと思われるが、講師研修会での共有をより高いレベルでおこなっていく。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にやっていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にやっているか	専任教員は外部のセミナーや勉強会に参加している。また、就職先や研修先からのニーズを収集している。	学外研修先や就職先と情報交換する機会はあるが、またセミナーにより専門知識を得る機会はあるが、技術向上をする機会はない。	技術面については常に進歩しているため、可能な限り専門の講師に実習を対応してもらおう。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にやっていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にやっているか	学園として実施している研修に参加している。学園教育部会等を通して、授業及び指導力向上を図ることを進めている。	外部企業等を通しての研修は実績が少ない。	教育課程編成委員や学生就職先等を通して、業界連携を図り、研修等を増やしていく。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修計画・研修資料・研修報告・講師会議資料・カリキュラムアンケート・教務会議資料	概ね教員の質向上に取り組んでいる。進歩の早い分野であることから、業界に籍を置かずにその進歩についていくことは非常に困難であるため、講師を含め、より外部との連携が今後の課題である。	4-3-1 2.0 4-3-2 2.0 4-3-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	矢野 昌人
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【人工知能学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取組んでいるか	FD研修等、教育力の向上を図る研修等の受講を行っている。また教務会議等を通して、教務の諸問題の共有や教育力の向上を図っている。	学園組織を通しての研修の実施や、教員個別の研修参加等を行っている。 外部の教育機関等での実施実績は乏しい	学園組織での研修等は学校・学科の実情に合わせた学びが得られ、実利にかなった研修となっている。外部の研修等への参加を増やすことを意識して行っていく。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にしているか	専門的な研修等の受講を推進し、受講させている。	外部の企業等が実施する研修やセミナーへの参加を進めている。日程や予算等の課題や既存のセミナー等が大半を占めることから、専門性に偏りが生じる。	複数のセミナー等に参加することで、専門性をより高めることが確認できた。 セミナー等の情報収集に努め、様々なセミナーの受講が可能になるよう注力する。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にしているか	FD研修やカウンセリング研修等を実施している。	学園組織を通して研修は実施している。外部組織での研修実績は乏しい。	現在、学外の研修を少しずつ取り入れている。今後拡充を図る

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修計画・研修資料・研修報告・講師会議資料・カリキュラムアンケート・教務会議資料	学園組織等で実施しているFD研修やカウンセリング研修、教務会議等を通して、教育力向上を図っている。また、外部のセミナーを活用して専門性の向上も図っている。研修やセミナーへの参加は、時期や予算等の関係からすべてに参加ができていない。	4-3-1 3.0 4-3-2 3.0 4-3-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	安達 隆之
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【日本語学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	校内研修、FD研修、学科、教務会議等を通じて、授業内容や指導方法の改善に取り組んでいる。また、法人内の日本語教育委員会を通じた研修の機会も得ている。	校内外の研修やFD活動を通じ、教員の指導力向上と授業改善に組織的に取り組んでいる点は強みである。一方で、専任教員に加え、講師を含めた研修機会の充実が課題である。	教員間の情報共有や講師会を通じた連携を継続・強化する。併せて、講師を対象とした学外研修の機会確保や参加促進を図り、組織全体での指導力向上を推進する。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にを行っているか	日本語教育振興協会、全国専門学校日本語教育協会主催の研修があり、計画的に参加している。	外部研修へ計画的に参加し、専攻分野に関する知識の向上を図っている点は強みである。一方で、長期研修への参加には時間確保が課題である。継続的な受講体制の整備が必要。	オンライン研修等を活用した継続的な受講を推進するとともに、長期研修については時期や業務との調整を図り、計画的に参加できる体制整備を進める。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にを行っているか	教員の授業力及び学生指導力の向上を図るため、法人内研修、校内研修、FD研修、講師会議等を活用している。	法人内研修や校内研修、講師会議等を通じ、教員の指導力向上に組織的に取り組んでいる。一方で、企業等と連携した研修については十分とはいえず、連携体制の強化が課題である。	講師会議等を通じた情報共有と連携を継続するとともに、企業等と連携した研修機会の確保を検討し、実践的な指導力向上に向けた取組の充実を図る。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修計画・研修資料・研修報告・講師会議資料・カリキュラムアンケート・教務会議資料	校内外の研修やFD活動、講師会議等を通じて教員の指導力向上に組織的に取り組むとともに、外部研修にも計画的に参加し、専門性の向上を図っている。また、教員間での情報共有や連携を通じ、授業改善に継続的に取り組んでいる。	4-3-1 3.0 4-3-2 2.0 4-3-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	松下 修
--------	-----------	-------	------

4-3 教員の資質の向上 【スポーツ科学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	研修計画に基づきFD活動を行った。新カリキュラムの導入にあわせ、指導方針の統一と指導法改善を行った。学会参加や研究活動も推奨し、専門知識の更新等自己研鑽の機会を創出している。	教員が自発的に学会参加等自己研鑽に努めている。 一方、非常勤講師との間で、指導法や評価基準のすり合わせ、タイムリーな情報共有がまだ課題である。	授業見学を増やし、教員間で指導例を共有する。 非常勤講師向けの新カリキュラム説明会やFD研修の開催、授業マニュアルのデジタル化等情報共有を進める。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にを行っているか	教育課程編成委員会の参画企業や連携団体と連携した実務家教員研修を実施している。専任教員がチームのメディカル現場や施設へ赴き、定期的な実務研修や視察を行っている。	教員が実務知識に触れられ、最新のスポーツ科学の知見を学生指導に還元できている。 しかし、学科所属の全教員が均等に現場動向を把握できるシステムが必要。	企業等との共同研究や現場開拓を進め、教員が業界の最前線で研鑽を積める機会を作る。 実務研修への参加シフトの体系化、研修で得た知見の共有を進める。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にを行っているか	教員自身の指導力向上研修に取り組んでいる。学外実習先の指導者と意見交換を定期的に行い、現場で学生が直面している課題の把握、指導手法の検証や見直しを行っている。	業界基準のコーチングやマナー指導を学び、実習指導時等での具体的なアドバイスに繋げている。一方、学生の主体性を引き出す、企業側も育成ノウハウは吸収しきれていない。	学園教育部会との連携し、他校の学生指導例や育成成果を取り入れる。連携企業と「学生の主体性を促す指導アプローチ」をテーマにした合同ワークショップを企画する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修計画・研修資料・研修報告・講師会議資料・カリキュラムアンケート・相互授業参観記録・教務会議資料	研修計画に基づきFD活動を組織的に展開し、また新ATカリキュラム移行に伴う授業改善を進めている。企業や団体と密に連携し、実務知識や指導力を高める研修を定期的実施している。更に、教員の学会参加や自己研鑽を進め、最新の知見を授業に還元する体制を整えている。今後は、非常勤講師への情報共有や研修の展開、学生の主体性を引き出す指導法のさらなるブラッシュアップが課題である。	4-3-1 3.0 4-3-2 3.0 4-3-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	井上 佳子
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【鍼灸スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	学園として実施している研修への参加、学生からのカリキュラムアンケートに基づき、フィードバックやミーティングを行い、改善をおこなっている。	学園のスケールメリットとして、多職種に活かせる多面的な研修を受講できている。カリキュラムアンケートでの意見は一部の学生にとどまり、大きく改善が進まない教員もいる。	カリキュラムアンケートは当単年度のみならず、過去の結果を積み上げ、開講前に共有できるように行っていく。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にを行っているか	東洋療法学校協会のセミナーや研修を受講している。また、就職先の治療院や企業から知識や技術のニーズをカリキュラムに反映している。	東洋療法学校協会の研修は、専門領域の教育にあたる教員同士で情報交換もでき、研修の効果が高い。課題として、オンラインでの研修も多く、対面にくらべると効果がでにくい。	オンデマンド研修も参加しつつ、関西圏での情報交換や研修会を開催していく。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にを行っているか	学園の姉妹校間での実技試験への試験官派遣や、東洋療法学校協会のはりきゅう実技評価に評価者を派遣し、実技指導のや評価方法の向上を図っている。	他校の実技試験評価への参加で他校の教育を知ると共に、自校のレベルを客観視できる。トレーナー分野での連携は改善が必要となる。	トレーナー分野も新カリキュラムに合わせ、学内や学園内での共通実技試験を実施し、同分野の指導力向上を目指す。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・教職員研修計画 ・カリキュラムアンケート ・鍼灸部会 実技試験 会議議事録 ・学校協会 実技試験 会議議事録	学園や、東洋療法学校協会のスケールメリットや専門分野の共通課題を共有し、概ね教員の質向上に取り組んでいる。今後は、トレーナー分野にも研修をひろげ、鍼灸師およびスポーツトレーナーとしての教育の質向上を図っていく。	4-3-1 2.0 4-3-2 3.0 4-3-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	山下 浩平
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【柔道整復スポーツ学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	年間研修計画に基づき、アンケート結果を反映した指導法検討会やアクティブラーニング研修等のFD活動を定期実施し、全教員への受講を計画的に促している。	定期的なFD研修により、最新の指導法が共有され、組織的な授業改善が進んでいる。しかし、非常勤講師の参加日時の調整が難しく、教員間での研修の浸透度に一部で差がある。	研修のオンデマンド動画配信や資料共有を標準化し、レポート提出を義務付けることで、非常勤講師を含む全教員の指導方針の均一化を徹底する。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にを行っているか	職業実践専門課程として、企業や職能団体と連携した実務研修を組織的に実施し、教員が現場の最新技術やトレンドを直接修得する体制を敷いている。	外部連携により、現場で求められる最先端の実務技術をアップデートできている。 しかし、国試指導等多忙な時期に、実務研修時間の確保が難しい。	外部研修を長期休暇中などの閑散期へ事前に組み込み、教務を平準化する。また、現場専門家を招いた校内技術交流会も拡充し、効率的な技術習得を図る。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にを行っているか	企業の研修担当者を講師に招いた指導力向上研修を組織的に実施し、学生の主体性を引き出すコーチングや実践的な指導スキルの向上を図っている。	企業ニーズに直結した指導法を学ぶことで、現場の要求水準に合わせた学生指導が行えている。一方、指導スキルの向上成果が、アンケート等へ反映され難い。	各自の指導工夫と成果を学科内会議で共有し、実技試験の合格率推移等も交えながら、指導力の向上成果を多角的に可視化・検証する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修計画・研修資料・研修報告・カリキュラムアンケート・教務会議資料	組織的なFD活動と、企業と連携した実務・指導力向上研修を適切に実施している。今後は研修のオンデマンド化や実施時期の最適化を進め、非常勤講師を含む全教員が最新の現場知識を授業へ還元できる体制を強化する。	4-3-1 3.0 4-3-2 3.0 4-3-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	川村 智広
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【柔道整復師学科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	年間研修計画に基づき、国試分析を反映した指導法検討会やアクティブラーニング研修等のFD活動を定期実施し、全教員への受講を計画的に促している。	定期的なFD研修により、最新の国試対策や指導法が共有され、組織的な授業改善が進んでいる。しかし、非常勤講師の参加日時の調整が難しく、教員間での研修の浸透度に一部で差がある。	研修のオンデマンド動画配信や資料共有を標準化し、レポート提出を義務付けることで、非常勤講師を含む全教員の指導方針の均一化を徹底する。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にしているか	職業実践専門課程として、企業や職能団体と連携した実務研修を組織的に実施し、教員が臨床現場の最新治療・管理技術を直接修得する体制を敷いている。	外部連携により、現場で求められる最先端の実務技術をアップデートできている。 しかし、国試指導等多忙な時期に、実務研修時間の確保が難しい。	外部研修を長期休暇中などの閑散期へ事前に組み込み、教務を平準化する。また、現場専門家を招いた校内での臨床技術交流会も拡充し、効率的な技術習得を図る。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にしているか	企業の研修担当者や専門家を講師に招いた指導力向上研修を組織的に実施し、現場で即戦力となるための実践的な指導スキルの修得を図っている。	業界ニーズに直結した指導法を学ぶことで、現場の要求水準に合わせた学生指導が行えている。一方、指導スキルの向上成果が、アンケート等へ反映され難い。	各自の指導工夫と成果を学科内会議で共有し、学内実技試験や国家試験模試の成績推移等も交えながら、指導力の向上成果を多角的に可視化・検証する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修計画・研修資料・研修報告・カリキュラムアンケート・教務会議資料	組織的なFD活動と、医療機関・企業等と連携した実務・指導力向上研修を適切に実施している。今後は研修のオンデマンド化や実施時期の最適化を進め、非常勤講師を含む全教員が最新の臨床知識を国試指導や実技授業へ還元できる体制を強化する。	4-3-1 3.0 4-3-2 3.0 4-3-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	川村 智広
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【臨床工学技士科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	研修計画に基づき、FD・SD研修、役割別研修、公開授業を実施している。カリキュラムアンケートを常勤・非常勤に共有し、授業方法や教材の改善に活用している。教育研究・自己啓発に取り組む機会もある。	組織的なFD研修と授業評価の活用は長所である。 一方、研究活動や自己啓発は個人差があり、学生の基礎学力差、主体性、ICT教材への対応などに応じた研修の充実が必要である。	研修参加状況と授業改善の成果を学科会議で共有し、組織知として蓄積する。授業評価、国家試験分析、実習先評価をもとに、授業設計、学習支援、ICT活用、学生指導に関する研修テーマを設定する。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にを行っているか	学会、研究会、職能団体、企業・医療機関の研修等に参加し、知識・技術の更新をしている他、実習指導者・技士長・卒業生・教育課程編成委員からの意見聴取等もしている。	関連業界・実習施設との連携により、最新の臨床動向を教育へ反映できる。 一方、医療機器、治療技術、法規・規格の変化が速く、研修の参加と情報共有が課題。	学会・研究会・企業セミナー・実習施設訪問で得た情報を各会議で共有し、シラバス・教材・実習前指導・国家試験対策へ反映する。教員の専門に応じ研修を計画し、実施していく。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にを行っているか	研修やカリキュラムアンケートの共有や授業運営検討により、授業力・指導力の向上を図り、実習施設や業界の評価・意見を踏まえ、医療安全・接遇・主体的学習態度の指導方法も改善している。	学生の多様化により、基礎学力不足、学習習慣の未形成、主体性不足に対応する指導力が求められる。ICT活用、アクティブラーニング、実技評価等を教員間で共有し、指導を平準化が課題。	臨床実習施設、就職先等から得た意見を、FD研修や会議で取り上げ、授業方法及び学生指導方法の改善につなげる。医療安全意識、コミュニケーション、職業人形成の指導力向上を図る。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修計画・研修資料・研修報告・講師会議資料・カリキュラムアンケート・教育課程編成委員会議事録・学会参加記録・学校HP・教務会議資料	教員の資質向上は、学園全体のFD・SD研修、授業評価、公開授業、学科会議等を通じて組織的に進めている。専門領域では、学会・研究会・実習施設・関連業界との連携により、実務知識・技術を継続的に更新している。今後は、研修成果を学科内で共有し、基礎学力差、主体性、医療者態度、ICT活用に対応できる指導力の平準化と向上を図る。	4-3-1 3.0 4-3-2 3.0 4-3-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	前田 直人
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【臨床工学技士科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	法人・校内研修への計画的な参加や授業見学等のFD活動を通じて教育方法・授業内容の改善に取り組み、学会参加等による自己研鑽・研究成果を授業や学生指導に反映している。	研修や学会活動、FD活動を通じて専門性・教育力の向上と教育活動の改善に取り組んでいる。一方で、医療技術や教育手法の進歩に対応するため、専門性向上やICTを活用の充実に継続して進める必要がある。	研修・学会への参加やFD活動を通じ教育方法等の改善、専門性・教育力の向上に努める。医療DXに関する知見を活かし、教職員間で共有し教育の質向上と学生指導充実に繋げる。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にを行っているか	病院・企業・業界団体等と連携し、研修や学会等へ計画的に参加して知識・技術の向上を図るとともに、現場の最新動向を授業や学生指導に反映している。	病院や関連企業等との連携から、教員の知識・技術向上を図れ、学会等で得た知見を教育活動に活用できている。一方で、医療技術等の進歩へ対応する必要がある。	病院や企業、業界団体との連携を強化し、学会や研修会への参加も推進する。得た現場の情報を教育活動に反映する。また医療DX等の新技術を活用し教育の質を向上する。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にを行っているか	企業や業界団体等と連携した研修を行っている。また授業見学や各種セミナーを通して、授業力・指導力の向上や、共有した知見を活かして、授業改善や学生指導を行っている。	FD活動や研修を通じて授業力・指導力の向上が図れ、企業・業界から得た知見を教育に活かしている。一方、学生の多様化やICTの活用など教育環境の変化への対応が必要。	FD活動や企業・業界と連携した研修への継続的に参加する。更に最新の教育手法を用いて授業力・学生指導力の向上を図り、研修成果を共有して、教育の質向上に努める。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修計画・研修資料・研修報告・講師会議資料・カリキュラムアンケート・教育課程編成委員会議事録・学会参加記録・学校HP・教務会議資料	学園内外の研修や学会・セミナー、授業見学、カリキュラムアンケート等を活用し授業内容と学生指導の改善に取り組み、業界との連携や教育課程編成委員会、臨地実習施設との情報交換を通じて現場のニーズや最新動向を教育へ反映している。研修成果は教職員間で共有し、授業改善や学生支援の充実に繋げ、夜間部の特性を踏まえた教育力・指導力の向上と、実践力のある臨床工学技士の育成に努めている。	4-3-1 3.0 4-3-2 3.0 4-3-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	澤田 正二
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【臨床工学技士専攻科】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	・教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ・教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	学園内役職別研修・学内研修、教職員研修への参加を計画的に実施している。	学園・学校全体の組織的な研修や勉強会、カリキュラムアンケートのフィードバックは、教育の改善や向上に繋がっている。 業務過多な中で更に充実・継続的な向上が非常に厳しい。	学園の研修会や学内の勉強会へ積極的・継続的に参加し、より一層の教育技術の向上を図る。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【注）職業実践専門課程】	・職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的に行っているか	血液浄化・呼吸療法・体外循環・高気圧療法やロボット手術など新しい分野の知識・技術を習得し、専門性を高めるために、関連学会、研修会、臨床実習施設との情報交換等を行っている。	専門分野の学会参加や研究会・勉強会を通しての知識の向上・技術の習得は行えている。 医療技術や医療機器の進歩が著しく、最新の知識・技術を学び、教育へ反映が追い付いていないのが現状である。	臨床工学技士に囚われず、医療全般の知識・技術向上に取り組む姿勢を身に付ける。 引き続き、学会・研究会・勉強会へ積極的に参加する。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【注）職業実践専門課程】	・職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的に行っているか	実習系科目においては、業者・メーカーの協力を仰ぎ、一般的な医療機器や最新の医療機器の情報や知識・技術が習得できるよう講義・実習に取り入れている。	多くの経験と個別案件の検討により、様々な事例でメンタル的側面の援助ができています。 医療技術・医療機器の進歩や教育手法の進化から、ICTの活用や個別指導が必須である。	日本教育学会や工学教育学会、日本自閉スペクトラム学会へも参加し、教育に対する見識を深める。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教職員研修記録、FD研修資料、学科会議議事録、講師会議議事録、カリキュラムアンケート結果、シラバス、国家試験対策資料	教員の資質向上のために、学園内研修や各専門分野の学会に参加し、知識・技術のアップデートを行っている。教務会議や学科会議、カリキュラムアンケート、講師会議などで問題点や課題を洗い出し、改善している。国家試験に関しては、問題の解析を通して、傾向や重点項目を抽出し教育内容の最適化に努めている。	4-3-1 3.0 4-3-2 3.0 4-3-3 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【診療放射線技師学科（昼間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	校内研修、FD研修、学科会議等を通じて、授業内容や指導方法の改善に取り組んでいる。学生指導、成績評価、臨床実習指導、国家試験対策等について教員間で情報共有を行っている。	教員間で学生情報や成績状況を共有し、学科全体で教育改善に取り組んでいる。一方で、学生の基礎学力差や学習習慣の多様化に対応するため、授業方法や個別支援の工夫が必要である。	FD研修や学科会議を継続し、授業改善や学生支援に関する情報共有を強化する。授業アンケートや成績状況を活用し、補習や個別支援につなげる。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にを行っているか	診療画像検査、放射線治療、核医学、医療安全、放射線防護等の専門性を高めるため、関連学会、研修会、臨床実習施設との情報交換等を行っている。	臨床現場や関連分野の情報を教育内容に反映できている点が長所である。一方で、医療技術や安全管理の変化に対応するため、継続的な情報収集と教育内容の更新が必要である。	関連学会、研修会、臨床実習施設訪問等を通じて最新情報を収集する。得られた情報を学科会議等で共有し、シラバスや授業資料に反映させる。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にを行っているか	教員の授業力及び学生指導力の向上を図るため、法人内研修、校内研修、FD研修、講師会議等を活用している。	学科として統一した指導を行う体制が整っている。一方で、学生の理解度に差があるため、わかりやすい授業展開やICT活用、個別支援の充実が必要である。	授業アンケート、成績状況、国家試験模擬試験結果等を活用し、授業方法や支援方法を改善する。FD研修や教員間の情報共有を通じて、教育力の向上を図る。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修記録、FD研修資料、学科会議議事録、講師会議議事録、授業アンケート結果、シラバス、国家試験対策資料	校内研修、FD研修、学科会議等を通じて、教員の資質向上と教育内容の改善に取り組んでいる。専門分野の知識・技術についても、関連学会や研修会、臨床実習施設との情報交換を通じて教育内容に反映している。今後も、学生の学修状況に応じた授業改善、個別支援、国家試験対策の充実を図る。	4-3-1 3.0 4-3-2 2.0 4-3-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上 【診療放射線技師学科（夜間部）】

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なFD活動に取り組んでいるか	校内研修、FD研修、学科会議等を通じて、授業内容や指導方法の改善に取り組んでいる。夜間部学生の学修状況を踏まえ、学生指導、成績評価、臨床実習指導、国家試験対策等について教員間で情報共有している。	教員間で学生情報や成績状況を共有し、学科全体で教育改善に取り組んでいる。 一方で、夜間部では学修歴や生活背景が多様であるため、授業方法や個別支援の工夫が必要である。	FD研修や学科会議を継続し、授業改善や学生支援に関する情報共有を強化する。授業アンケートや成績状況を活用し、夜間部学生の状況に応じた補習や個別支援につなげる。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にを行っているか	診療画像検査、放射線治療、核医学、医療安全、放射線防護等の専門性を高めるため、関連学会、研修会、臨床実習施設との情報交換等を行っている。	臨床現場や関連分野の情報を教育内容に反映できている。 一方で、医療技術や安全管理の変化に対応するため、継続的な情報収集と教育内容の更新が必要である。	関連学会、研修会、臨床実習施設訪問等を通じて最新情報を収集する。得られた情報を学科会議等で共有し、シラバスや授業資料、実習前教育に反映させる。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にを行っているか	教員の授業力及び学生指導力の向上を図るため、法人内研修、校内研修、FD研修、講師会議等を活用している。	学科として統一した指導を行う体制が整っている。 一方で、学生の理解度に差があるため、わかりやすい授業展開やICT活用、個別支援の充実が必要である。	授業アンケート、成績状況、国家試験模擬試験結果等を活用し、授業方法や支援方法を改善する。FD研修や教員間の情報共有を通じて、教育力の向上を図る。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
教員研修記録、FD研修資料、学科会議議事録、講師会議議事録、授業アンケート結果、シラバス、国家試験対策資料	校内研修、FD研修、学科会議等を通じて、教員の資質向上と教育内容の改善に取り組んでいる。専門分野の知識・技術についても、関連学会や研修会、臨床実習施設との情報交換を通じて教育内容に反映している。今後も、夜間部学生の学修状況に応じた授業改善、個別支援、国家試験対策の充実を図る。	4-3-1 3.0 4-3-2 2.0 4-3-3 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	泉谷 信行
--------	-----------	-------	-------

基準 5 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
法令に基づき実習室や機器を整備し、姉妹校との連携や IT による管理、関連企業による定期点検を通じて、質の高い教育環境を維持している。また、防災マニュアルの毎年更新や避難訓練の実施、設備の固定など、安全管理体制も適切に構築している。 一方で課題として、一部施設で計画を想定外の劣化により改修に遅れが生じている点や、避難訓練の形骸化が挙げられる。今後は、使用状況に応じた物品選定の見直しや、新任職員を中心とした訓練運営による意識付けを行い、管理体制の強化と防災意識の向上を継続していく必要がある。	教育環境の改善に向け、施設・設備の劣化状況や使用実態を確認し、次期更新時にはより実態に即した物品選定や管理手法の見直しを行います。同時にオンライン上での設備管理を強化し、可視化による利便性向上を推進する。 安全対策では、形骸化が懸念される避難訓練を活性化するため、新任職員には意識付けや消火訓練を継続して実施する。さらに、環境安全衛生委員会による定期的な監査や情報共有を維持することで、改修漏れの防止と防災体制の不断の見直しを組織的に実施し、より安全で質の高い教育環境の維持・発展を目指す。	1. 専門教育を支える施設・設備管理 多岐にわたる専門職を育成しており、これらの教育課程に対応するため、法令に準じた最新の实習室や機器を整備している。また、Web による教室利用管理や、写真を用いた「修理申請システム」を導入しており、不具合が発生した際に関連企業が即座に対応できる高度な管理体制を構築している。 2. ネットワーク活用（特殊な事情） 姉妹校との連携により体育館や運動場、学生ホールなどを共同利用しており、都市型の専門学校でありながら充実した施設環境を確保している。また、グループサポート企業との提携により、設備の点検・メンテナンスや学生保険の加入、耐震化対策などが組織的に徹底されている。 3. 組織的な安全管理 「環境安全衛生委員会」を設置し、定期的な委員会実施や内部監査を通じて、施設・設備の故障や改修状況を組織全体で共有している。
	自己評価 3.0	

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------

基準 5 教育環境

5-1 (1/1)

5-1 教育環境の整備点検、改善等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-1-1 専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。（補修、更新含む）	○当該専門学校における教育課程を実施するために必要、かつ十分な施設と、学生数、教育内容、教育方法に対応するための設備を整備し、十分活用しているか、 ○施設、設備について適宜点検し、計画的に改修、補修等を適切に行っているか	設置基準に基づき、実習室および実習機器等を整備し、状況に応じて入れ替えも行っている。Webにて教室数や利用状況を管理・運営している。体育館・運動場については姉妹校と連携し、食堂・学生ホールも設置している。図書室は本館および第2校舎に設置し、利用状況を把握した上で、新規図書購入も行っている。関連企業と提携し定期的な清掃および点検・メンテナンスを実施し、破損時には早急に対応している。また、短中期・長期の計画に基づいて予算を執行し、設備の更新を行っている。	【長所】 提携校との連携により、より多くの設備やソフトを提供することが可能になっている。 【課題】 長期修繕計画を立て、計画的に施設改修計画を進めているが、一部計画よりも劣化の早いものが発生する場合があります、一部遅れが発生している。	【長所の伸長】 オンラインを用いて設備・ソフトの有無や使用状況を可視化することにより、利便性の向上を目指す。 【課題の解決策】 使用状況確認と使用方法の見直しを行い、次回購入時に今回の状況を考慮し、物品の選定をおこなう。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・養成校指定規則・教室使用台帳（ガルーン）・棚卸備品台帳・施設設備年次計画表・図書管理台帳・校舎施設利用管理	環境安全衛生委員を任命し、定期的に環境安全衛生委員会を実施し、施設の故障や改修状況について情報共有を行い、改修漏れを防いでいる。施設設備で修理や故障が発生した際には、写真を撮影し学園の修理申請システムにアップロードすることで、関連企業が即座に対応できる体制が構築されている。あわせて、関連企業にサポートを依頼し、施設設備の管理も定期的に行っている。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------

5-2 安全対策、防災組織

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-2-1 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	○学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、火災の発生及び大規模災害発生時並びに授業中の安全管理等において、適切に対応しているか	防災マニュアルを校舎ごとに作成し保管。毎年内容をみなおしている。その上で災害発生時に対し速やかに対応できるよう役割分担を決めている。 校舎の耐震化に関しても管理会社と提携し対応。 毎年1回避難訓練を実施している。 棚、機器など災害時転倒防止として固定設置を施している。 「教育指導要領」に基づき学生・教職員とも「学生規程」の施設・実習室の使用規程を設け指導している。	【長所】 グループサポート企業による機器関連、学生保険など保険の加入など徹底して行えている。防災マニュアルに関しても毎年内容確認し実用性のあるものを意識して作成できている。 【課題】 避難訓練等が、多少形骸化してきており、今一度、役割や避難誘導等に関し緊張感を持つ必要性がある。	【伸長策】 学内での会議や総括研修などを通して、教職員への周知徹底を継続して行っている。 【改善策】 年一度の消防避難訓練時に新しい職員の方を中心に運営し意識付けを行っている。あわせて消火訓練も新しい教職員は必須事項としている。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・避難訓練マニュアル ・防災訓練マニュアル ・広域避難場所 MAP ・学生便覧・教育指導要領	環境安全衛生委員会や、内部監査等で、定期的にチェックを行うことにより、課題は大きく改善できている。災害時に備えての施設・設備などの安全管理（固定設置等）を行うと共に防災訓練（消防避難訓練）を全学生、教職員に対し実施要領どおり、消防署の指導の基、実施している。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福原 博明
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育活動の基盤と情報の公表

総括と課題	今後の改善方策	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
5か年計画に基づき策定される毎年度の事業計画や、諸規程に厳格に則った透明性の高い意思決定システムを確立し、極めて健全かつ適切な学校運営を実践している。18歳人口の減少や同業養成校の増加といった厳しい外部環境のなかにあっても、医療やスポーツなど社会的な需要が極めて高い分野の学科・コース再編を機敏に実施することで、学校としての教育価値を堅持し、債務超過のない堅実な財務基盤を維持している。また、平成23年度から取り組んでいる全教職員参画型の自己評価や、平成25年度からの学校関係者評価を継続しており、その詳細な報告書をホームページで網羅的に全公開するなど、社会的説明責任を果たす高い情報公開体制を築いている。 策定された中長期計画の進捗状況を測る定量的な指標（KPI）の設定や、教職員個人の年度目標管理（MBO）との具体的な連動が十分ではない点が課題として残る。さらに、透明性を重視する反面、多層的な会議体に時間を要するため、急激な業界変化やDX化に即応するための意思決定の迅速化、および従来のテキスト主体の報告書に留まらない、受験生や産業界などの対象者に合わせた戦略的で分かりやすい情報発信の強化も求められている。	中長期計画の実効性を確固たるものにするため、中期目標の達成度を定量的に測定する主要業績評価指標（KPI）を導入し、これを教職員個人の年度目標管理（MBO）と有機的に連動させる人事・管理評価の構築を目指す。運営体制の面では、意思決定のさらなるスピードアップに向けて会議体の簡素化やオンラインの活用を進めるほか、軽微な事案については現場への一部権限委譲を検討し、業界の最新動向に即応できる機動的な体制づくりを目指す。 教職員の資質向上を目的としたSD活動においては、これまでの学園共通の一斉研修を基盤としつつ、職種や個人の課題に応じた選択型eラーニングの導入や外部専門研修への参加支援し、DXや広報マーケティング、生成AI活用といった個々の専門スキルを深化させる。情報の公表についても、これまでの網羅的なテキスト開示だけでなく、動画やSNSなどの多様なデジタルメディアを戦略的に連動させ、最新の教育実践の成果や地域貢献の取り組みを、ステークホルダーへタイムリーかつ魅力的に届ける発信体制へと進化させる。	業界と直結した「産学協同教育システム」を軸に、臨床・実験設備やICT環境、DX教育へ継続的な投資を行い、教育環境を社会へ提示している点にある。組織的には、教職員が一丸となって学生一人ひとりを手厚くサポートする「教職一体」の風土が深く根づいており、クラス担任制やキャリアセンターが学科の枠を越えて有機的に連携することで、資格取得実績や、就職実績という確かな成果を出している。 また、第三者である外部の業界関係者や保護者、卒業生代表などで構成される「学校関係者評価委員会」を実施し、そこで得られた有益な意見や提言を、翌年度以降の学校運営やカリキュラム改革の具体的な改善施策へ反映させている。このように構築してきた組織的透明性と、長年の自己評価実績を伴う信頼の基盤を活かし、今後も産業界、高等学校、自治体、地域社会から多大な理解と評価を得られる、地域社会に深く根ざした実践的職業教育機関としてのロールモデルを目指す。
	自己評価 2.9	

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
--------	-----------	-------	-------

基準 6 教育活動の基盤と情報の公表

6-1 (1/1)

6-1 中期事業計画と財務基盤

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-1-1 当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	○当該専門学校の目的を実現するために、実効性のある具体的な中長期的計画が策定されているか ○設置法人が策定している場合は、計画上に当該専門学校における教育等の内容が明確に位置付けられているか ○計画の進捗状況、組織上の役割分担、計画の見直しなど計画の遂行の実効性は十分か	法人内では学校ごとに5か年計画を策定しており、学校教職員に対して様々な行事や会議を通じて理解と共有を図っている。事業計画は5か年計画に基づいて毎年度作成され、年度目標、予算、運営体制、職務分掌が明記されている。	【長所】5か年計画に基づき目標や予算が事業計画に明記され、会議等で全教職員に共有する仕組みが定着している。 【課題】計画の共有に留まり、DXの加速や新資格設置など急速な業界変化に対応するための「計画の進捗状況の定量的な測定」や、教職員個々の目標管理（MBO）との連動に改善の余地がある。	【伸長策】5か年計画の共有体制を活かし、業界の最新ニーズを先取りした「産学協同教育」の強化目標を年度計画に連動させて強みを伸ばす。 【解決策】中期目標の達成度を測る主要業績評価指標（KPI）を導入し、教職員個人の年度目標と連動させる仕組みを構築。変化に強い機動的な計画推進体制へと進化させる。
6-1-2 当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。【注）修学支援新制度機関要件の確認】 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○中期事業計画を実行し、当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか、不十分な場合は改善に向けた計画を策定しているか	18歳人口減少と養成校増加により、学生の募集状況が厳しくなっているが、カリキュラム再編やコース設定を通じ、魅力ある学科・学校づくりが可能となり、負債の総資産に対する割合は基準を満たしており、債務超過にはなっていない。	【長所】少子化の中でも医療やスポーツ等の需要に合わせた学科再編を行い、健全な財務体質を堅持している。 【課題】安全性を保つ一方、学生募集の変動が財務に響くため、学費以外の収益確保や経費効率化が求められる。	【伸長策】健全な財務を活かし、最先端の実験設備やICT環境へ継続投資を行い、学校の魅力を高める。 【解決策】学園のネットワークを活用し、社会人向けリカレント教育等の新事業を展開して収益源を多角化する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・決算報告書（HPにて公開） ・事業計画書	事業計画の運用状況を四半期ごとに確認し、過去と将来の分析に基づき学生数増加による収入増と経費見直しで資金増加を図っている。	6-1-1 3.0 6-1-2 3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	富士 暁也
--------	-----------	-------	-------

6-2 学校運営

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-2-1 学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	○当該専門学校の全体の運営について、事務組織体制を整備し、業務分担、責任体制が明確になっているか ○教員と職員による連携体制を確保しているか ○校長による意思決定及び執行管理が適切に行われているか	本学の意思決定システムは、学内の各種会議や研修を通じて全教職員に周知されている。また、意思決定のプロセスや基準は、教育課程編成要領や就業規則等の諸規定、ならびに事業計画の中に明示されており、透明性の高い運営を実現している。	【長所】規程等で意思決定の基準が明示され、会議や研修で周知されるなど、透明性の高い学校運営が行われている。 【課題】透明性が高い反面、多層的な会議体に時間を要するため、急変やDX化に即応するための迅速な意思決定に改善の余地がある。	【伸長策】周知の仕組みを活かし、理念やDX方針を教職員全員がより深く共有・体现する「教職一体」の風土をさらに強める。 【解決策】会議体の簡素化や現場への一部権限委譲を進め、変化の激しい業界動向にも柔軟かつスピーディーに対応する。
6-2-2 学校運営に必要な知識・技能等を身に着け、意欲及び資質を向上させるためにSD (Staff Development) 活動などの取組が行われていること。	○学校運営を適切かつ効果的に行うため、学校の管理運営や教育活動等に関わる教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための組織的に研修の機会を設けるなどの取組を行っているか	教職員の資質向上に向け、学園共通のSD研修や学園内でのコンプライアンス研修を組織的に実施している。また、医療技術の高度化やDX化に対応するため、事務職員の専門業務に関する研修機会の確保に努めている。	【長所】学園にて体系的なSD研修が組まれており、階層に応じた知識・技能の習得と理念の共有が組織的に図られている。 【課題】一斉研修が中心であるため、DXやAI活用、広報マーケティングなど、個々の職掌や専門性に特化した個別スキルの深化に改善の余地がある。	【伸長策】研修基盤を活かし、システム導入に対応した、教職一体で取り組む先進的なSDプログラムを開発・展開する。 【解決策】職種や個人課題に応じた選択型E-learningや外部研修への参加支援を制度化し、専門性の高い人材を育成する。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
・学則 ・学生便覧・教育指導要領 ・各種会議・委員会議事録	意思決定プロセスの明示と全教職員への周知により、透明な運営を実現している。今後は「教職一体」の理念共有をさらに深めつつ、会議体の再編や権限委譲を進めることで意思決定を迅速化し、業界変化に即応できる機動的な組織運営を徹底する。	6-1-1 3.0 6-1-2 2.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------

6-3 社会からの理解と情報の公表

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-3-1 当該専修学校の教育活動、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表し、継続する教育機関、産業界、自治体等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取り組んでいること。	○自己点検・評価結果をはじめ、公表が求められている教育情報について適切に公表し、説明責任を果たしているか ○当該専門学校の教育内容等が社会から理解を得られるように、特に産業界等への積極的な取組が行われているか ○教育課程の編成、実施など実践的な職業教育の展開、改善・向上に向け、継続する教育機関（高等学校等）、産業界、自治体等からの意見を積極的に聴取し、活用しているか	学校全体および各学科の教育情報は、学内の委員会や会議でデータ収集され、学校ホームページでも公開されている。 本校では規定に基づき平成23年度以降、全教職員が参画して自己評価報告書を作成し、学校運営の改善に役立てており、報告書は学校ホームページで公開・更新されている。また、学校関係者評価委員会は平成25年度より規定を設けて実施し、外部の業界関係者、保護者、卒業生などの代表を委員に委嘱。その意見をもとに学校運営の改善を図り、評価報告書を学校ホームページで公開している。	【長所】 平成23年度からの自己評価や平成25年度からの学校関係者評価を継続し、報告書をHPで全公開するなど、長年にわたり透明性の高い情報発信を行っている。 【課題】 各種報告書の網羅的な公開には至っているが、テキスト主体の公表に留まっており、受験生や地域、産業界などの対象者に合わせた、より分かりやすく戦略的な広報・情報発信には改善の余地がある。	【伸長策】 実績ある情報公開体制を基盤とし、本校の強みである「産学協同教育」の成果や教育実績のデータをグラフ等で視覚的に集約し、信頼できる専門学校としての魅力を対外的に強く発信する。 【解決策】 動画やSNS等の多様なメディアを連動させ、最新のDX教育や地域貢献の取組みをステークホルダーへタイムリーに届け、社会全体からのさらなる理解と評価獲得を目指す。

参照資料	中項目総括	中項目の評定
学校ホームページ	本校は長年にわたり自己評価や学校関係者評価を継続し、HPで全公開するなど透明性の高い運営を行っている。今後はこの情報公開体制を活かし、産学連携や教育実績を視覚的に集約して魅力発信を検討する。	3.0

最終更新日付	2026年6月1日	記載責任者	福士 暁也
--------	-----------	-------	-------